

名古屋市社会福祉協議会
高齢者・共生型サロン実態把握調査
報告書

平成 31 年 3 月

社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

目 次

はじめに	1
第1編 統計データ編	
第1章 基本指標	2
(1) 人口	2
(2) 要支援・要介護者数の推移	5
第2章 ふれあい・いきいきサロン設置状況	7
(1) ふれあい・いきいきサロンの区別設置把握数	7
(2) サロン設置年度推移	8
(3) 区ごとのサロン設置状況	9
第3章 ふれあい・いきいきサロン活動状況	25
(1) サロンの担い手内訳	25
(2) サロン会場の内訳	26
(3) サロンの開催頻度	27
第2編 サロンアンケート編	
序論 調査の概要	28
(1) 調査の目的	28
(2) 調査の概要	28
(3) 報告書の見方	28
第1章 代表者のプロフィール	29
(1) サロンの開催地区	29
(2) サロンの開始年月	30
(3) サロンの運営母体	31
(4) 代表者の性別	32
(5) 代表者の年齢	32
(6) ボランティアの登録人数	33
第2章 サロンの概要	35
(1) サロン会場の種別	35
(2) サロン会場の設備	36
(3) サロンの開催頻度	37
(4) サロン1回あたりの所要時間	37
(5) サロンの活動する時間帯及び曜日	38
(6) サロン1回あたりの参加者数	39
(7) サロン1回あたりの参加費	39
(8) サロン参加者の男女比	40
(9) サロン参加者の平均年齢	40
(10) サロン開設時と比較した参加者数の変化	41
(11) サロンをはじめたきっかけ	42
(12) サロンの頻度の高いプログラム	43
(13) 特に喜ばれるプログラム	44
第3章 サロンの経費や助成制度	45
(1) 1回開催あたりの必要経費	45
(2) サロン開催費用の内容	46
(3) サロンの運営費（収入）の状況	47
(4) 利用している助成金や補助金	49
第4章 サロン運営の状況について	51
(1) 連絡・連携している団体や機関	51
(2) サロン活動継続のために心がけていることや取り組んでいること	53
(3) 参加者の困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいること	53
(4) 現在のサロンの運営状況	57

(5) 活動上の悩みや困っていること	59
第5章 サロン活動の効果及び今後の支援策	61
(1) サロン活動の参加者への効果	61
(2) サロン活動のサロンへの効果	62
(3) サロン活動への代表者の思い	63
(4) 今後の発展のために必要だと思うこと	64
(5) サロン運営について日ごろ感じていることについて	66
第6章 参加者のプロフィール	69
(1) サロンの開催地区	69
(2) 参加者の性別	70
(3) 参加者の年齢	70
(4) 参加者の家族構成	71
(5) 参加者の介護保険認定の有無	71
(6) 収入を得る仕事	72
(7) 現在の健康状態	72
(8) 地域内で参加している活動	73
第7章 参加しているサロンについて	74
(1) サロン会場までの徒歩による片道移動時間	74
(2) サロン会場までの1番多い移動手段	75
(3) サロンに参加する理由	76
(4) サロン参加年数	78
(5) サロン参加費	79
(6) サロンに対する満足度	81
(7) サロンに関する情報の入手先	83
第8章 サロン参加以前と比較した効果	85
(1) サロンへの参加を通じて感じている①自分自身の変化	85
(2) サロンへの参加を通じて感じている②地域とのつながり	87
第9章 日常の行動や感じていること	88
(1) 今後のサロン活動に必要なこと	88
(2) 充実すべきプログラム・内容	90
(3) 困りごとの相談相手	92
(4) 日ごろ感じていることについて	94
第10章 調査票	96
(1) サロン代表者向けアンケート	96
(2) サロン参加者向けアンケート	103
第3編 事業効果及びサロンへの課題検証編	
第1章 サロンを始めた・参加したことによる状況変化	109
(1) サロンに関わることによる効果	109
(2) 参加者がサロンに参加する理由	111
(3) 代表者がサロンをはじめたきっかけ	112
(4) サロンを始めた・参加したことによる状況変化概念図	113
第2章 高齢者の健康維持効果	114
(1) 検証結果	114
(2) 検証詳細	114
第3章 サロン活動の拡大とサロンの機能強化	116
(1) サロン活動の拡大、機能強化に向けての課題①「参加者の多様化」	117
(2) サロン活動の拡大、機能強化に向けての課題②「プログラムの充実」	119
(3) サロン活動の拡大、機能強化に向けての課題③「参加者との交流方法の多様化」	121
(4) 社会福祉協議会に期待する支援策	123

はじめに

「ふれあい・いきいきサロン活動」は、平成 12 年度に介護保険制度が施行され、公的サービスが拡充されるなかで、高齢者や障がい者、子育て中の親子などの方々が、身近な場所で気軽に仲間づくりや生きがいを進め、地域でいつまでもいきいきと暮らせることを目指す住民主体の交流活動として全国的に発展・拡充されてきた取り組みです。

わたしたち名古屋市・区社会福祉協議会においても、平成 15 年度から高齢者サロンの開設時に 5 万円を上限として助成を行う「ふれあい・いきいきサロン推進事業」を創設し、平成 17 年度からは子育てサロンや障がい者サロン、共生型サロンへ助成対象を拡大するなど、市内の幅広い世代を対象としたサロン活動を支援するとともに、サロン実践者向けの「研修・交流会」を開催するなど、サロン活動の理解普及の促進にも取り組んできました。

また、「介護予防・日常生活支援総合事業」が本格実施された平成 29 年度以降は、高齢者サロンや共生型サロンは、高齢者の孤立感や孤独感の解消、介護予防など様々な効果があるとされ、身近な地域で参加者とボランティアとが一緒になって企画をし、住民主体で運営をしていくという点で助け合いのある地域づくりにつながる重要な地域福祉活動のひとつとして、より一層の発展・拡充が求められています。

こうしたなかで、名古屋市・区社会福祉協議会では、平成 27 年度から名古屋市より「高齢者サロンの整備等生活支援推進事業」を受託するとともに、各区社協を「サロンなんでも相談所」と位置付けて、市内における多様なサロン活動の支援に取り組んでいます。

そこで、今後サロンの整備等推進をより一層効果的・効率的に進めるため、サロンの運営ボランティア・参加者の現状や参加後の変化、サロン活動上での課題・要望などを把握し、安心してサロン活動が推進できる取り組みや支援等について検証することを目的に「高齢者・共生型サロン実態把握調査」を実施し、その調査結果を広く関係者の皆様に報告することとしました。本報告書が多くの皆様に活用され、サロン活動のますますの活性化に向けた様々な取り組みの参考となれば幸いです。

最後に、本報告書の作成にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

平成 31 年 3 月
社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

※ 以下の表中の数値は、小数点以下などを四捨五入で処理しているものが含まれるため、表記上の内訳と合計等が一致しない場合があります。

(1) 人口

① 名古屋市の人口の状況

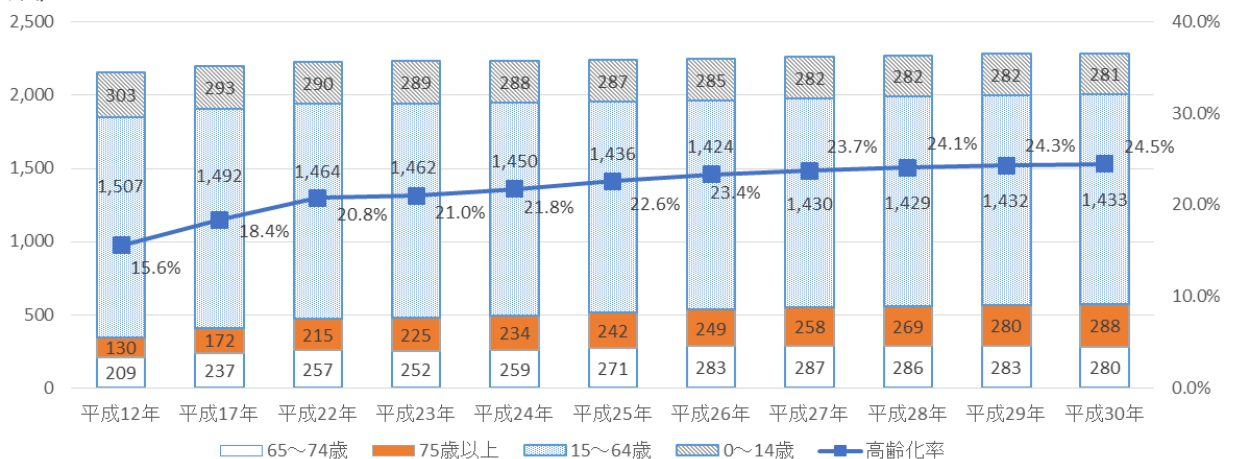
名古屋市の人口は、平成12年以降5年ごとに約4万人程度増加していました。しかし、平成23年から30年の7年間は約1万人の増加となっており、平成30年には2,320,361人となり、増加傾向にやや落ち着きがみられます。

年齢3区分別(14歳以下、15歳～64歳、65歳以上)の人口推移を見ると、14歳以下の人口及び生産年齢人口である15歳～64歳は平成12年をピークに減少し、ここ4年間は、ほぼ横ばい状態です。一方で、65歳以上の高齢者人口比率を見てみると、平成12年15.6%から平成30年には24.5%と一貫して増加しています。

図表1-1-1 名古屋市の人口の推移

年	総人口(人)	0～14歳(人)	15～64歳(人)	65歳以上(人)	高齢者人口(人)		高齢化率(%)
					65～74歳(人)	75歳以上(人)	
平成12年	2,171,557	303,272	1,506,882	338,795	209,226	129,569	15.6%
平成17年	2,215,062	293,405	1,492,010	408,558	237,000	171,558	18.4%
平成22年	2,263,894	289,642	1,463,977	471,879	256,719	215,160	20.8%
平成23年	2,266,517	289,416	1,461,973	476,737	251,889	224,848	21.0%
平成24年	2,266,851	287,825	1,449,925	493,332	258,906	234,426	21.8%
平成25年	2,271,380	286,519	1,436,084	513,008	270,898	242,110	22.6%
平成26年	2,276,590	285,283	1,423,843	531,696	282,706	248,990	23.4%
平成27年	2,295,638	282,497	1,429,795	545,210	286,856	258,354	23.7%
平成28年	2,304,794	282,397	1,429,460	554,801	285,936	268,865	24.1%
平成29年	2,314,125	281,992	1,432,006	562,879	282,888	279,991	24.3%
平成30年	2,320,361	281,260	1,432,719	568,280	280,151	288,129	24.5%

人口(千人)



出典：国勢調査、平成23年～30年は名古屋市統計年鑑

② 区別の高齢者の状況

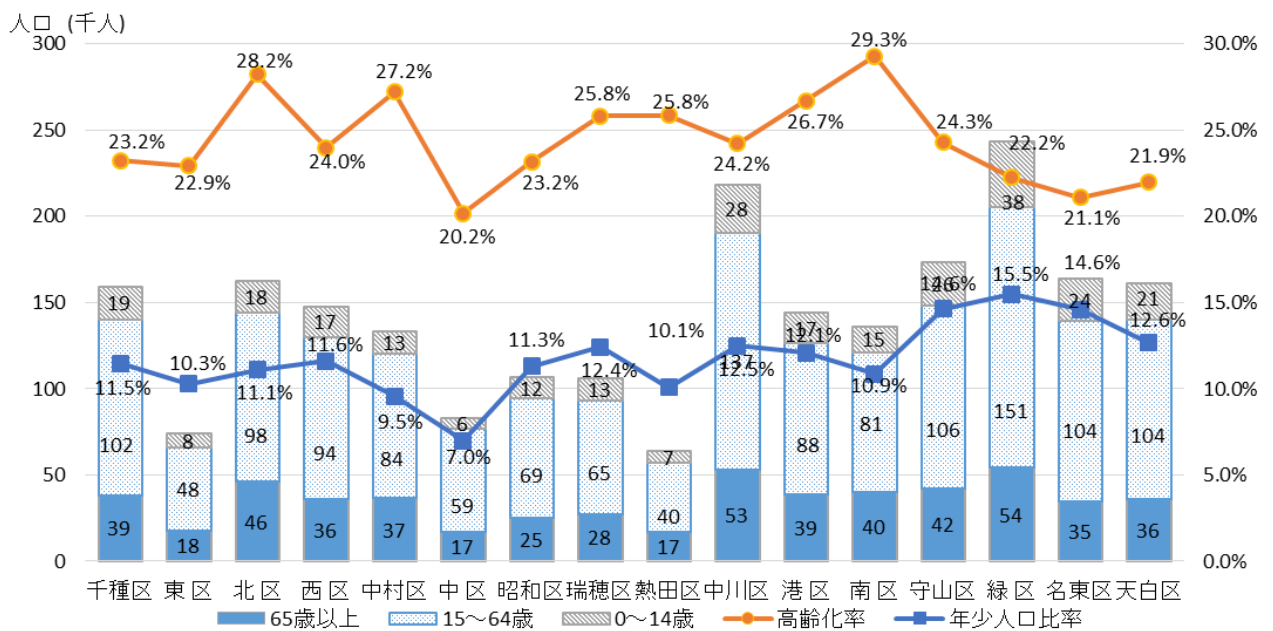
平成 29 年現在の区別の人口を見ると東区、中区、昭和区、瑞穂区、熱田区以外の 11 区で高齢者が 3 万 5 千人を超えています。

高齢化率で見ても、全ての区で高齢化率が 20% を上回っており、北区、中村区、港区、南区、瑞穂区、熱田区の 6 区では高齢化率が非常に高く 25% を上回っています。

年少人口比率では緑区が 15.5%、守山区及び名東区がそれぞれ 14.6% となっていますが中村区、中区においては 10% を下回っています。また、全ての区で高齢化率が年少人口比率を上回っています。

図表 1-1-2 区別の人口

	人口	0～14歳(人)	15～64歳(人)	65歳以上(人)	高齢化率(%)	年少人口比率(%)
全 市	2,314,125	281,992	1,432,006	562,879	24.3%	12.2%
千種区	166,027	19,033	101,937	38,562	23.2%	11.5%
東 区	79,028	8,124	47,732	18,112	22.9%	10.3%
北 区	163,638	18,128	98,207	46,168	28.2%	11.1%
西 区	149,834	17,371	94,298	35,907	24.0%	11.6%
中村区	134,680	12,846	83,747	36,638	27.2%	9.5%
中 区	86,561	6,024	59,455	17,451	20.2%	7.0%
昭和区	109,186	12,321	69,228	25,284	23.2%	11.3%
瑞穂区	107,048	13,282	65,351	27,625	25.8%	12.4%
熱田区	66,390	6,674	39,951	17,154	25.8%	10.1%
中川区	220,551	27,528	137,241	53,414	24.2%	12.5%
港 区	144,847	17,469	87,875	38,667	26.7%	12.1%
南 区	136,718	14,836	81,217	40,029	29.3%	10.9%
守山区	174,897	25,596	105,762	42,444	24.3%	14.6%
緑 区	244,480	37,776	151,171	54,372	22.2%	15.5%
名東区	166,131	24,253	104,472	35,039	21.1%	14.6%
天白区	164,109	20,731	104,362	36,013	21.9%	12.6%



出典：名古屋市統計年鑑（平成 29 年 10 月 1 日現在）
※人口には年齢不詳を含む

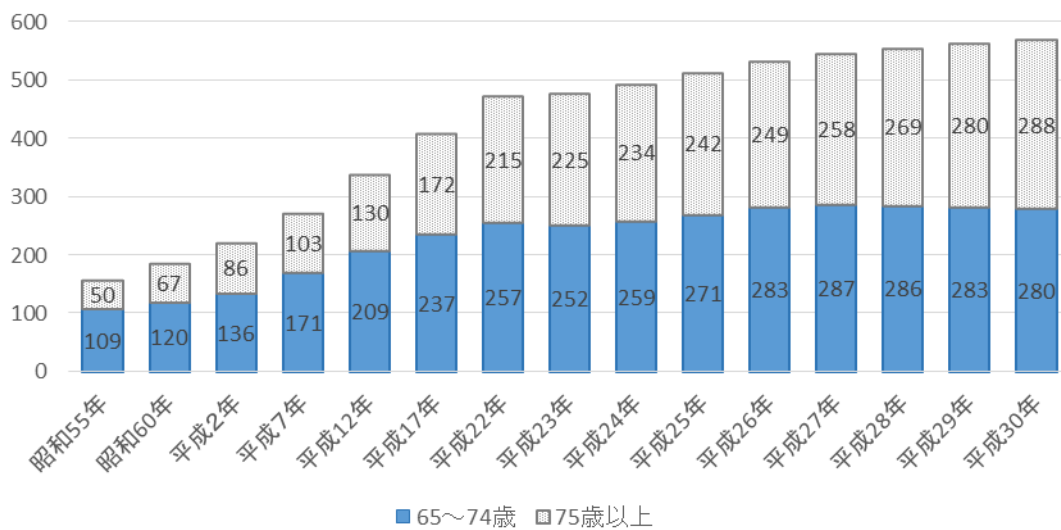
③ 高齢者人口の推移

高齢者人口の推移を見ると、高齢者は昭和 55 年以降一貫して増え続けており、団塊の世代が高齢者として分類され始める平成 23 年頃にとりわけ大きく増加し、平成 30 年には 568,280 人になっています。

平成 30 年時点の 65 歳～74 歳の人口は昭和 55 年と比較して約 3 倍に増加し、75 歳以上の人口は昭和 55 年と比較して約 6 倍まで増加しています。

図表 1-1-3 人口動態の推移

		65歳以上		
			65～74歳	75歳以上
昭和	55年	159,131	108,711	50,420
	60年	186,562	119,795	66,767
平成	2年	221,936	136,035	85,901
	7年	273,397	170,674	102,723
	12年	338,795	209,226	129,569
	17年	408,558	237,000	171,558
	22年	471,879	256,719	215,160
	23年	476,737	251,889	224,848
	24年	493,332	258,906	234,426
	25年	513,008	270,898	242,110
	26年	531,696	282,706	248,990
	27年	545,210	286,856	258,354
	28年	554,801	285,936	268,865
	29年	562,879	282,888	279,991
	30年	568,280	280,151	288,129



出典：国勢調査及び名古屋統計年鑑
※各年 10 月 1 日現在

(2) 要支援・要介護者数の推移

① 市内の要支援・要介護者の状況

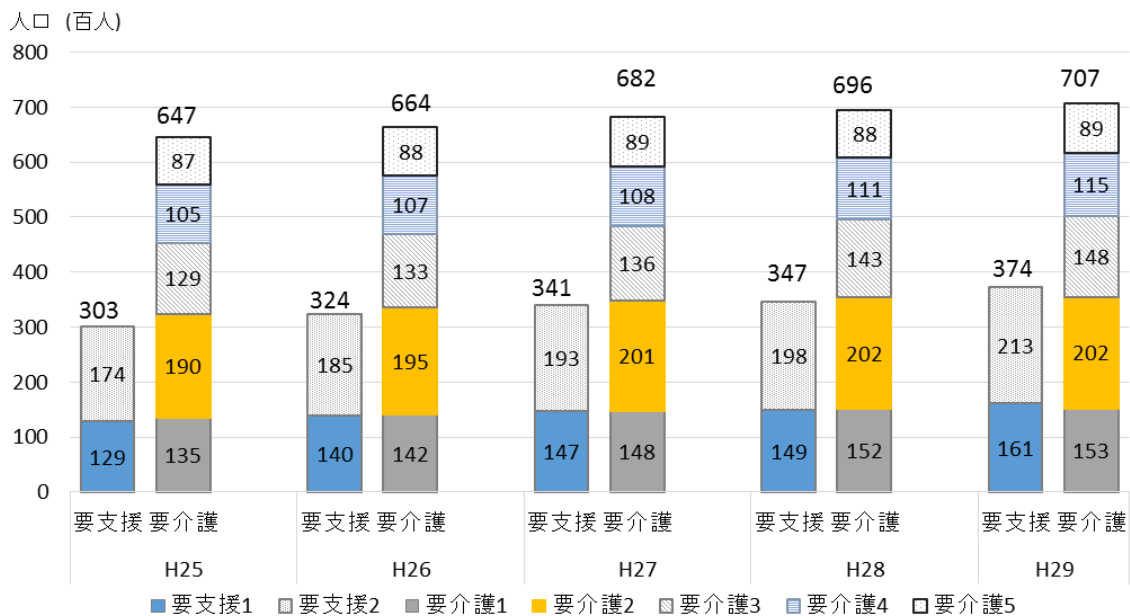
要支援、要介護者は、平成22年以降一貫して増加しており、平成29年度末には108,157人まで増加しています。

平成29年度末時点での要介護度別の状況を平成25年と比較すると、要支援1は約1.25倍に、要支援2は約1.23倍に、要介護1は約1.13倍に、要介護2は約1.07倍に、要介護3は約1.14倍に、要介護4は約1.10倍に、要介護5は1.01倍、128人増加しています。

図表 1-1-4 市内要支援・要介護者数の状況

各年度末（人）

年度	要 支 援			要 介 護						総 計
	小 計	1	2	小 計	1	2	3	4	5	
25	30,261	12,896	17,365	64,676	13,518	18,977	12,939	10,497	8,745	94,937
26	32,438	13,955	18,483	66,388	14,162	19,456	13,335	10,653	8,782	98,826
27	34,064	14,721	19,343	68,236	14,795	20,079	13,637	10,845	8,880	102,300
28	34,749	14,925	19,824	69,603	15,164	20,239	14,310	11,136	8,754	104,352
29	37,447	16,125	21,322	70,710	15,280	20,227	14,791	11,539	8,873	108,157



出典：名古屋市健康福祉年報（平成29年）

② 区別の要支援・要介護者の状況

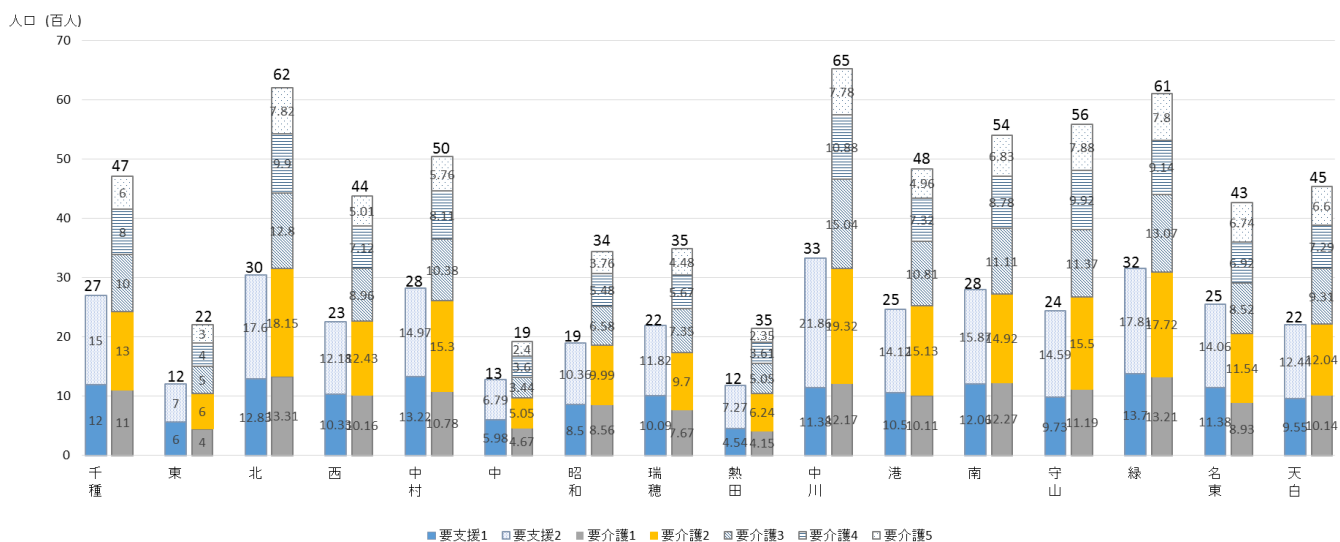
平成 29 年度末時点での区別の要支援・要介護者の状況を見てみると、要支援では中川区が最も多く 3,324 人となっており、熱田区が 1,181 人と最も少なくなっています。

要介護では、中川区が 6,519 人と最も多く、中区が 1,916 人と最も少なくなっています。

また、各区の要支援・要介護者数を、各区の人口で除した比率で見ると、南区が 6.0% と最も高く、次いで中村区が 5.8% となっています。また、中区が 3.6% と最も比率が低く、次いで緑区が 3.8% と低くなっています。

図表 1-1-5 区別要支援・要介護者の状況

区	要 支 援			要 介 護					総 計	要支援・要介護人口比率	
	小 計	1	2	小 計	1	2	3	4			5
千種	2,689	1,191	1,498	4,705	1,104	1,323	958	770	550	7,394	4.5%
東	1,205	555	650	2,200	444	601	454	395	306	3,405	4.2%
北	3,043	1,283	1,760	6,198	1,331	1,815	1,280	990	782	9,241	5.6%
西	2,251	1,033	1,218	4,368	1,016	1,243	896	712	501	6,619	4.4%
中 村	2,819	1,322	1,497	5,033	1,078	1,530	1,038	811	576	7,852	5.8%
中	1,277	598	679	1,916	467	505	344	360	240	3,193	3.6%
昭 和	1,886	850	1,036	3,437	856	999	658	548	376	5,323	4.9%
瑞 穂	2,191	1,009	1,182	3,487	767	970	735	567	448	5,678	5.3%
熱 田	1,181	454	727	2,140	415	624	505	361	235	3,321	5.0%
中 川	3,324	1,138	2,186	6,519	1,217	1,932	1,504	1,088	778	9,843	4.5%
港	2,462	1,050	1,412	4,833	1,011	1,513	1,081	732	496	7,295	5.1%
南	2,793	1,206	1,587	5,391	1,227	1,492	1,111	878	683	8,184	6.0%
守 山	2,432	973	1,459	5,586	1,119	1,550	1,137	992	788	8,018	4.6%
緑	3,151	1,370	1,781	6,094	1,321	1,772	1,307	914	780	9,245	3.8%
名 東	2,544	1,138	1,406	4,265	893	1,154	852	692	674	6,809	4.1%
天 白	2,199	955	1,244	4,538	1,014	1,204	931	729	660	6,737	4.1%



出典：名古屋市健康福祉年報（平成 29 年）

第2章

ふれあい・いきいきサロン設置状況

(1) ふれあい・いきいきサロンの区別設置把握数

市内のふれあい・いきいきサロンは平成30年11月現在で1,817か所あり、区別で見ると緑区が最も多く199か所、次いで南区が146か所あります。一方、最もサロン数が少ない中区では70か所、次いで熱田区で72か所という状況です。

また、各種事業別で見ると、共生型は南区で最も多く55か所、最も少ない名東区で2か所となっており、高齢者では緑区が最も多く108か所、最も少ない天白区で27か所、障がい者では天白区で最も多く4か所、西区、中村区、昭和区、熱田区、南区では0となっています。子育てサロンでは、南区と緑区が最も多くそれぞれ39か所、最も少ない熱田区で12か所となっています。

高齢者1,000人あたりの高齢者・共生型サロン数では、サロン合計数の少ない東区、中区、熱田区において高齢者数も少ないため、それぞれ3を上回っています。千種区と天白区は2を割り込んでいます。

図表 1-2-1 ふれあい・いきいきサロン区別設置把握数(社協調べ)

平成30年11月現在

	共生型	高齢者	障がい者	子育て サロン	合計	高齢者1,000 人あたりの高 齢者・共生型 サロン数
千種	22	48	1	21	92	1.82
東	21	34	1	18	74	3.04
北	32	72	1	28	133	2.25
西	16	79	0	27	122	2.65
中村	21	85	0	29	135	2.89
中	11	42	1	16	70	3.04
昭和	10	53	0	25	88	2.49
瑞穂	32	26	1	15	74	2.10
熱田	27	33	0	12	72	3.50
中川	36	78	1	30	145	2.13
港	18	86	1	28	133	2.69
南	55	52	0	39	146	2.67
守山	29	73	1	26	129	2.40
緑	49	108	3	39	199	2.89
名東	2	75	1	30	108	2.20
天白	39	27	4	27	97	1.83
計	420	971	16	410	1,817	2.47

※「高齢者千人あたりの高齢者・共生型サロン数」算出にあたり
使用した65歳以上人口は名古屋市統計年鑑平成29年10月時点の数値

(2) サロン設置年度推移

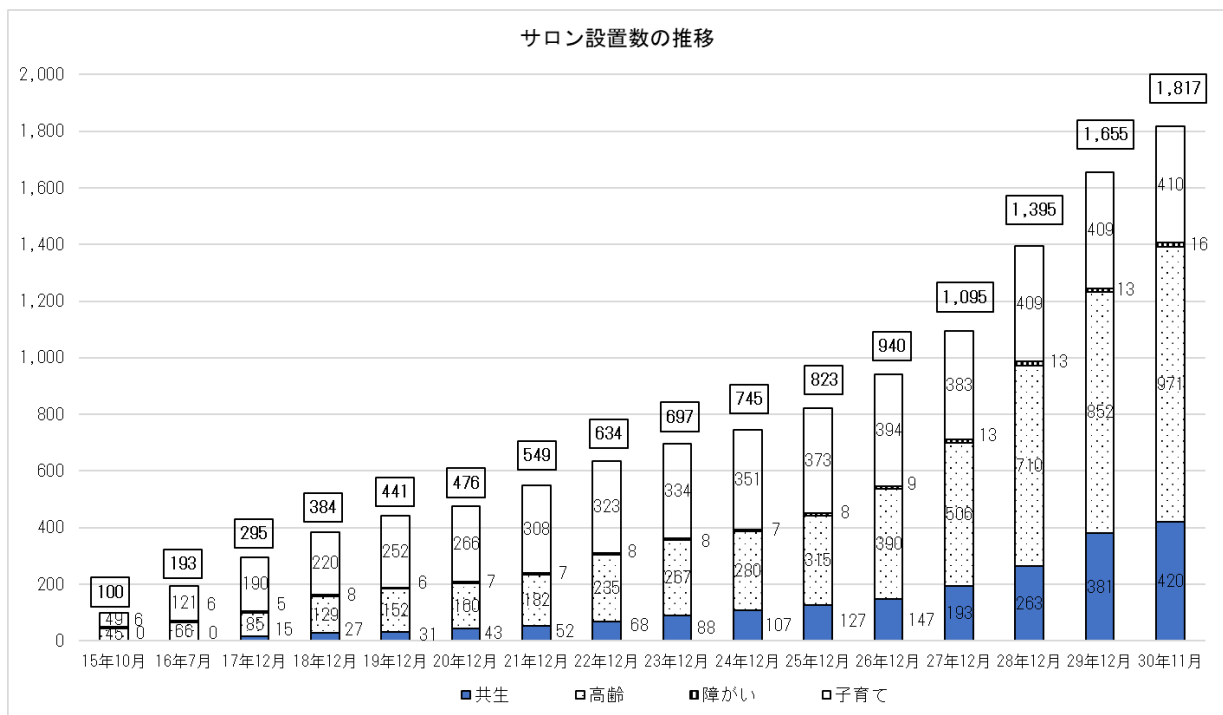
ふれあい・いきいきサロン設置数は年々増加しており、サロン設置数調査初年度の平成15年10月では100か所でしたが、平成30年11月には1,817か所と約18倍となっています。

事業別では、平成30年11月時点で共生型は420か所あり、平成17年12月と比較して約28倍に、高齢型は平成30年11月で971か所あり、調査開始時点と比較して約20倍になっています。共生型・高齢型ともに、年々増加しています。

障がい者は平成30年11月で16か所あり、調査開始時点と比較して約2.7倍になっています。子育てサロンは平成30年11月で410か所あり、調査開始時点と比較して約8.4倍になっていますが最近は増加が落ち着いています。

図表 1-2-2 ふれあい・いきいきサロン設置年度推移(社協調べ)

	共生	高齢	障がい	子育て	合計
15年10月	-	45	6	49	100
16年7月	-	66	6	121	193
17年12月	15	85	5	190	295
18年12月	27	129	8	220	384
19年12月	31	152	6	252	441
20年12月	43	160	7	266	476
21年12月	52	182	7	308	549
22年12月	68	235	8	323	634
23年12月	88	267	8	334	697
24年12月	107	280	7	351	745
25年12月	127	315	8	373	823
26年12月	147	390	9	394	940
27年12月	193	506	13	383	1,095
28年12月	263	710	13	409	1,395
29年12月	381	852	13	409	1,655
30年11月	420	971	16	410	1,817



(3) 区ごとのサロン設置把握状況

① 千種区のサロン設置把握状況

千種区では92か所のうち、共生型22か所、高齢者48か所、障がい者1か所、子育てサロンが21か所あります。

学区別では、田代学区が最も多く13か所、次いで富士見台学区12か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は富士見台学区で最も多く5か所、高齢者では田代学区が最も多く9か所、次いで千種学区で6か所、子育てサロンでは田代学区、見付学区及び自由ヶ丘学区で最も多く、それぞれ3か所となっています。

表 1-2-3 千種区のサロン設置状況

平成30年11月現在

千種区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	千種	0	6	0	1	7
	千石	1	0	0	0	1
	内山	0	0	0	1	1
	大和	2	4	0	2	8
	上野	1	5	0	1	7
	高見	2	2	1	1	6
	春岡	2	2	0	1	5
	田代	1	9	0	3	13
	東山	2	1	0	1	4
	見付	1	3	0	3	7
	星ヶ丘	1	2	0	1	4
	自由ヶ丘	2	2	0	3	7
	富士見台	5	5	0	2	12
	宮根	1	1	0	0	2
	千代田橋	1	4	0	1	6
	複数学区	0	2	0	0	2
合計		22	48	1	21	92

② 東区のサロン設置把握状況

東区では74か所のうち、共生型21か所、高齢者34か所、障がい者1か所、子育てサロンが18か所あります。

学区別では、旭丘学区が最も多くそれぞれ11か所、次いで筒井学区10か所、明倫学区及び矢田学区が9か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は葵学区で最も多く5か所、次いで東白壁学区及び旭丘学区でそれぞれ3か所と続いており、高齢者では旭丘学区が最も多く6か所、次いで筒井学区で5か所、子育てサロンでは東白壁学区、筒井学区及び明倫学区で最も多く、それぞれ3か所となっています。

表 1-2-5 東区のサロン設置状況

平成30年11月現在

東区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	東桜	2	4	1	1	8
	山吹	1	2	0	1	4
	東白壁	3	2	0	3	8
	葵	5	2	0	1	8
	筒井	2	5	0	3	10
	旭丘	3	6	0	2	11
	明倫	2	4	0	3	9
	矢田	1	6	0	2	9
	砂田橋	2	3	0	2	7
合計		21	34	1	18	74

③ 北区のサロン設置把握状況

北区では133か所のうち、共生型32か所、高齢者72か所、障がい者1か所、子育てサロンが28か所あります。

学区別では、金城が最も多く13か所、次いで味鋤学区12か所と続いています。また、中味鋤学区ではサロンは設置されていません。開催場所が複数学区とされているサロンは2か所、不明のサロンは1か所ありました。

事業別では、共生型は東志賀学区で最も多く7か所、次いで金城学区が4か所、清水学区が3か所と続いております。高齢者では大杉学区、味鋤学区が最も多く7か所、次いで金城学区が6か所と続いております。子育てサロンでは飯田学区、清水学区、金城学区及び味鋤学区で最も多く、それぞれ3か所となっております。

表 1-2-7 北区のサロン設置状況

平成30年11月現在

北区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	六郷	1	4	0	1	6
	六郷北	1	2	0	1	4
	飯田	2	4	1	3	10
	宮前	1	4	0	1	6
	名北	2	4	0	0	6
	辻	0	3	0	1	4
	杉村	0	5	0	1	6
	大杉	2	7	0	2	11
	清水	3	4	0	3	10
	金城	4	6	0	3	13
	東志賀	7	3	0	1	11
	城北	0	4	0	2	6
	光城	2	2	0	1	5
	川中	2	5	0	0	7
	味鋤	2	7	0	3	12
	西味鋤	1	3	0	0	4
	楠	0	1	0	1	2
	如意	0	2	0	1	3
	楠西	1	2	0	1	4
	複数学区	1	0	0	1	2
	不明	0	0	0	1	1
合計		32	72	1	28	133

④ 西区のサロン設置把握状況

西区では122か所のうち、共生型16か所、高齢者79か所、障がい者0か所、子育てサロンが27か所あります。

学区別では、山田学区が最も多く16か所、次いで城西学区15か所と続いています。また、南押切学区ではサロンは設置されていません。開催場所が複数学区とされているサロンは3か所ありました。

事業別では、共生型は山田学区で最も多く5か所、高齢者では城西学区が最も多く12か所、次いで山田学区で9か所、子育てサロンでは庄内学区で最も多く4か所、次いで複数学区が3か所と続いています。

表 1-2-9 西区のサロン設置状況

平成30年11月現在

西区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	那古野	2	0	0	0	2
	幅下	0	2	0	2	4
	江西	0	2	0	1	3
	城西	1	12	0	2	15
	榎	2	1	0	1	4
	南押切	0	0	0	0	0
	栄生	0	3	0	0	3
	枇杷島	0	6	0	1	7
	児玉	0	2	0	1	3
	上名古屋	2	5	0	2	9
	庄内	2	8	0	4	14
	稲生	0	8	0	1	9
	山田	5	9	0	2	16
	平田	0	5	0	1	6
	比良	0	0	0	2	2
	大野木	0	2	0	1	3
	浮野	0	6	0	1	7
	比良西	1	5	0	1	7
	中小田井	1	3	0	1	5
	複数学区	0	0	0	3	3
合計		16	79	0	27	122

⑤ 中村区のサロン設置把握状況

中村区では135か所のうち、共生型21か所、高齢者85か所、障がい者0か所、子育てサロンが29か所あります。

学区別では、中村学区が最も多く21か所、次いで米野学区15か所と続いています。また、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は中村学区で最も多く4か所、次いで八社学区で3か所と続いております。高齢者では中村学区が最も多く15か所、次いで稲葉地学区及び日吉学区で、それぞれ9か所、子育てサロンでは米野学区で最も多く7か所、次いで稲西学区が3か所と続いています。

表 1-2-11 中村区のサロン設置状況

平成30年11月現在

中村区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	日比津	2	6	0	2	10
	諏訪	0	2	0	1	3
	稲葉地	1	9	0	1	11
	稲西	0	4	0	3	7
	中村	4	15	0	2	21
	豊臣	1	2	0	2	5
	本陣	1	3	0	0	4
	則武	0	2	0	0	2
	亀島	2	2	0	1	5
	新明	0	2	0	1	3
	六反	1	2	0	1	4
	牧野	2	2	0	1	5
	米野	1	7	0	7	15
	日吉	1	9	0	0	10
	千成	1	6	0	2	9
	柳	0	5	0	1	6
	岩塚	1	5	0	1	7
	八社	3	2	0	1	6
	複数学区	0	0	0	2	2
合計		21	85	0	29	135

⑥ 中区のサロン設置把握状況

中区では70か所のうち、共生型11か所、高齢者42か所、障がい者1か所、子育てサロンが16か所あります。

学区別では、橘学区が最も多く19か所、次いで老松学区が9か所、新栄学区及び松原学区がそれぞれ7か所と続き、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は橘学区が最も多く3か所、新栄学区、老松学区及び大須学区がそれぞれ2か所、高齢者では橘学区が最も多く12か所、次いで松原学区が6か所、老松学区が5か所と続き、障がい者サロンでは橘学区に1か所、子育てサロンでは橘学区が最も多く3か所、次いで新栄学区、老松学区及び大須学区橘でそれぞれ2か所と続いています。

表 1-2-13 中区のサロン設置状況

平成30年11月現在

中区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	名城	0	1	0	0	1
	御園	1	1	0	1	3
	栄	1	4	0	1	6
	新栄	2	3	0	2	7
	千早	0	1	0	1	2
	老松	2	5	0	2	9
	大須	2	2	0	2	6
	松原	0	6	0	1	7
	橘	3	12	1	3	19
	平和	0	3	0	1	4
	正木	0	4	0	1	5
	複数学区	0	0	0	1	1
合計		11	42	1	16	70

⑦ 昭和区のサロン設置把握状況

昭和区では 88 か所のうち、共生型 10 か所、高齢者 53 か所、障がい者 0 か所、子育てサロンが 25 か所あります。

学区別では、松栄学区が最も多く 18 か所、次いで御器所学区 14 か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は松栄学区、滝川学区及び八事学区で最も多く 2 か所、次いで御器所学区、村雲学区、鶴舞学区及び川原学区でそれぞれ 1 か所と続いており、高齢者では、松栄学区が最も多く 13 か所、次いで御器所学区で 9 か所、子育てサロンでは御器所学区、白金学区及び鶴舞学区で最も多く 4 か所、次いで松栄学区及び八事学区が 3 か所と続いています。

表 1-2-15 昭和区のサロン設置状況 平成 30 年 11 月現在

昭和区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	松栄	2	13	0	3	18
	御器所	1	9	0	4	14
	村雲	1	3	0	1	5
	白金	0	2	0	4	6
	鶴舞	1	1	0	4	6
	吹上	0	5	0	1	6
	広路	0	6	0	1	7
	川原	1	2	0	1	4
	伊勝	0	6	0	1	7
	滝川	2	4	0	2	8
	八事	2	2	0	3	7
合計		10	53	0	25	88

⑧ 瑞穂区のサロン設置把握状況

瑞穂区では74か所のうち、共生型32か所、高齢者26か所、障がい者1か所、子育てサロンが15か所あります。

学区別では、堀田学区が最も多く11か所、次いで汐路学区10か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は高田学区で最も多く6か所、次いで堀田学区および汐路学区でそれぞれ5か所と続いており、高齢者では、堀田学区が最も多く5か所、次いで汐路学区で4か所、穂波学区及び弥富学区でそれぞれ3か所、障がい者では陽明学区で1か所、子育てサロンでは開催地不明のサロンが3か所と最も多く、弥富学区で2か所、その他の瑞穂区の学区にもそれぞれ1か所設置されています。

表 1-2-17 瑞穂区のサロン設置状況

平成30年11月現在

瑞穂区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	御劔	3	2	0	1	6
	高田	6	2	0	1	9
	堀田	5	5	0	1	11
	穂波	2	3	0	1	6
	井戸田	2	0	0	1	3
	瑞穂	1	1	0	1	3
	豊岡	0	2	0	1	3
	弥富	2	3	0	2	7
	中根	2	2	0	1	5
	陽明	4	2	1	1	8
	汐路	5	4	0	1	10
	不明	0	0	0	3	3
合計		32	26	1	15	74

⑨ 熱田区のサロン設置把握状況

熱田区では72か所のうち、共生型27か所、高齢者33か所、障がい者0か所、子育てサロンが12か所あります。

学区別では、白鳥学区及び船方学区が最も多く、それぞれ15か所、次いで旗屋学区及び大宝学区がそれぞれ12か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は旗屋学区及び白鳥学区で最も多く、それぞれ8か所、次いで船方学区で4か所と続いており、高齢者では、船方学区が最も多く10か所、次いで大宝学区で8か所、子育てサロンでは高蔵学区で最も多く3か所、次いで旗屋学区および白鳥学区がそれぞれ2か所と続いています。

表 1-2-19 熱田区のサロン設置状況

平成30年11月現在

熱田区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	高蔵	1	6	0	3	10
	旗屋	8	2	0	2	12
	白鳥	8	5	0	2	15
	千年	1	1	0	1	3
	船方	4	10	0	1	15
	野立	2	1	0	1	4
	大宝	3	8	0	1	12
	複数学区	0	0	0	1	1
合計		27	33	0	12	72

⑩ 中川区のサロン設置把握状況

中川区では145か所のうち、共生型36か所、高齢者78か所、障がい者1か所、子育てサロンが30か所あります。

学区別では、荒子学区が最も多く20か所、次いで昭和橋学区及び赤星学区がそれぞれ10か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は荒子学区で最も多く6か所、次いで露橋学区及び八熊学区で3か所と続いており、高齢者では、荒子学区が最も多く12か所、次いで昭和橋学区で7か所、障がい者では明正学区で1か所、子育てサロンでは野田学区で最も多く4か所、次いで荒子学区、戸田学区及び千音寺学区がそれぞれ2か所と続いています。

表 1-2-21 中川区のサロン設置状況

平成30年11月現在

中川区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	野田	2	3	0	4	9
	常磐	1	2	0	1	4
	愛知	1	2	0	1	4
	広見	1	2	0	1	4
	露橋	3	4	0	1	8
	八熊	3	3	0	1	7
	八幡	2	3	0	1	6
	玉川	1	3	0	1	5
	昭和橋	2	7	0	1	10
	篠原	0	5	0	1	6
	荒子	6	12	0	2	20
	中島	0	4	0	1	5
	西中島	2	1	0	1	4
	正色	2	2	0	1	5
	五反田	2	4	0	1	7
	豊治	0	4	0	1	5
	戸田	1	4	0	2	7
	春田	0	5	0	1	6
	明正	0	1	1	1	3
	千音寺	1	1	0	2	4
	赤星	3	6	0	1	10
	万場	1	0	0	1	2
	長須賀	0	0	0	1	1
	西前田	2	0	0	1	3
合計		36	78	1	30	145

⑪ 港区のサロン設置把握状況

港区では133か所のうち、共生型18か所、高齢者86か所、障がい者1か所、子育てサロンが28か所あります。

学区別では、港楽学区が最も多く13か所、次いで福田学区が12か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は港楽学区で最も多く3か所、次いで東築地学区、港西学区、神宮寺学区及び福田学区でそれぞれ2か所と続いており、高齢者では、大手学区が最も多く10か所、次いで福田学区で8か所、障がい者では小碓学区に1か所、子育てサロンでは港楽学区が最も多く3か所、次いで東築地学区、中川学区、港西学区、福田学区及び福春学区でそれぞれ2か所と続きます。

表 1-2-23 港区のサロン設置状況

平成30年11月現在

港区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	東築地	2	4	0	2	8
	中川	0	5	0	2	7
	東海	1	4	0	1	6
	成章	0	4	0	1	5
	大手	0	10	0	1	11
	港西	2	2	0	2	6
	稲永	0	3	0	1	4
	野跡	1	3	0	1	5
	小碓	1	2	1	1	5
	正保	0	2	0	1	3
	明德	1	2	0	1	4
	当知	0	4	0	1	5
	西築地	1	3	0	1	5
	港楽	3	7	0	3	13
	高木	1	4	0	1	6
	神宮寺	2	7	0	1	10
	南陽	0	3	0	1	4
	西福田	0	4	0	1	5
	福田	2	8	0	2	12
	福春	1	4	0	2	7
	複数学区	0	1	0	1	2
合計		18	86	1	28	133

⑫ 南区のサロン設置把握状況

南区では146か所のうち、共生型55か所、高齢者52か所、障がい者0か所、子育てサロンが39か所あります。

学区別では、笠寺学区が最も多く18か所、次いで明治学区及び呼続学区がそれぞれ13か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は笠寺学区で最も多く9か所、次いで明治学区、道徳学区及び白水学区でそれぞれ5か所と続いており、高齢者では、明治学区及び笠寺学区が最も多く、それぞれ7か所、次いで呼続学区で6か所、子育てサロンでは伝馬学区、桜学区及び大生学区で最も多くそれぞれ4か所、次いで豊田学区、呼続学区、笠東学区及び複数学区がそれぞれ3か所と続いています。

表 1-2-25 南区のサロン設置状況

平成30年11月現在

南区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	明治	5	7	0	1	13
	伝馬	3	3	0	4	10
	豊田	3	3	0	3	9
	道徳	5	2	0	1	8
	呼続	4	6	0	3	13
	大磯	1	2	0	1	4
	桜	3	1	0	4	8
	菊住	3	6	0	1	10
	春日野	4	0	0	2	6
	笠寺	9	7	0	2	18
	星崎	2	2	0	2	6
	笠東	0	1	0	3	4
	大生	2	3	0	4	9
	宝	1	1	0	1	3
	宝南	2	1	0	1	4
	白水	5	3	0	1	9
	千鳥	2	2	0	1	5
	柴田	1	2	0	1	4
	複数学区	0	0	0	3	3
合計		55	52	0	39	146

⑬ 守山区のサロン設置把握状況

守山区では129か所のうち、共生型29か所、高齢者73か所、障がい者1か所、子育てサロンが26か所あります。

学区別では、瀬古学区が最も多く17か所、次いで苗代学区及び甘軒家がそれぞれ13か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は苗代学区が最も多く5か所、次いで白沢学区で4か所、高齢者では、瀬古学区が最も多く15か所、次いで甘軒家学区で11か所、障がい者では白沢学区で1か所、子育てサロンでは小幡学区で最も多く6か所、次いで大森学区、西城学区、白沢学区及び大森北学区がそれぞれ2か所と続いています。

表 1-2-27 守山区のサロン設置状況

平成30年11月現在

守山区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	小幡	0	3	0	6	9
	大森	2	2	0	2	6
	苗代	5	7	0	1	13
	守山	0	2	0	0	2
	西城	3	0	0	2	5
	白沢	4	1	1	2	8
	小幡北	2	2	0	1	5
	吉根	2	4	0	1	7
	大森北	1	1	0	2	4
	天子田	0	1	0	1	2
	甘軒家	2	11	0	0	13
	鳥羽見	3	2	0	0	5
	二城	0	3	0	1	4
	志段味西	1	3	0	1	5
	本地が丘	1	1	0	0	2
	森孝東	0	4	0	1	5
	森孝西	1	4	0	1	6
	瀬古	1	15	0	1	17
	下志段味	0	4	0	1	5
	志段味東	1	3	0	1	5
	複数学区	0	0	0	1	1
合計		29	73	1	26	129

⑭ 緑区のサロン設置把握状況

緑区では 199 か所のうち、共生型 49 か所、高齢者 108 か所、障がい者 3 か所、子育てサロンが 39 か所あります。

学区別では、浦里学区が最も多く 15 か所、次いで旭出学区及び大高学区がそれぞれ 12 か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は片平学区及び大高南学区で最も多く、それぞれ 6 か所、次いで旭出学区で 4 か所と続いており、高齢者では、浦里学区が最も多く 12 か所、次いで大高学区で 7 か所、障がい者では鳴海学区、相原学区及び旭出学区にそれぞれ 1 か所、子育てサロンでは大高学区で最も多く 3 か所、次いで滝ノ水学区、大清水学区、東丘学区、鳴子学区、有松学区、桃山学区及び複数学区がそれぞれ 2 か所と続いています。

表 1-2-29 緑区のサロン設置状況

平成 30 年 11 月現在

緑区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	鳴海	1	6	1	1	9
	相原	1	4	1	1	7
	旭出	4	6	1	1	12
	滝ノ水	0	5	0	2	7
	片平	6	3	0	1	10
	浦里	2	12	0	1	15
	緑	0	3	0	1	4
	平子	1	6	0	1	8
	鳴海東部	0	1	0	1	2
	小坂	1	1	0	1	3
	常安	1	1	0	1	3
	大清水	1	2	0	2	5
	徳重	2	2	0	1	5
	熊の前	1	3	0	1	5
	神の倉	0	2	0	1	3
	東丘	2	6	0	2	10
	太子	2	2	0	1	5
	鳴子	3	6	0	2	11
	長根台	1	3	0	1	5
	戸笠	1	2	0	1	4
	有松	1	5	0	2	8
	桶狭間	2	6	0	1	9
	南陵	0	1	0	1	2
	大高	2	7	0	3	12
	大高南	6	1	0	1	8
	大高北	3	4	0	1	8
	黒石	1	4	0	1	6
	桃山	3	3	0	2	8
	複数学区	1	1	0	2	4
	不明	0	0	0	1	1
合計		49	108	3	39	199

⑮ 名東区のサロン設置把握状況

名東区では 108 か所のうち、共生型 2 か所、高齢者 75 か所、障がい者 1 か所、子育てサロンが 30 か所あります。

学区別では、引山学区が最も多く 13 か所、次いで豊が丘が 9 か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は香流学区と本郷学区にそれぞれ 1 か所、高齢者では、引山学区が最も多く 12 か所、次いで豊が丘学区で 8 か所と続き、障がい者は上社学区に 1 か所、子育てサロンでは西山学区で最も多く 4 か所、次いで香流学区で 3 か所と続いています。

表 1-2-31 名東区のサロン設置状況

平成 30 年 11 月現在

名東区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	西山	0	2	0	4	6
	名東	0	2	0	1	3
	高針	0	5	0	1	6
	猪高	0	4	0	1	5
	藤が丘	0	4	0	2	6
	香流	1	4	0	3	8
	猪子石	0	2	0	1	3
	梅森坂	0	6	0	1	7
	蓬来	0	2	0	2	4
	本郷	1	0	0	2	3
	貴船	0	2	0	1	3
	極楽	0	3	0	2	5
	上社	0	2	1	1	4
	豊が丘	0	8	0	1	9
	引山	0	12	0	1	13
	平和が丘	0	3	0	2	5
	前山	0	7	0	1	8
	北一社	0	4	0	1	5
	牧の原	0	3	0	2	5
合計		2	75	1	30	108

⑯ 天白区のサロン設置把握状況

天白区では97か所のうち、共生型39か所、高齢者27か所、障がい者4か所、子育てサロンが27か所あります。

学区別では、表山学区が最も多く10か所、次いで大坪学区が9か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は山根学区が最も多く7か所、次いで原学区で5か所と続いており、高齢者では、相生学区が最も多く5か所、次いで大坪学区及び高坂学区でそれぞれ4か所、障がい者は平針南学区、平針学区、植田東学区及び表山学区でそれぞれ1か所、子育てサロンでは表山学区で最も多く5か所、次いで平針北学区で3か所と続いています。

表 1-2-33 天白区のサロン設置状況

平成30年11月現在

天白区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	平針南	2	2	1	2	7
	平針	3	0	1	1	5
	平針北	3	1	0	3	7
	原	5	0	0	1	6
	植田	2	0	0	1	3
	植田南	1	0	0	1	2
	植田北	0	1	0	1	2
	植田東	1	0	1	1	3
	大坪	3	4	0	2	9
	八事東	2	1	0	1	4
	表山	2	2	1	5	10
	天白	3	2	0	2	7
	山根	7	0	0	1	8
	しまだ	1	3	0	1	5
	高坂	0	4	0	1	5
	相生	2	5	0	1	8
	野並	2	2	0	2	6
合計		39	27	4	27	97

第3章 ふれあい・いきいきサロン活動状況

(1) サロンの担い手内訳

サロンの担い手内訳を見てみると推進協が 405 か所と最も多く、次いで地域住民 367 か所、ボランティアグループ 169 か所と続いています。

事業別では、共生型は地域住民が最も多く 100 か所、次いで推進協 64 か所と続いており、高齢者では地域住民が最も多く 234 か所、次いで推進協 169 か所、障がい者では地域住民が最も多く 5 か所、次いでその他活動団体が 2 か所と続きます。子育てサロンは推進協が最も多く 171 か所、次いで民児協 68 か所と続いています。

図表 1-3-1 ふれあい・いきいきサロンの担い手内訳（平成 30 年 11 月時点）

区分	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
推進協	64	169	1	171	405
学区連協	6	12	0	13	31
民児協	8	26	0	68	102
女性会	0	7	0	1	8
保護司会	0	0	0	1	1
老人クラブ連合会	9	58	0	0	67
自治会・町内会	27	65	0	3	95
その他活動団体	24	39	3	28	94
企業・営利団体等	15	16	0	1	32
社会福祉法人・福祉施設	28	86	1	5	120
NPO法人	22	9	2	18	51
協同組合等	26	61	0	8	95
教会・神社・寺院等	4	0	0	1	5
ボランティアグループ	57	86	2	24	169
地域住民	100	234	5	28	367
保健所	0	1	0	17	18
児童館	0	0	0	17	17
図書館	0	0	0	0	0
福祉会館	0	10	0	0	10
区社協	8	0	0	2	10
いきいき支援センター	2	4	0	0	6
はつらつ参加者・ボラ等	3	57	0	0	60
個人	6	13	0	0	19
複数団体	0	4	0	2	6
その他	11	10	2	2	25
不明	0	4	0	0	4
合計	420	971	16	410	1,817

(2) サロン会場の内訳

サロン会場の内訳を見てみるとコミュニティセンターが 589 か所と最も多く、次いで集会所 269 か所、施設・事業所・NPO が 253 か所と続いています。

事業別では、共生型は施設・事業所・NPO が最も多く 84 か所、次いで集会所が 71 か所と続いており、高齢者ではコミュニティセンターが最も多く 297 か所、次いで集会所 178 か所、障がい者ではスポーツセンター・生涯学習センター・文化センター等が最も多く 5 か所、次いでコミュニティセンターが 3 か所、子育てサロンはコミュニティセンターが最も多く 221 か所、次いで地区会館・公民館・公会堂・防災倉庫 27 か所と続いています。

図表 1-3-2 ふれあい・いきいきサロンの会場（平成 30 年 11 月時点）

会場	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
コミセン	68	297	3	221	589
地区会館・公民館・公会堂・防災倉庫	28	76	0	27	131
集会所	71	178	0	20	269
在宅サービスセンター	17	35	2	18	72
施設・事業所・NPO	84	145	3	21	253
店舗・喫茶店	41	62	1	10	114
お寺・社務所・教会	33	32	1	13	79
病院・診療所・助産所	16	23	0	5	44
小学校・大学	6	9	1	16	32
保育園・幼稚園	1	1	0	8	10
個人宅・空き家・空き店舗	32	69	0	8	109
公園・運動場	6	3	0	5	14
スポセン・生涯学習センター・文化センター等	7	16	5	16	44
区役所・保健所	0	2	1	11	14
図書館	0	0	0	2	2
児童館	0	0	1	20	21
福祉会館	0	12	0	2	14
いきいき支援センター	3	3	0	0	6
フリースペース・貸スペース	14	23	0	4	41
不定	3	5	0	2	10
合計	430	991	18	429	1868

(3) サロンの開催頻度

サロンの開催頻度では、月1回開催するサロン数が960か所と最も多く、次いで月2回403か所、週1回178か所と続いています。

事業別では、共生型は月1回が最も多く248か所、次いで月2回74か所、週1回33か所と続いており、高齢者では月1回が最も多く479か所、次いで月2回262か所、週1回107か所と続いています。障がい者では月1回開催が最も多く8か所、次いで月2回が6か所、子育てサロンは月1回が最も多く225か所、次いで月2回61か所、週1回37か所と続いています。

図表 1-3-3 ふれあい・いきいきサロンの開催頻度

開催ペース	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
年2回	1	0	0	1	2
年3回	1	0	0	0	1
年4回	3	8	0	3	14
年5回	0	2	1	2	5
年6回	6	23	0	16	45
年7回	0	2	0	0	2
年8回	2	1	0	1	4
年9回	0	0	0	2	2
月1回	248	479	8	225	960
月2回	74	262	6	61	403
月3回	10	24	0	8	42
月4回	8	19	0	3	30
月5回	0	2	0	1	3
月6回	1	4	0	0	5
月7回	0	0	0	1	1
月8回	2	1	0	0	3
月9回	2	1	0	1	4
月10回	0	0	0	0	0
週1回	33	107	1	37	178
週2回	4	18	0	5	27
週3回	5	3	0	5	13
週4回	0	1	0	3	4
週5回	7	3	0	7	17
週6回	5	2	0	1	8
毎日	1	0	0	0	1
不定期	7	9	0	27	43
合計	420	971	16	410	1,817

(1) 調査の目的

名古屋市社会福祉協議会では、「ふれあい・いきいきサロン（以下、サロン）」をはじめとする地域活動の現状について、調査を通じて運営ボランティアの代表者・参加者の方々の現状や、サロン参加後の変化、サロン活動上での課題、支援要望等を把握し、今後、安心してサロン活動ができる地域社会づくりに役立てることを目的として、実施したものです。

(2) 調査の概要

本調査の概要は以下に示すとおりです。

- 調査対象：名古屋市内の『高齢者サロン』『共生型サロン』代表者及び参加者
- 抽出方法：無作為抽出(参加者調査については1サロンにつき5名を無作為抽出)
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（平成30年11月1日発送）
- 調査時期：平成30年11月～12月
- 配布数：400票（代表者）
2,000票（参加者）
- 回収数：332票（代表者）
1,494票（参加者）
- 有効回収数：1,826票
- 有効回収率：76.1%

(3) 報告書の見方

- 図中の構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、複数回答はもちろんのこと、単数回答の場合でも必ずしも合計は100.0%になりません。
- 一部のグラフについては、クロス集計上の表側の「回答なし」は省略しています。
- 表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。
- グラフ内の「n=〇〇」は、その回答母数を表わしています。
- 性別・年齢別・地区別のクロス集計の結果については、全体と比較しておよそ±10%以上の差異がある場合にのみ、分析結果を言及しています。

第1章 サロン代表者とボランティアのプロフィール

(1) サロンの開催地区

問1-1 サロンの開催地区を教えてください。

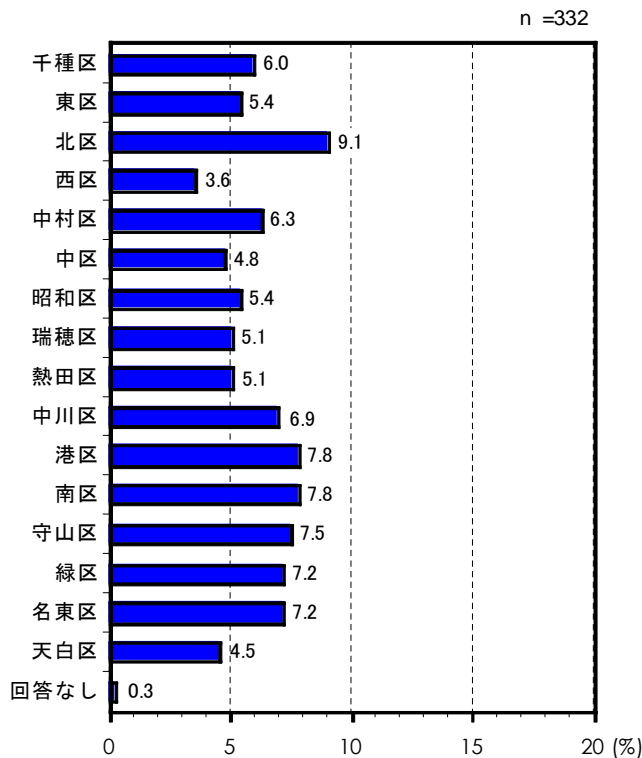
◆北区がもっとも多く9.1%、港区及び南区がそれぞれ7.8%と続きます。平成30年11月現在のサロン設置数と比較して、概ね同程度の割合で回答されています。

○回答数全体に占める各区の割合は、北区が最も多く9.1%、次いで港区及び南区の7.8%と続き、一番少なかったのは西区の3.6%でした。

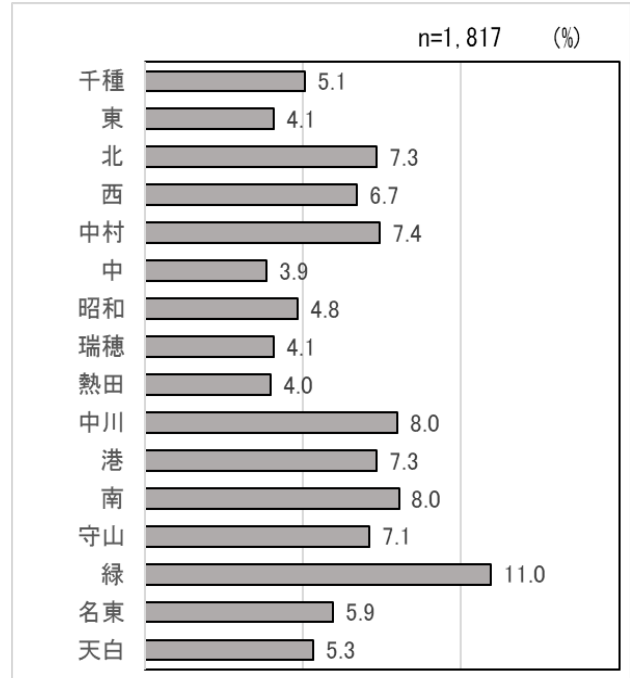
○これは、アンケートを各区のサロン設置数を基に、全体数を比例案分して調査依頼をしていることから生じたものと思われます。

参考までに平成30年11月時点でのサロン設置数と、今回のアンケート調査回答とを比較すると、西区と緑区の回答率が少ないものの概ね比率が一致していることから、どの区のサロンも概ね同程度の割合で回答していると言えます。

図 2-1-1 サロンの開催地区



【参考】 平成30年11月のサロン設置数



(2) サロンの開始年月

問 1-2 サロンの開始年月を教えてください。(平成 30 年 12 月現在時点)

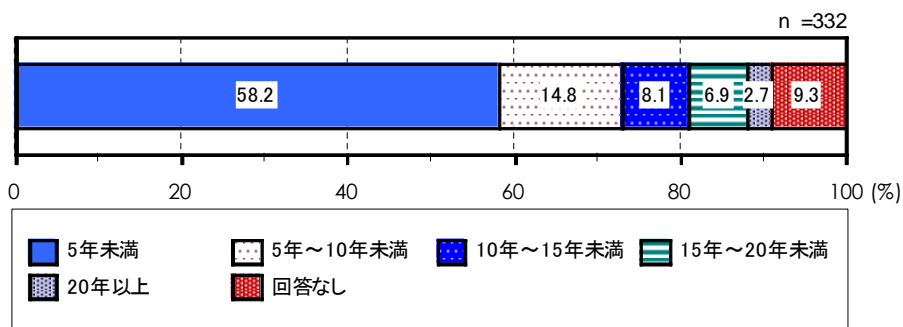
◆5年未満が6割弱と最も割合が高く、新しいサロンが多い。

○サロンの開始年月をみると、立上げから5年未満のサロンの割合が 58.2%で最も割合が高く、次いで5年～10年未満(14.8%)、10年～15年未満(8.1%)となっており、比較的新しいサロンが多いと言えます。

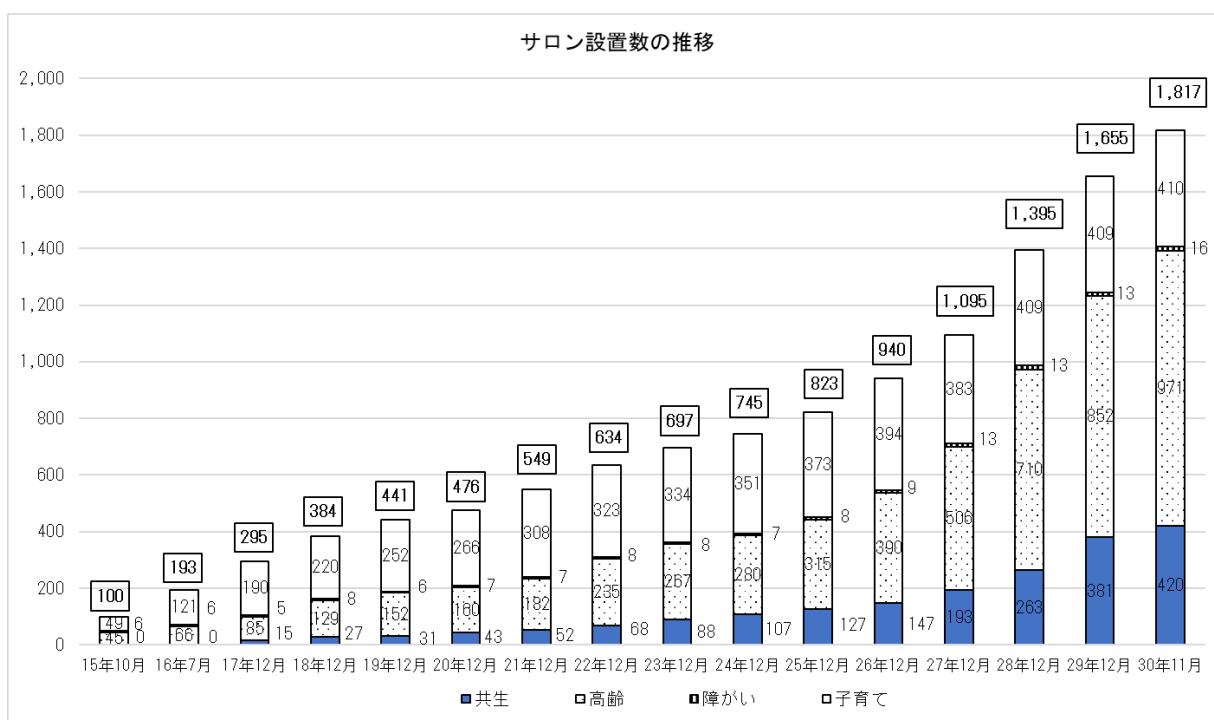
○参考にサロン設置数を再掲しますが、過去5年でサロン設置数が増えていることが分かります。

○なお、回答なしが全体の9.3%を占めています。

図 2-1-2 サロン開始年月



【再掲】図 1-2-2 サロン設置数



(3) サロンの運営母体

問 1-3 サロンの運営母体を教えてください。

◆「ボランティアグループ、地域住民等有志」が最も割合が高く、次いで「地域福祉推進協議会（学区社協）」、「町内会・自治会」などが高くなっています。

○回答者のサロン運営母体をみると、「ボランティアグループ、地域住民等有志」が 38.9%で最も割合が高く、次いで「地域福祉推進協議会（学区社協）」(30.7%)、「町内会・自治会」(14.5%)となっています。

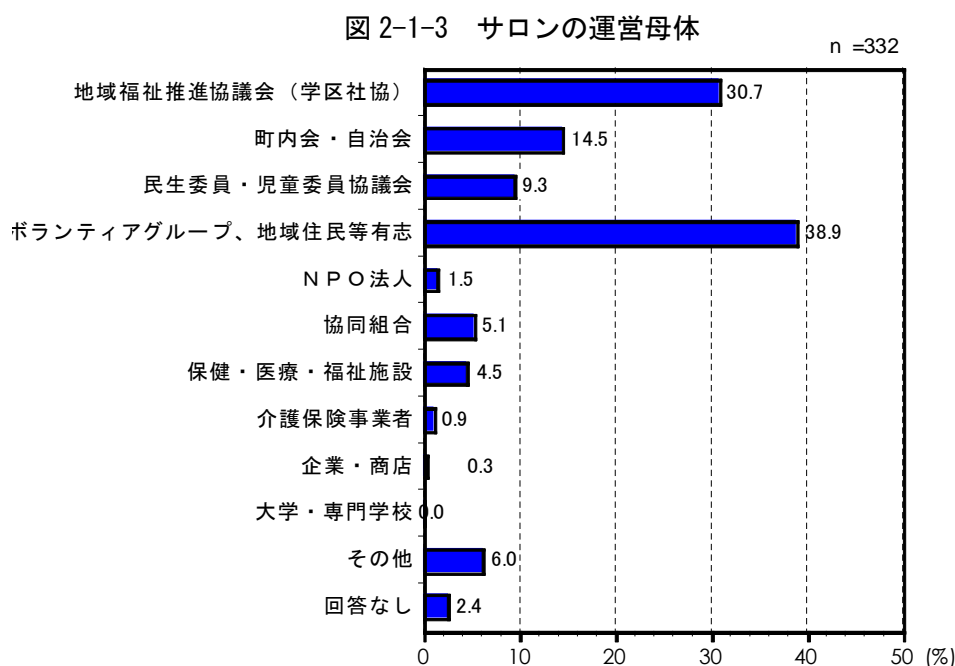


表 2-1-4 サロンの運営母体（その他 15 件の内訳）

内容
・ 老人会からスタート (3 件)
・ 市運営のはつらつクラブより
・ 消費者団体
・ いきいき支援センター
・ 会館運営協議会、会館運営委員会
・ 社協の協力による
・ グラウンドゴルフクラブ
・ コミュニティビジネス
・ 年金者組合
・ コミュニティセンター運営委員
・ 自由ヶ丘学区女性会
・ 保健環境委員会と合同
・ 社会福祉法人

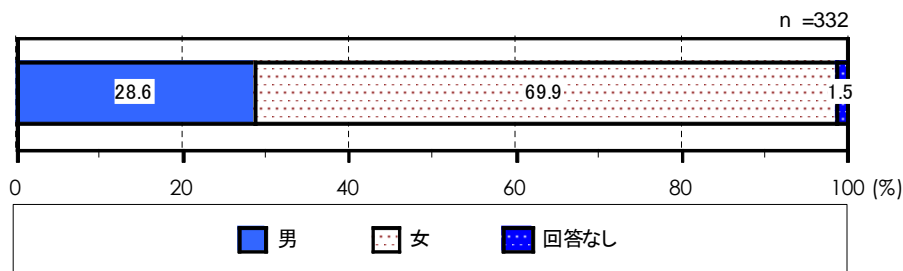
(4) 代表者の性別

問 1-4 サロン代表者の性別を教えてください。

◆「女性」が7割弱を占め、女性のサロン代表者が多い。

○サロン代表者の性別をみると、「女性」が69.9%、次いで「男性」が28.6%となっています。

図 2-1-5 サロン代表者の性別



(5) 代表者の年齢

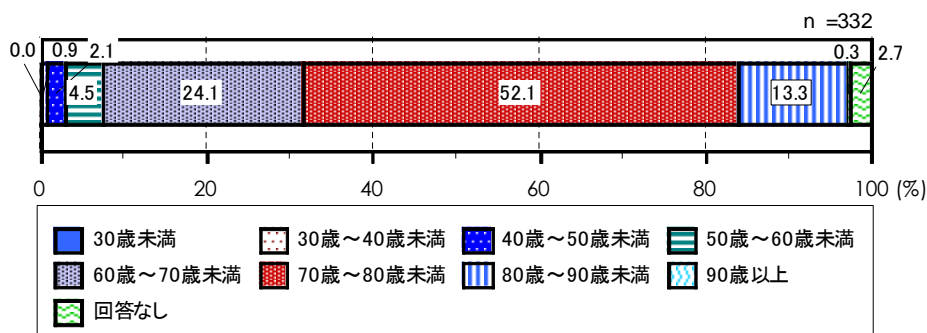
問 1-5 サロンの代表者の年齢を教えてください。

◆「70歳～80歳未満」が最も割合が高く5割を超え、次いで「60歳～70歳未満」が24.1%と、主に高齢者がサロン代表者となっています。

○サロン代表者の年齢をみると、「70歳～80歳未満」が52.1%で最も割合が高く、次いで「60歳～70歳未満」(24.1%)、「80歳～90歳未満」(13.3%)と続いています。

○一方で「30歳～40歳未満」が0.9%、「40歳～50歳未満」が2.1%あり、割合は少ないものの働き盛りの世代のサロン代表者参加もみられます。

図 2-1-6 サロン代表者の年齢



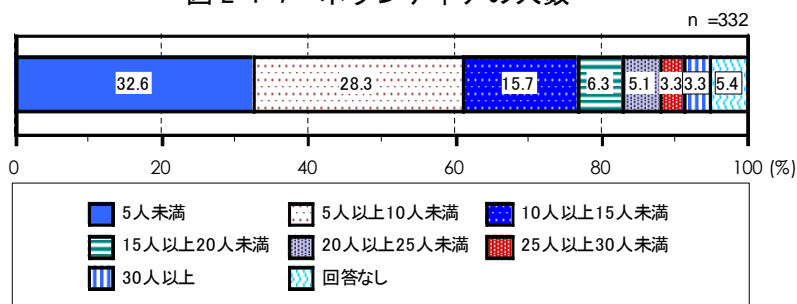
(6) ボランティアの登録人数

問 1-6 サロンに関わるボランティアの人数を教えてください。

◆サロンに関わるボランティアの人数は、「5人未満」が32.6%で最も割合が高く、次いで「5人以上 10人未満」が28.3%となっています。

- サロンに関わるボランティアについては、「5人未満」が32.6%で最も割合が高くなっています。次いで「5人以上 10人未満」(28.3%)、「10人以上 15人未満」(15.7%)と続いており、ボランティアの人数が15人未満のサロンが全体の7割以上を占めています。
- 一方で「15人以上 20人未満」が6.3%、「20人以上 25人未満」が5.1%となっており、大人数でボランティアを行っているサロンも1割程度あります。

図 2-1-7 ボランティアの人数



◆男性ボランティアは女性ボランティアに比べて少なくなっています。

- 男性ボランティアは「5人未満」が80.8%で最も多く、「5人以上 10人未満」が7.8%となっており、男性ボランティアが10人以上参加するサロンはほとんどない状況です。
- 女性ボランティアは「5人未満」が42.0%と最も割合が多いものの、「5人以上 10人未満」が27.4%、「10人以上 15人未満」が11.4%と続いており、サロンに参加するボランティアは男性と比較して女性の参加者が多くなっています。

図 2-1-8 ボランティアの内訳 (男性)

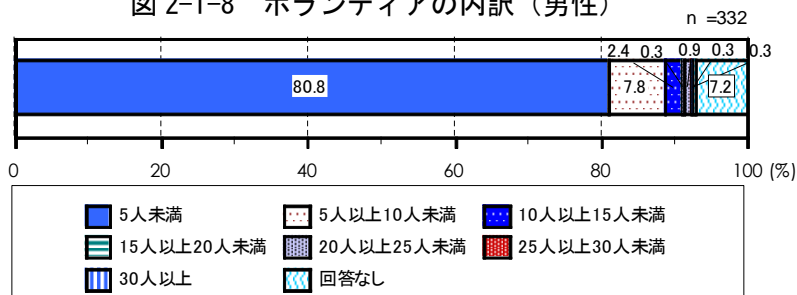
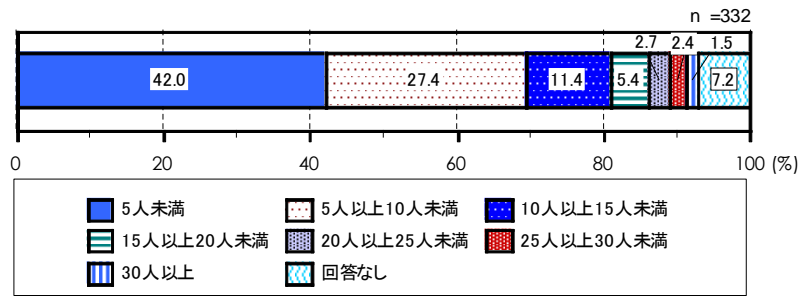


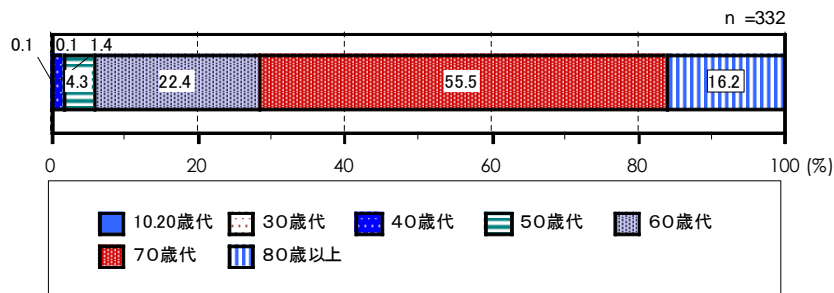
図 2-1-9 ボランティアの内訳（女性）



◆ボランティアの年齢構成では「70歳代」が最も多く、高齢者(60歳以上)のボランティアが全体の9割を占めています。

- ボランティアの年齢構成では「70歳代」が55.5%で最も多く、次いで「60歳代」が22.4%、「80歳以上」が16.2%となっており、高齢者のボランティアが全体の9割を占めています。
- 一方で「10・20歳代」のボランティア参加者は0.1%となっており、サロンに関わる若者世代がない状況です。10歳代～50歳代までのボランティア参加者は5.9%にとどまっています。

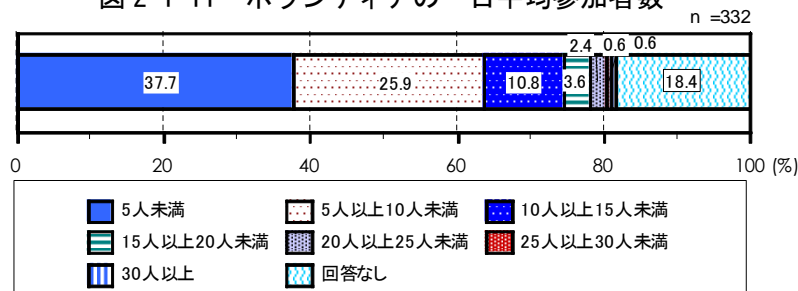
図 2-1-10 ボランティアの年齢構成



◆一回に参加するボランティア平均人数は「5人未満」が最も多くなっています。

- サロン活動一回に参加するボランティアの平均人数は「5人未満」が37.7%で最も多く、次いで「5人以上10人未満」が25.9%、「10人以上15人未満」が10.8%となっています。
- なお、「回答なし」が全体の18.4%を占めています。

図 2-1-11 ボランティアの一日平均参加者数



第2章 サロンの概要

(1) サロンの会場の種別

問 1-7 サロンを開催する会場の種別を教えてください。(複数ある場合は主となる会場1箇所を記入)

◆「コミュニティセンター」が最も割合が高く、36.8%。次いで「集会所」が20.2%となっており、合わせて全体の6割近くを占めています。

○サロン会場の種別では「コミュニティセンター」が36.8%で最も割合が高く、次いで「集会所」(20.2%)、「施設・事業所・NPO」(16.0%)、「個人宅・空き家」(11.1%)の順になっています。

図 2-2-1 サロン会場の種別

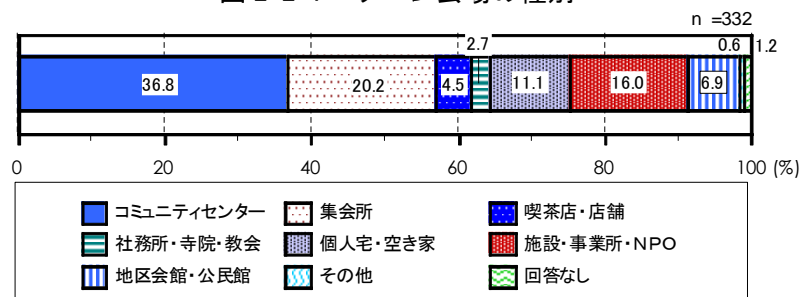


表 2-2-2 サロン会場の種別 (その他内訳)

内容
・ 開催の都度設営 (1件)
・ 美術館 (1件)
・ スタジオ (1件)

(2) サロン会場の設備

問 1-8 サロン会場の階数、エレベーターや洋式トイレの有無を教えてください。

- ◆サロン会場の階数は「1階」が7割を占め、次いで「2階」となっており、エレベーターの有無については7割強が「無し」と回答しています。
洋式トイレについては、約9割が「有り」と回答しており、サロンの設備としては全体的に足腰の弱い参加者にも比較的に利用しやすい環境になっていると推測されます。

- サロン会場の階数については、「1階」が71.7%で最も割合が高く、次いで「2階」(19.6%)、「3階」(3.9%)と続いており、ほとんどの会場が2階以下でサロンを実施しています。
- サロン会場のエレベーターの有無については、「無し」が74.4%と最も割合が高く、「有り」は19.6%と低くなっています。
- サロン会場の洋式トイレの有無については、「有り」が88.0%と割合が高くなっています。また、「無し」が9.3%となっています。
- サロン会場ではエレベーターの設置率は低いものの、会場が2階以下のサロン割合が高く、洋式トイレの設置率も高いことから、サロン会場は足腰の弱い参加者にも比較的に利用しやすい環境にあると推測されます。

図 2-2-3 サロン会場の階数

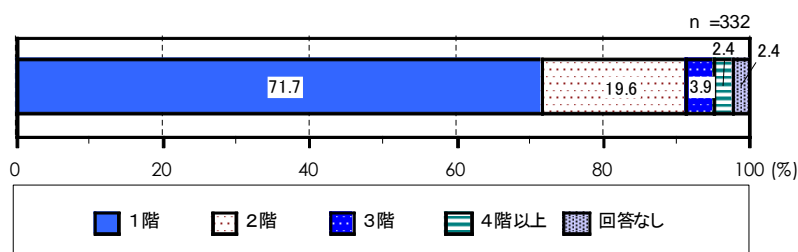


図 2-2-4 エレベーターの有無

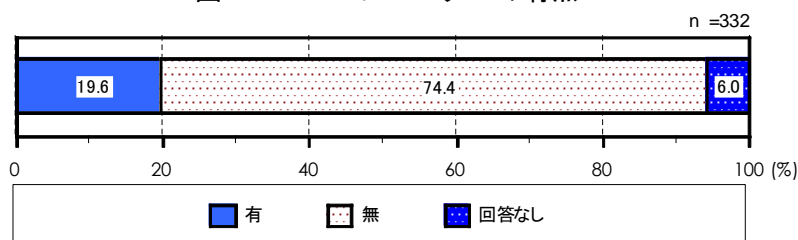
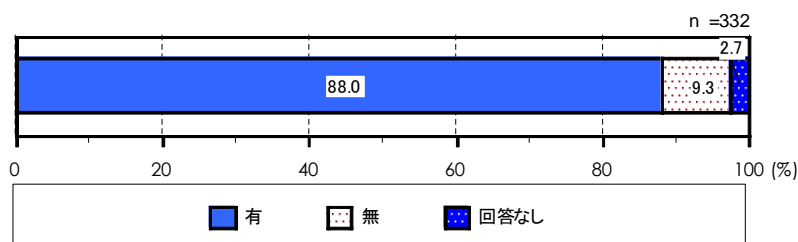


図 2-2-5 洋式トイレの有無



(3) サロンの開催頻度

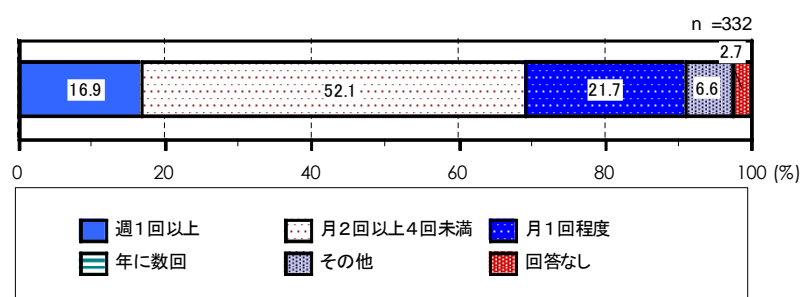
問 1-9 サロンの開催頻度を教えてください。

- ◆「月2回以上4回未満」が52.1%と最も多く、月2回以上開催するサロンは全体の7割近くとなっています。

○サロンの開催頻度については、「月2回以上4回未満」が52.1%で最も割合が高く、次いで「月1回程度」(21.7%)、「週1回以上」(16.9%)となっています。

○月1回以上開催するサロンは全体の9割を超えており、そのうち月2回以上開催するサロンは全体の7割近くとなっています。

図 2-2-6 サロンの開催回数



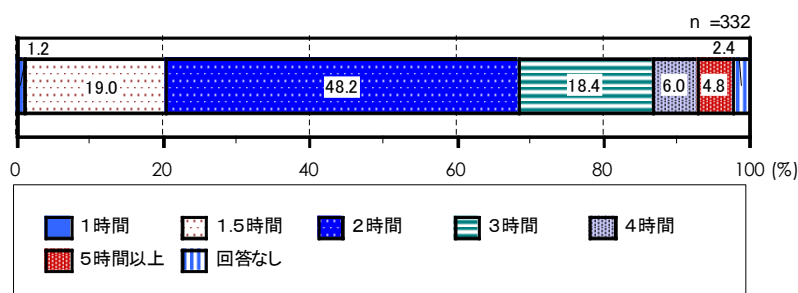
(4) サロン1回あたりの所要時間

問 1-10 サロン1回あたりの所要時間を教えてください。

- ◆サロン1回あたりの所要時間数は、「2時間」が最も多く48.2%となっています。

○サロン1回あたりの所要時間数は、「2時間」が最も多く48.2%、次いで「1.5時間」が19.0%、「3時間」が18.4%となっており、3時間以内の所要時間で開催しているサロンは全体の9割弱となっています。

図 2-2-7 サロン1回あたりの所要時間数



(5) サロンの活動する時間帯及び曜日

問 1-11 サロン活動時間及び曜日を教えてください。

◆サロン開催時間帯は、「午前だけ」が43.3%、「午後だけ」が38.9%。また、ほとんどのサロンが「平日」に開催しています

○サロン開催時間帯では、「午前だけ」の割合が43.3%と最も高く、次いで「午後だけ」が38.9%となっています。

○サロンを開催する曜日については、「平日」に開催が最も多く85.0%、次いで「休日」が6.3%となっています。

図 2-2-8 サロン活動する時間帯

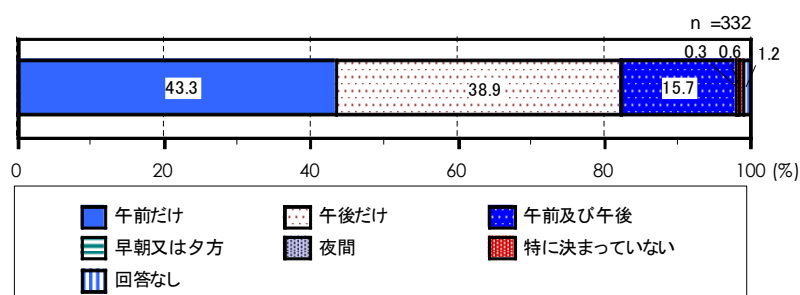
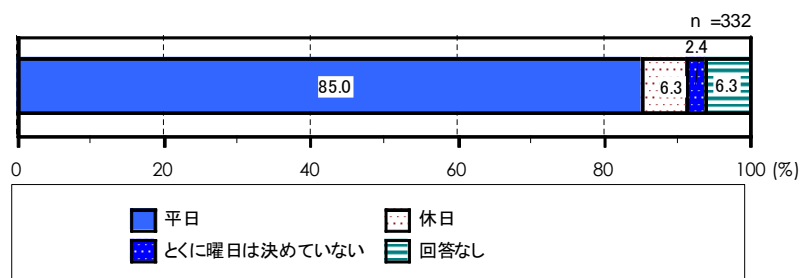


図 2-2-9 サロン活動する曜日



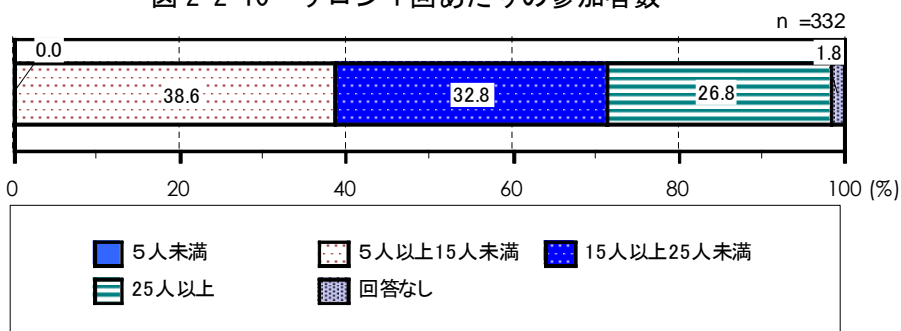
(6) サロン1回あたりの参加者数

問 1-12 サロン1回あたりの参加者数を教えてください。

◆サロン1回あたりの参加者数では「5人以上15人未満」が最も多く38.6%。25人未満での開催が全体の7割程度となっています。

- サロン1回あたりの参加者数では「5人以上15人未満」が38.6%と最も多く、次いで「15人以上25人未満」が32.8%、「25人以上」が26.8%となっています。
- 「5人未満」と少人数で行うサロン活動は0.0%です。

図 2-2-10 サロン1回あたりの参加者数



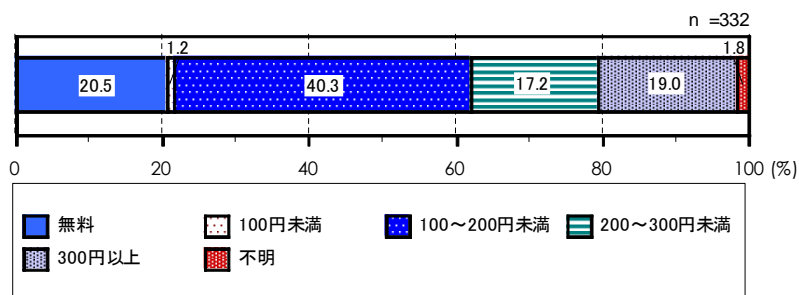
(7) サロン1回あたりの参加費

問 1-13 サロン1回あたりの参加費を教えてください。

◆サロン1回あたりの参加費は「100~200円未満」が最も多く40.3%となっています。約8割のサロンは参加費を一回300円未満で開催しています。

- サロン1回あたりの参加費は「100~200円未満」が40.3%と最も多く、次いで「無料」が20.5%、「300円以上」が19.0%と続いています。
- 約8割のサロンは参加費を一回300円未満で開催しています。

図 2-2-11 サロン1回あたりの参加費



(8) サロン参加者の男女比

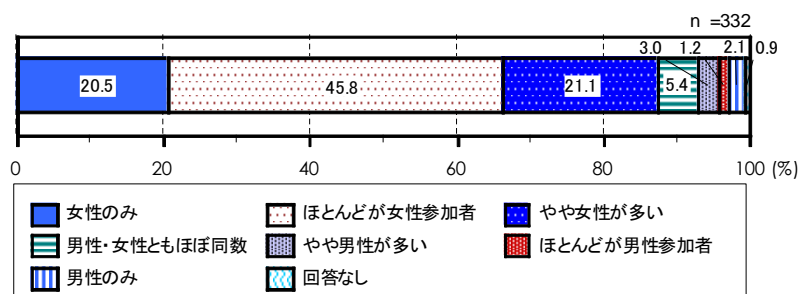
問2 サロン参加者の男女比を教えてください。

◆サロン参加者の男女比では「ほとんどが女性参加者」が最も多く 45.8%。男性の参加者比率は少なくなっています。

○サロン参加者の男女比では「ほとんどが女性参加者」が 45.8%と最も多く、次いで「やや女性が多い」が 21.1%、「女性のみ」が 20.5%となっています。

○「男性のみ」というサロンの割合は 2.1%となっている一方で「女性のみ」のサロンは 20.5%となっており、サロンの男性参加比率が少ないことがうかがえます。

図 2-2-12 サロン参加者の男女比



(9) サロン参加者の平均年齢

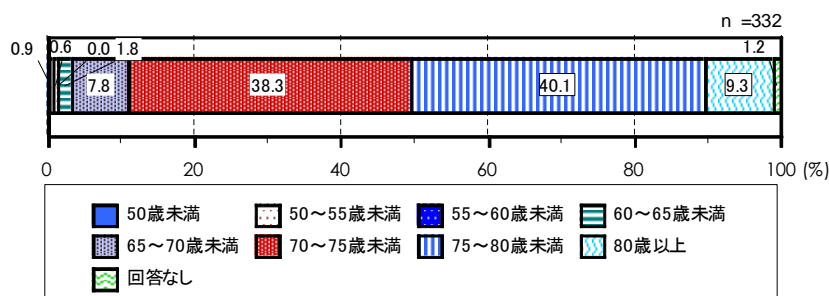
問3 サロン参加者の平均年齢を教えてください。

◆サロン参加者の平均年齢は、前期高齢者及び後期高齢者が 95.5%となっています。

○サロン参加者の平均年齢は「75歳以上 80歳未満」が 40.1%と最も多く、次いで「70歳以上 75歳未満」が 38.3%となっています。

○65歳未満の参加割合は 3.3%です。

図 2-2-13 サロン参加者の平均年齢



(10) サロン開設時と比較した参加者数の変化

問4 サロン開設時と比較した参加者数の変化を教えてください。

◆サロン開設時と比較して 48.5%のサロンで参加者数が「増えている」と回答しています。

○サロン開設時と比較して、48.5%のサロンで参加者が「増えている」と回答しており、次いで 37.0%が「ほとんど変化なし」と回答しています。一方 13.6%のサロンが「減っている」と回答しています。

○参加者の増加した理由として主なものは、口コミや参加者の誘い合わせが多く、減少した理由として主なものは高齢化による入院、死亡が多く挙がっています。

図 2-2-14 サロン開設時と比較した参加者数の変化

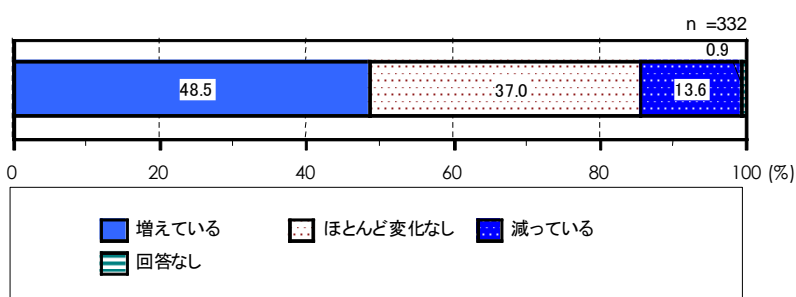


表 2-2-15 サロン開設時と比較した参加者数の変化（理由内訳）

参加者が増えた理由	ほとんど変化していない理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口コミや参加者の誘い合わせ (40 件) ・ サロン活動の周知が進んだ(17 件) ・ プログラム、内容に魅力がある (12 件) ・ 楽しい、気軽 (5 件) ・ 対象となる高齢者が増加している(4 件) ・ 開催会場の立地の良さ ・ 学区外からも参加するようになった ・ 開催日が増えたことと安全性が周知された ・ 女性の初参加が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入れ替わりはあるが人数が安定している (20 件) ・ メンバーが固定化している (7 件) ・ 会場に適した人数を保っている (2 件) ・ 他のスポーツクラブや文化教室を選ぶ人はサロンには参加しない (2 件) ・ 広報はしているが不足している ・ 会場を移動した ・ 内容により人数の差がある
参加者が減った理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の高齢化により、体力低下、病気や死亡で参加できなくなる (21 件) ・ 他のサロンに移って行った (2 件) ・ 内容のマンネリ化 ・ 会費が高い ・ 元気な高齢者はサロンを選ばない ・ 強引な勧誘が反発された ・ 月一回から二回に増やしたから ・ 保育園を利用して働く母親が増えた ・ 野外活動のため、天候に左右される 	

(11) サロンをはじめたきっかけ

問5 サロンをはじめたきっかけを教えてください。

◆多くの方が「ふれあい・交流の場が必要と思った」ことや「高齢者を地域で見守るため」にサロンをはじめています。

○サロンをはじめたきっかけとしては、「ふれあい・交流の場が必要と思った」が81.6%と最も割合が高く、次いで「高齢者を地域で見守るため」が52.1%、「介護予防や認知症予防のため」が39.2%、「趣味、レクリエーションの場がほしかった」が23.8%と続いています。

図 2-2-16 サロンをはじめたきっかけ

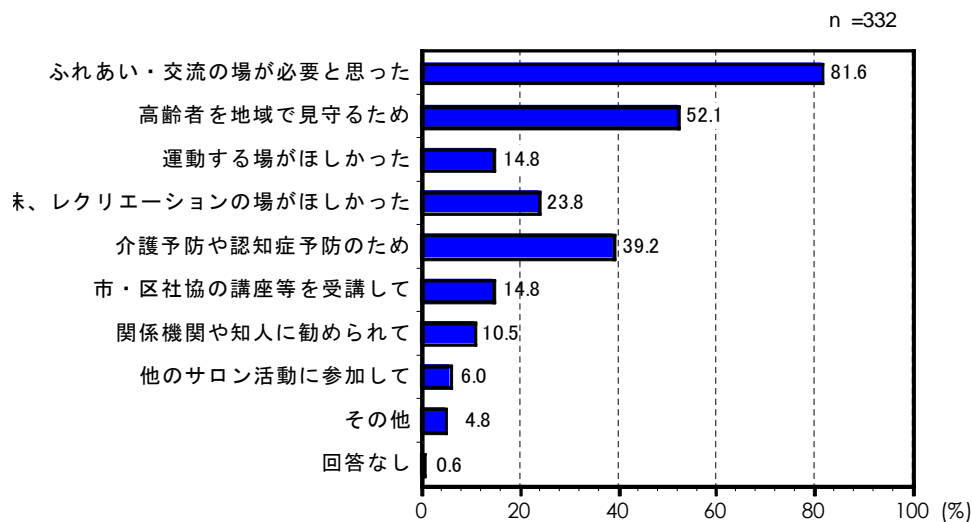


表 2-2-17 サロンをはじめたきっかけ（その他内訳）

内容
・ 前任のグループから活動を引き継いだ（4件）
・ 興味関心分野の賛同者を増やすため（1件）
・ 自宅に空いている部屋があったから（1件）
・ JR空地を無償で借り受けたから（1件）
・ 民生委員の活動として（1件）
・ 小学校PTAコーラス部から始めました（1件）
・ 保健センターの保健師さんの協力により（1件）
・ 子育てサロンボランティアからサロンへ（1件）
・ 悩み事相談室としても活用（1件）
・ 認知症予防リーダーの活動の場として（1件）
・ 勉強する、学ぶ場が必要だと思ったから（1件）
・ コミセン訪問の声を聞いて（1件）

(12) サロンの頻度の高いプログラム

問6 サロンのプログラムについて頻度の高い内容を教えてください。(あてはまるもの3つ)

◆約8割のサロンが「お茶とおしゃべり」を、半数以上が「健康体操・レクスポなどの運動」を行っています。

○サロンの頻度の高いプログラムとしては、「お茶とおしゃべり」が79.5%と最も割合が高く、次いで「健康体操・レクスポなどの運動」が53.6%、「音楽活動（歌唱・楽器演奏）」が37.0%と続いています。

○その他の活動としては、日帰り旅行や、公園清掃などの奉仕活動といった外出を伴うプログラムを取り入れているサロンもあります。

図 2-2-18 サロンの頻度の高いプログラム

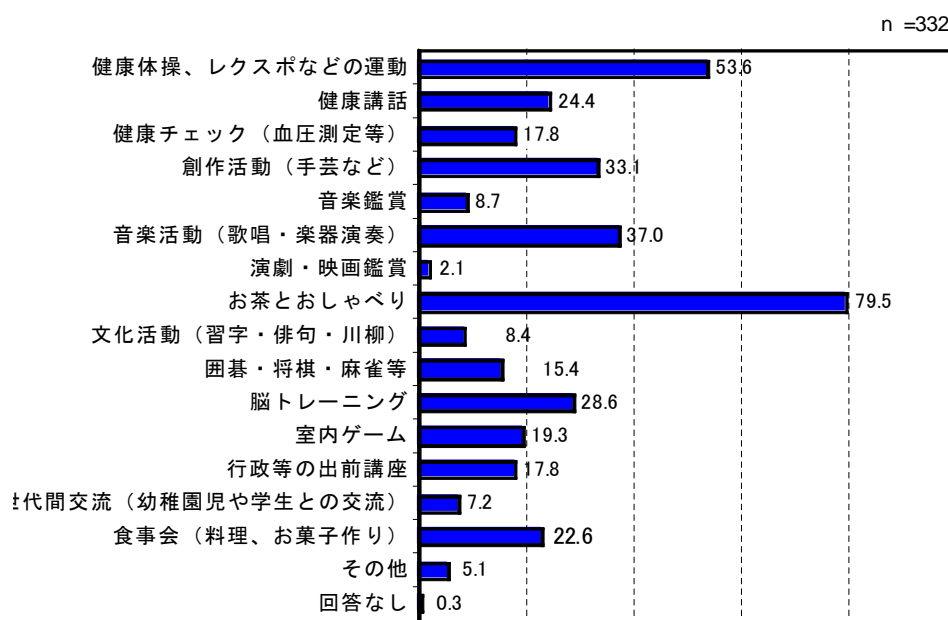


表 2-2-19 サロンの頻度の高いプログラム（その他内訳）

内容
・ 日帰り旅行、遠足（6件）
・ 公園の清掃（1件）
・ ワークショップ（1件）
・ 物作り（1件）
・ 民踊（1件）
・ 菜園で野菜作り（1件）
・ 発声トレーニング（1件）
・ 作品展に出す事（1件）
・ 社会奉仕（1件）
・ 専門職による相談（1件）
・ 区内コミュニケーション（1件）
・ お寺の住職による法話（1件）

(13) とくに喜ばれているプログラム

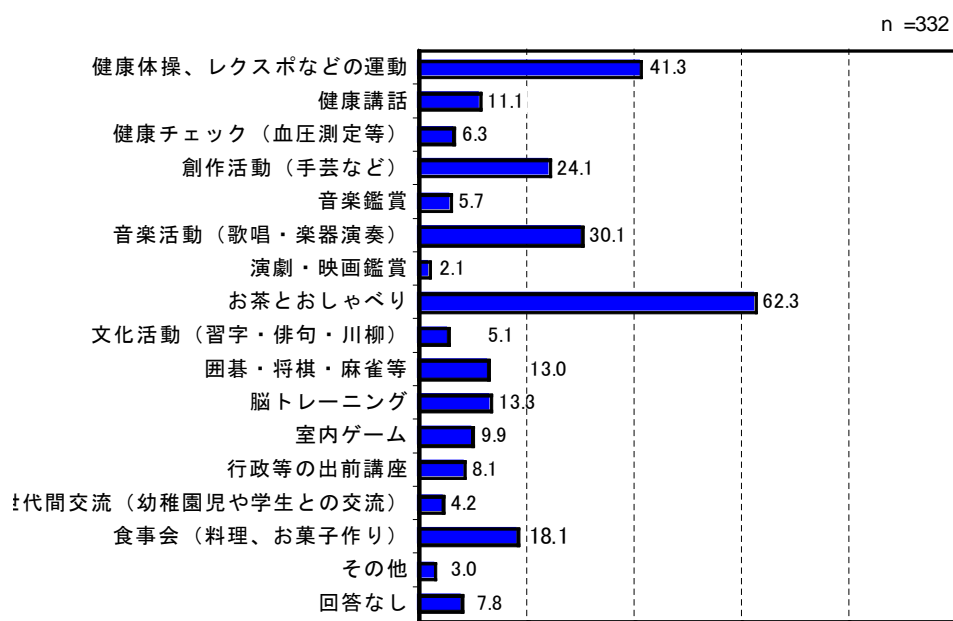
問6-1 その中でもとくに参加者に喜ばれているものを教えてください。(3つまで選択)

◆「お茶とおしゃべり」、「健康体操・レクスポなどの運動」など、開催頻度の高いプログラムが人気があるようです。

○参加者にとくに喜ばれているプログラムとしては、「お茶とおしゃべり」が62.3%と最も割合が高く、次いで「健康体操・レクスポなどの運動」が41.3%、「音楽活動(歌唱・楽器演奏)」が30.1%と続いています。

○開催される頻度の高いプログラムが、とくに喜ばれているようです。

図 2-2-20 とくに参加者に喜ばれているプログラム



第3章 サロンの経費や助成制度

(1) 1回開催あたりの必要経費

問7 サロン1回開催あたりの必要な経費について教えてください。

◆全体の9割以上のサロンが、1回開催するにあたり、何らかの経費がかかっていると回答しています。「1,000円から3,000円未満」が4割と最も多くなっています。

【全体】 (図 2-3-1)

○サロン1回開催あたり必要な経費として、「1,000円から3,000円未満」が41.3%と最も割合が高く、次いで「3,000円から5,000円未満」(22.0%)、「1,000円未満」(17.8%)と続いており、サロンを開催するために何らかの経費が必要となっているサロンは9割を超えています。

○一方で、サロンを開催するにあたって、「費用はかからない」と回答したサロンの割合は4.5%あり、サロン運営にあたって費用がかからないように運営しているサロンもあります。

【サロンの開始年別】 (図 2-3-1)

○サロンを長く継続しているサロン程、費用はかからないと回答する割合が多く、20年以上継続しているサロンにおいては22.2%が「費用はかからない」と答えています。

【サロン参加者の増減別】 (図 2-3-2)

○サロンの参加者が「減っている」とするサロンは、「1,000円未満」(26.7%)と「5,000円から10,000円未満」(20.0%)の双方が全体に比べて多くなっています。

図 2-3-1 サロンの開始年別「サロン1回あたりの必要経費」

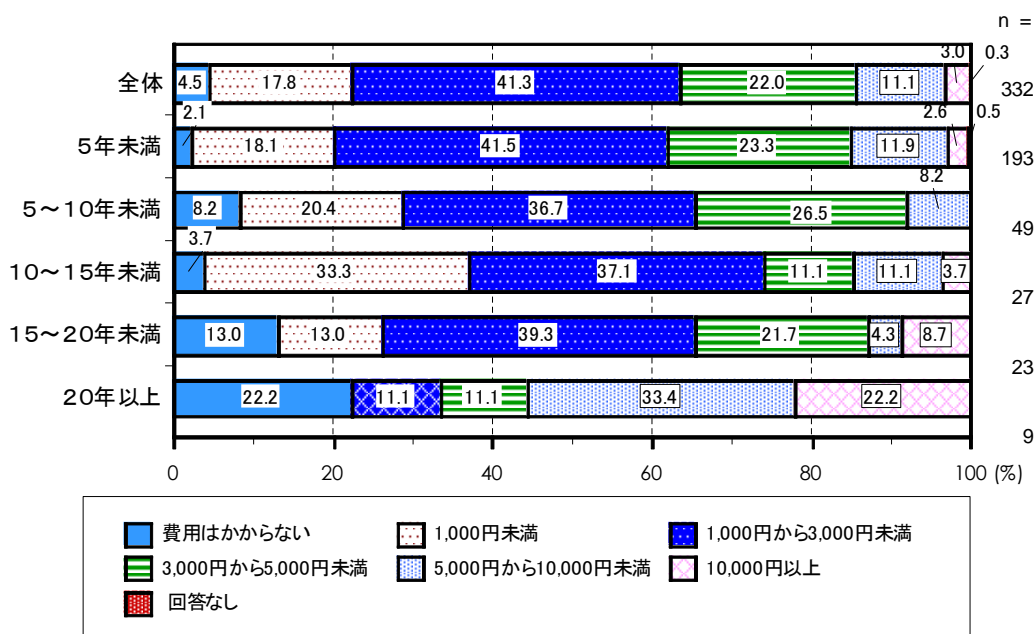
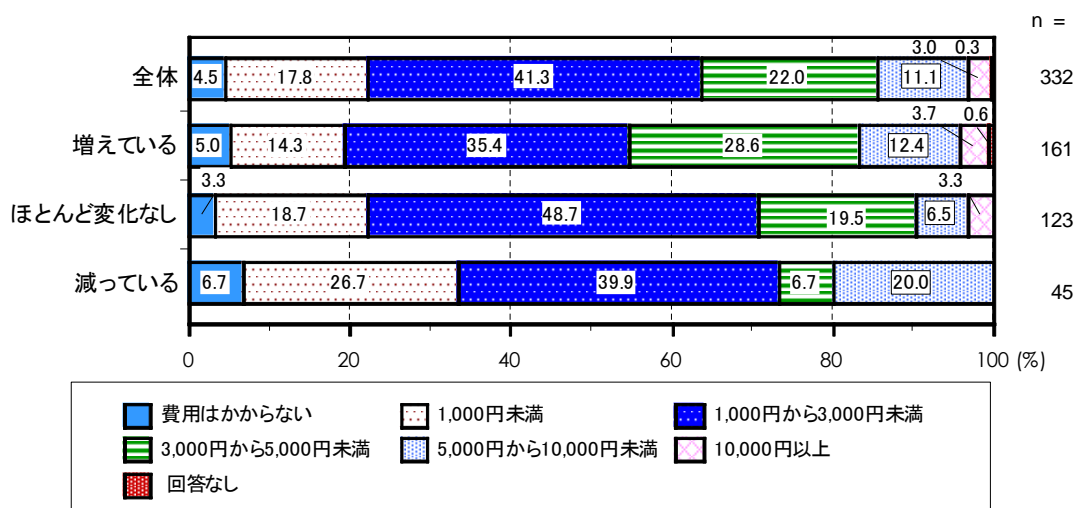


図 2-3-2 サロン参加者の増減別「サロン 1 回あたりの必要経費」



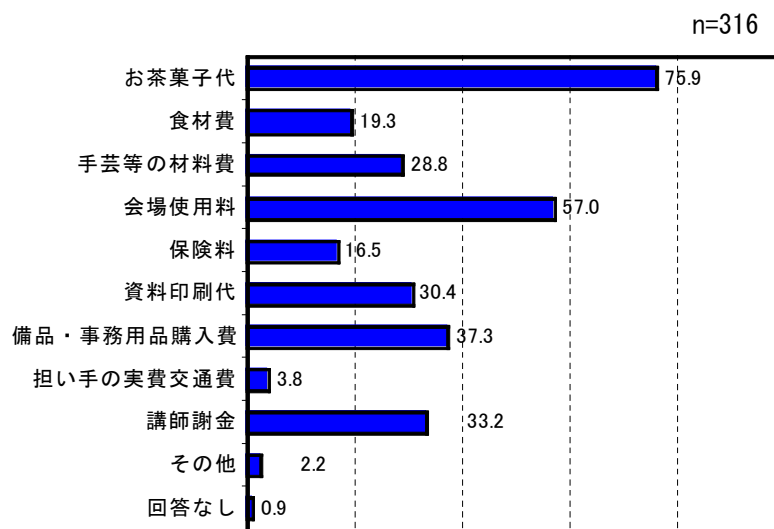
(2) サロン開催費用の内容 (n=316)

問 8 (問 7 で「費用がかかる」と回答した 316 名に対し) サロン開催費用の内容を教えてください。

◆サロン開催費用の内容として、「お茶菓子代」(75.9%)や「会場使用料」(57.0%)が多く挙げられています。

○サロン開催費用の内容としては、「お茶菓子代」が 75.9%と最も割合が高く、次いで「会場使用料」(57.0%)、「備品・事務用品購入費」(37.3%)と続いています。

図 2-3-3 「サロン開催費用の内容」



(3) サロンの運営費（収入）の状況

問9 サロンの運営費（収入）の状況について教えてください。

◆全体の9割以上が運営費(収入)状況を概ね良好としています。

【全体】 (図 2-3-4)

○「なんとかやりくりできている」が61.8%と最も割合が高く、次いで「ちょうど良い」(21.1%)と続いており、「運営費に余裕がある」(7.5%)を合すると、9割以上のサロンが運営費(収入)状況を概ね良好としています。

○一方で「運営費が足りていない」と回答したサロンの割合は8.4%となっています。

【サロンの開始年別】 (図 2-3-4)

○サロン継続年数が高いほど、「運営費に余裕がある」や「ちょうどよい」の割合が高くなる傾向にあります。

【サロン参加者の増減別】 (図 2-3-5)

○参加者が減っているサロンでは、「なんとかやりくりできている」が全体と比較して6.2%低くなっています。

図 2-3-4 サロンの開始年別「サロン運営費（収入）の状況について」

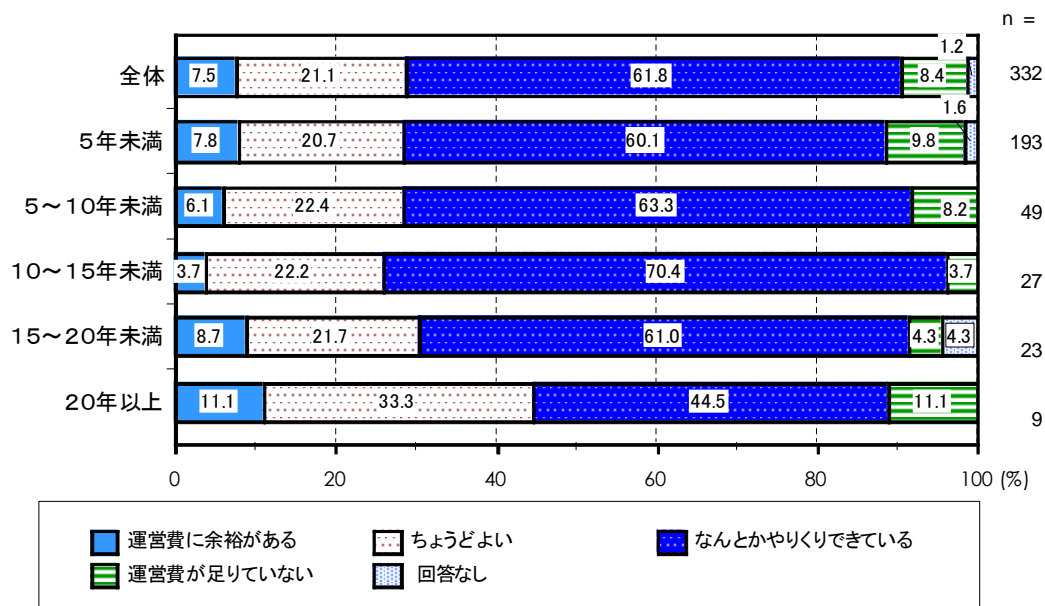
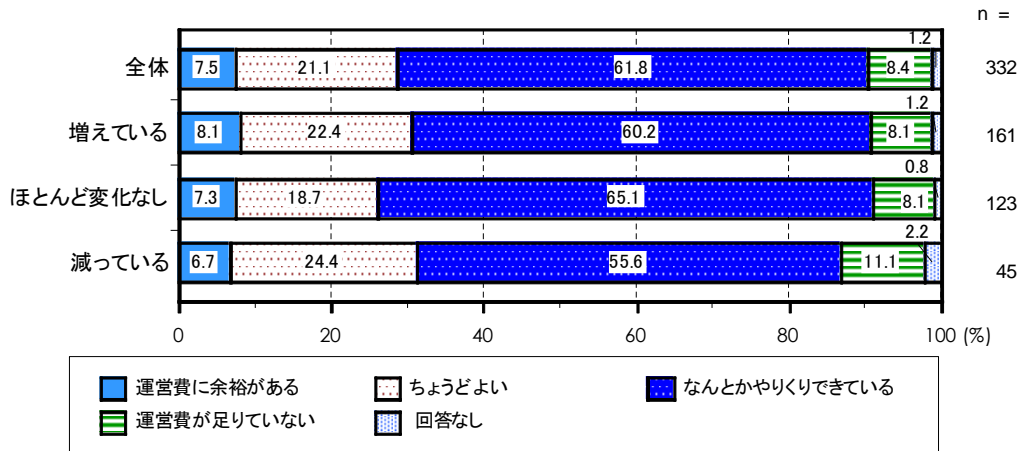


図 2-3-5 サロン参加者の増減別「サロン運営費（収入）の状況について」



(4) 利用している助成金や補助金

問 10 サロンを継続的に運営していくために利用している

助成金や補助金について教えてください。

◆「区社協からの事業助成」(52.7%)と、「市社協の運営助成」(49.4%)の二つが多く利用されています。

【全体】(図 2-3-6)

○サロンの継続的な運営のために利用している助成金や補助金として、「区社協からの事業助成」が52.7%と最も割合が高く、次いで「市社協の運営助成」が49.4%、「学区地域福祉推進協議会」が28.6%と続いています。

【サロンの開始年別】(図 2-3-6)

○サロン開始年が20年以上前のサロンは、「市社協の運営助成」および「区社協からの事業助成」が全体よりも高く、5年～20年未満のサロンは「学区地域福祉推進協議会」が全体と比較して8.0～15.0%程度高くなっています。

【サロン参加者の増減別】(図 2-3-7)

○参加者の増減別では、大きな差はありません。

図 2-3-6 サロンの開始年別「利用している助成金や補助金について」

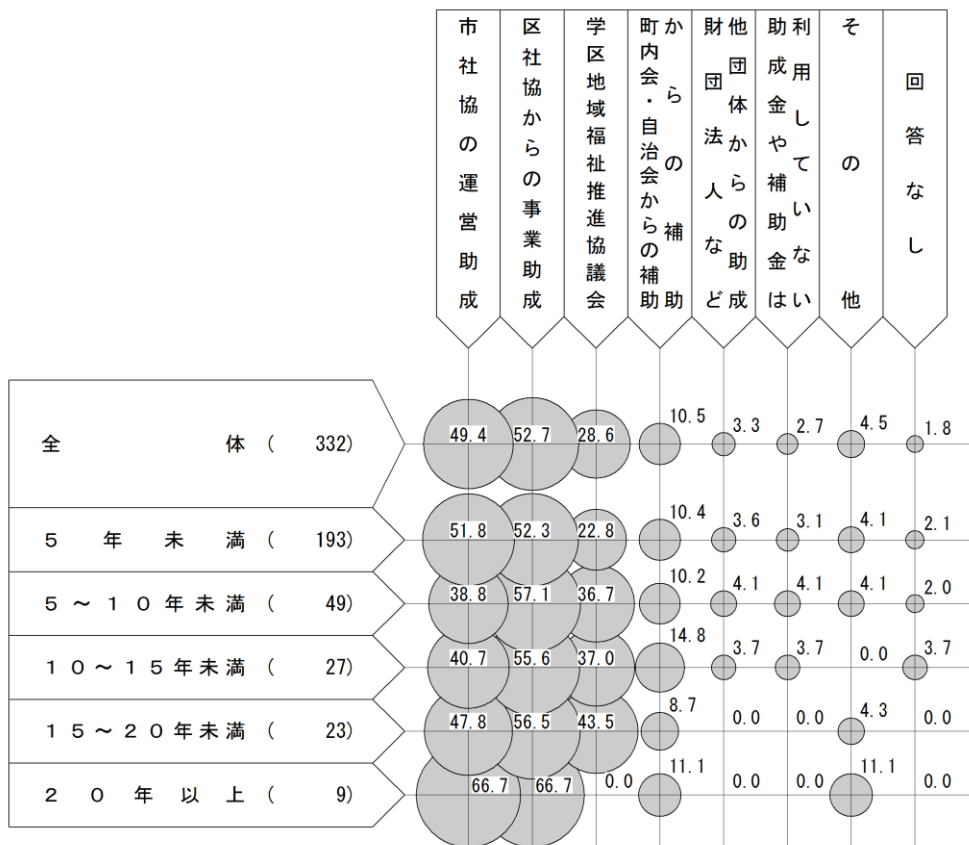


図 2-3-7 サロン参加者の増減別「利用している助成金や補助金について」

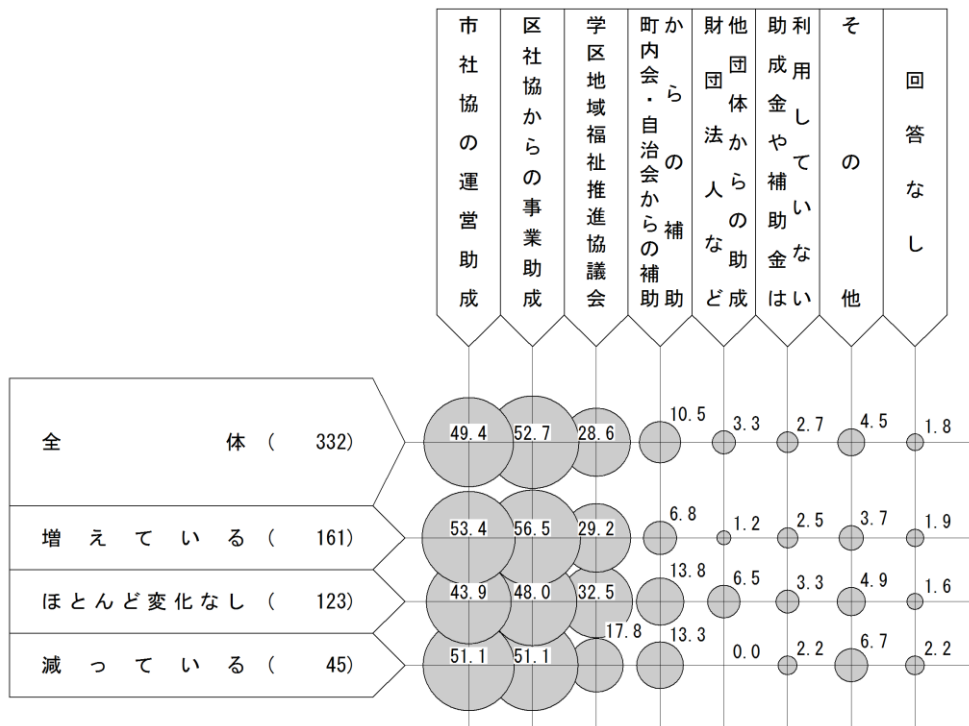


表 2-3-8 利用している助成金や補助金について（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ バザー出店の売上金（5件） ・ 参加者・主催者からの差し入れ（物品）・寄付（3件） ・ 老人会から ・ 主催者個人の立替えて備品調達 ・ 区地域包括ケア推進会議からの助成 ・ 学区資源回収センター ・ 学区からの助成 ・ イオンのイエローレシートキャンペーン ・ コープあいちからの寄附

第4章

サロンの運営状況について

(1) 連絡・連携している団体や機関

問 11 日ごろから連絡や連携している団体や機関について教えてください。

◆8割以上のサロンが「区社協」と日頃から連絡・連携をしています。

【全体】(図 2-4-1)

○日ごろから連携している団体や機関として、「区社協」が80.7%と最も割合が高く、次いで「学区地域福祉推進協議会」(40.7%)、「いきいき支援センター」(40.1%)、「民生委員・児童委員」(33.1%)と続いています。

【サロンの開始年別】(図 2-4-1)

○サロン開始年が5年未満のサロンは「区社協」(85.3%)、「自治会・町内会」(38.9%)など、が全体と比較して、より多くの団体・機関と連絡・連携しているようです。

【サロン参加者の増減別】(図 2-4-2)

○参加者が減っているサロンでは、「学区地域福祉推進協議会」と「民生委員・児童委員」がそれぞれ22.2%と、全体と比較して低くなっています。

図 2-4-1 サロンの開始年別「連絡・連携している団体や機関」

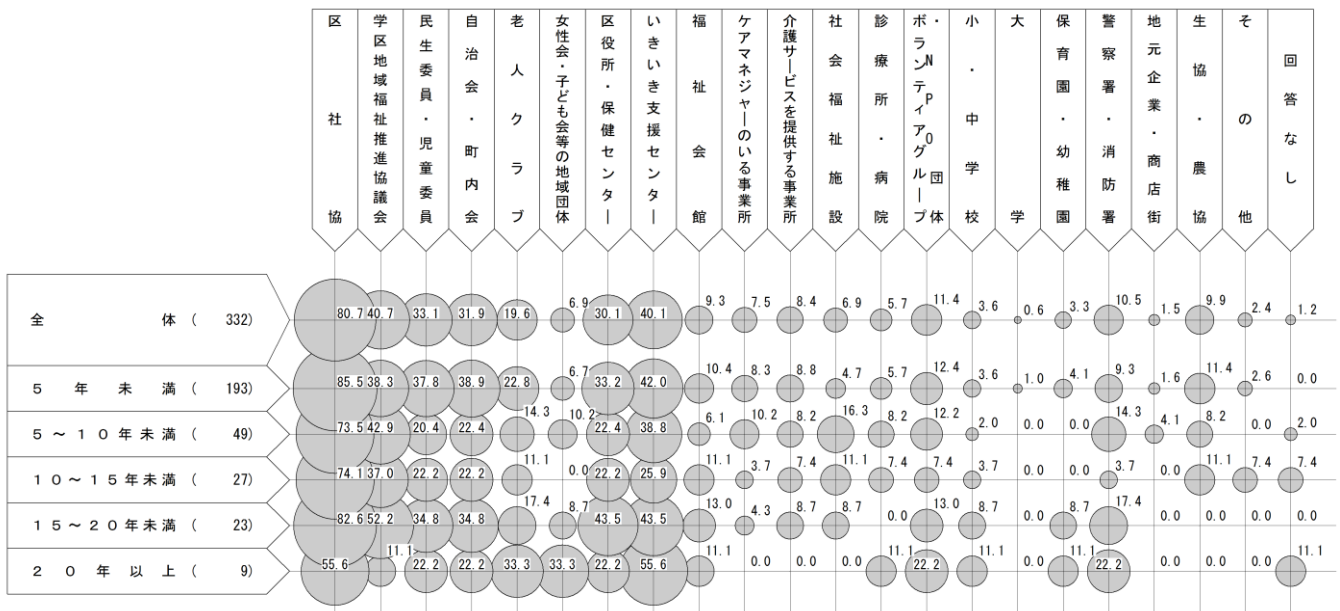


図 2-4-2 サロン参加者の増減別「連絡・連携している団体や機関」

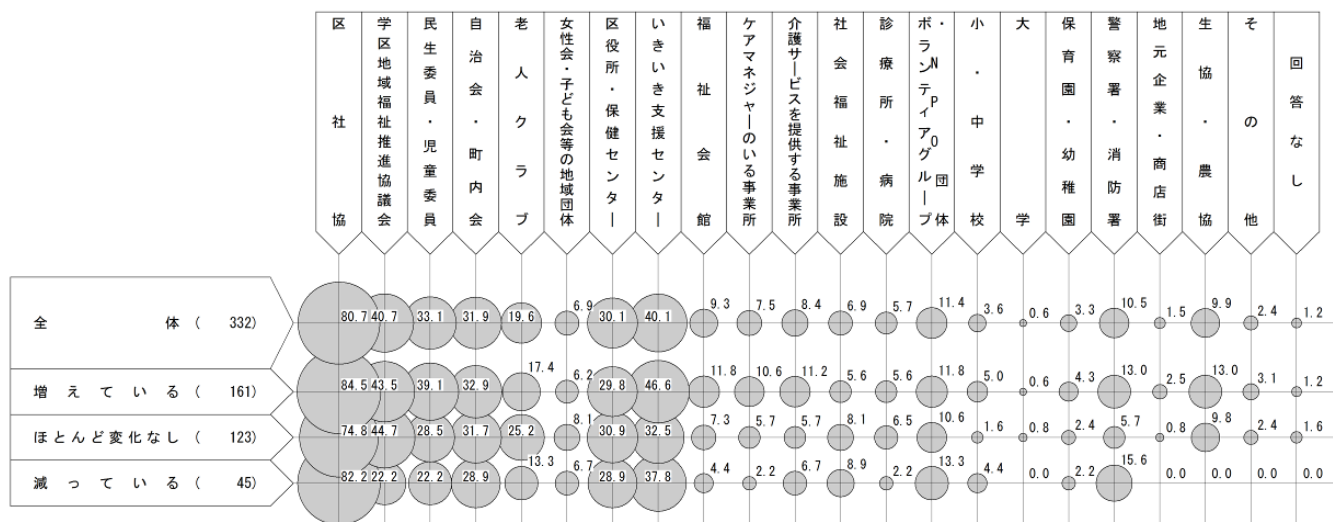


表 2-4-3 連絡・連携している団体や機関（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ UR 公団 ・ コーラスグループ、町村生涯教育課 ・ 学童保育所児童との交流会 ・ 主に区社協、日頃から連絡はK サロンボランティアグループの方々 ・ トワイライトスクール、区生涯学習センター ・ 保健環境委員会 ・ 学童

(2) サロン活動継続のために心がけていることや取り組んでいること

問 12 サロン活動継続のために、心がけていることや取り組んでいることを教えてください。

◆サロン活動継続のために「誰でも気軽に参加できる雰囲気づくり」(92.5%)や「参加者の声を尊重」(77.7%)などが、心がけたり、取り組まれたりしています。また、長く続いているサロンや参加者が増えているサロンは「スタッフ自身も楽しんでいる」が多いようです。

【全体】(図 2-4-4)

○サロン活動継続のために、「誰でも気軽に参加できる雰囲気づくりをしている」が 92.5%と最も割合が高く、次いで「参加者の声を尊重している」(77.7%)、「スタッフと参加者の垣根をつくらない」(69.3%)、「スタッフ自身も楽しんでいる」(65.4%)と続いています。

【サロンの開始年別】(図 2-4-4)

○サロン開始から 15 年以上の長いサロンは「スタッフ自身も楽しんでいる」が全体と比較して 10%以上高くなっています。

【サロン参加者の増減別】(図 2-4-5)

○参加者が減っているサロンでは、「スタッフ自身も楽しんでいる」が全体と比較して 16.5%低く、「参加者の声を尊重している」も 11.0%低くなっています。また、参加者が増えているサロンでは「スタッフ自身も楽しんでいる」が全体と比較して 5.4%、「参加者が役割を持っている」が 4.6%と若干高くなっています。

図 2-4-4 サロンの開始年別「サロン活動継続のため、心がけていることや取り組んでいること」

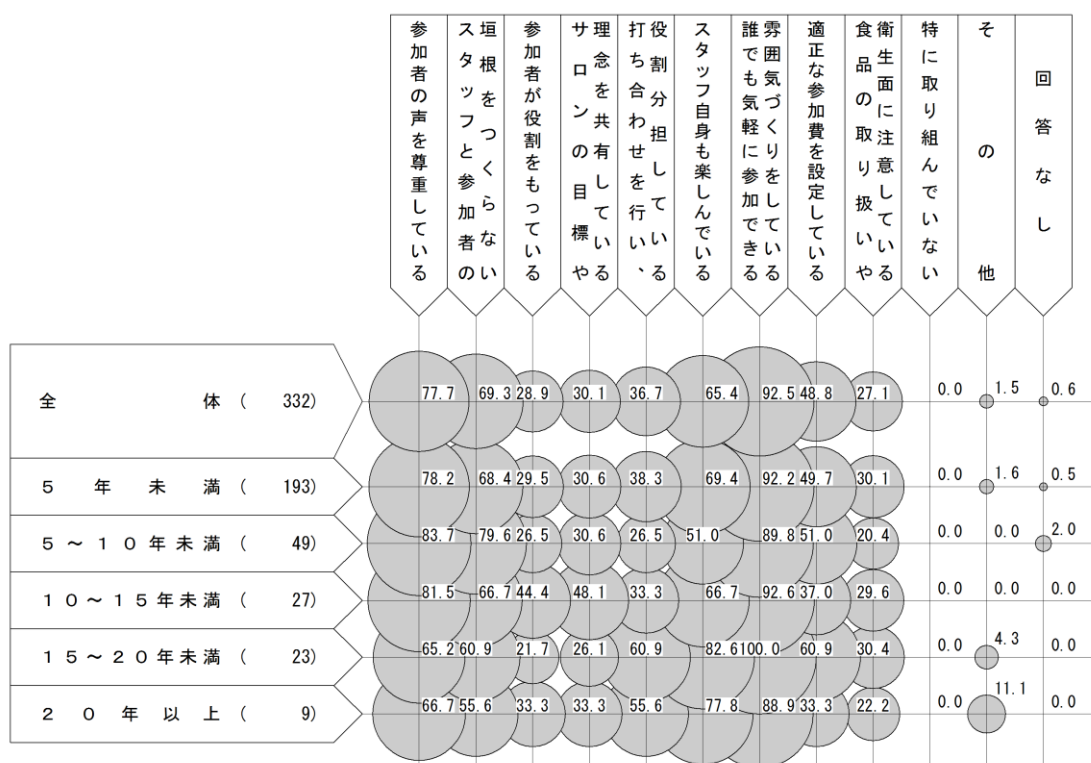


図 2-4-5 サロン参加者の増減別「サロン活動継続のため、心がけていることや取り組んでいること」

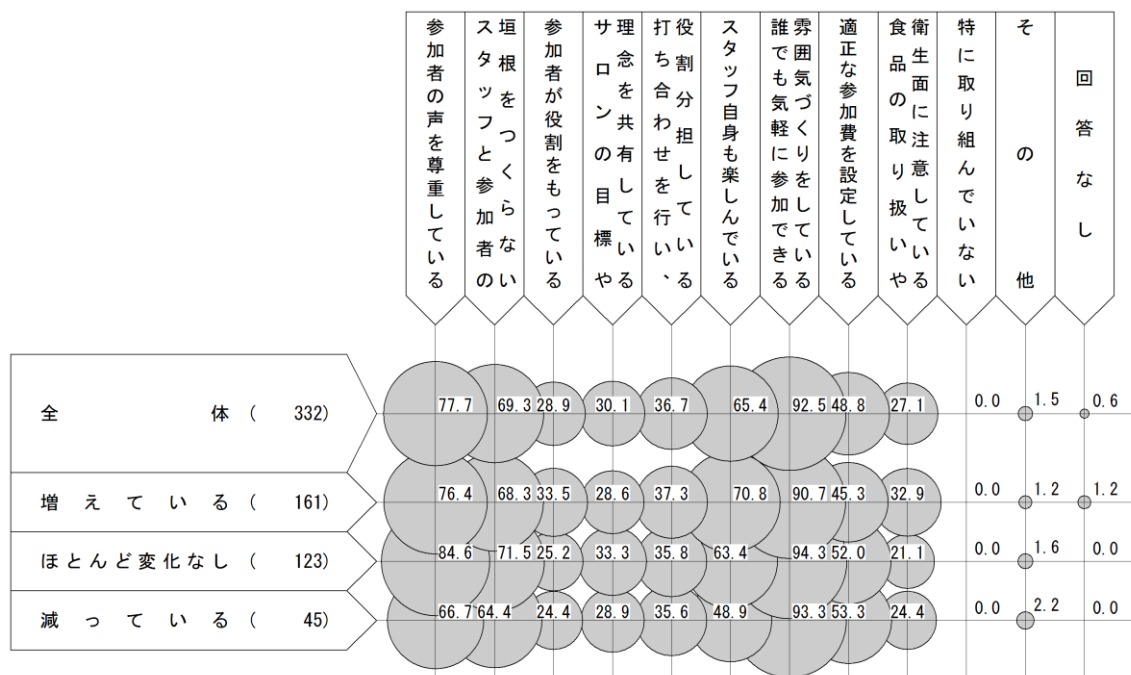


表 2-4-6 サロン活動継続のため、心がけていることや取り組んでいること（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 休んだ人には連絡をする様にしている（安否確認の為） ・ 施設見学や旅行や他のサロンとの交流などとりくんでいる ・ 人数が増えると参加費が安くなるので知り合いに声かけを皆で心がけている ・ サロン以外のボランティアの誘いもしている ・ 参加者の世代間交流

(3) 参加者の困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいること

問 13 参加者のちょっとした困りごとの発見や解決に向けて、
取り組んでいることについて教えてください。

◆「何気ない会話から困りごとの把握」や、「参加者同士での見守りや助け合い」が多く取り組まれる一方、「ボランティア団体等への困りごとの支援依頼」や、「地域支えあい事業の住民相談窓口への相談」との連携の取り組みは少ないようです。

【全体】 (図 2-4-7)

○参加者のちょっとした困りごとの発見や解決に向けて、取り組んでいることは、「何気ない会話から困りごとの把握」が 64.8%と最も割合が高く、次いで「参加者同士での見守りや助け合い」(58.1%)、「困りごとを話せる場や機会づくり」(46.1%)と続いています。

○一方で、「ボランティア団体等への困りごとの支援依頼」が 4.2%と最も低く、「地域支えあい事業の住民相談窓口への相談」(4.5%)との取り組みは低いようです。

【サロンの開始年別】 (図 2-4-7)

○サロン開始年が 10 年～15 年未満のサロンは「参加者同士での見守りや助け合い」(77.8%)や「何気ない会話からの困りごとの把握」(70.4%)、「困りごとを話せる場や機会づくり」(51.9%)など、いずれも全体と比較して高くなっています。また 20 年以上のサロンは「特に取り組んでいない」が 22.2%と高くなっています。

【サロン参加者の増減別】 (図 2-4-8)

○参加者が増えているサロンは、減っているサロンに比較して、「何気ない会話からの困りごとの把握」、「困りごとを話せる場や機会づくり」、「区社協やいきいき支援センター職員の定期的なサロン訪問」といった取り組みにおいて、いずれも 20%程度、高くなっています。

図 2-4-7 サロンの開始年別「困りごとの発見や解決に向けて」

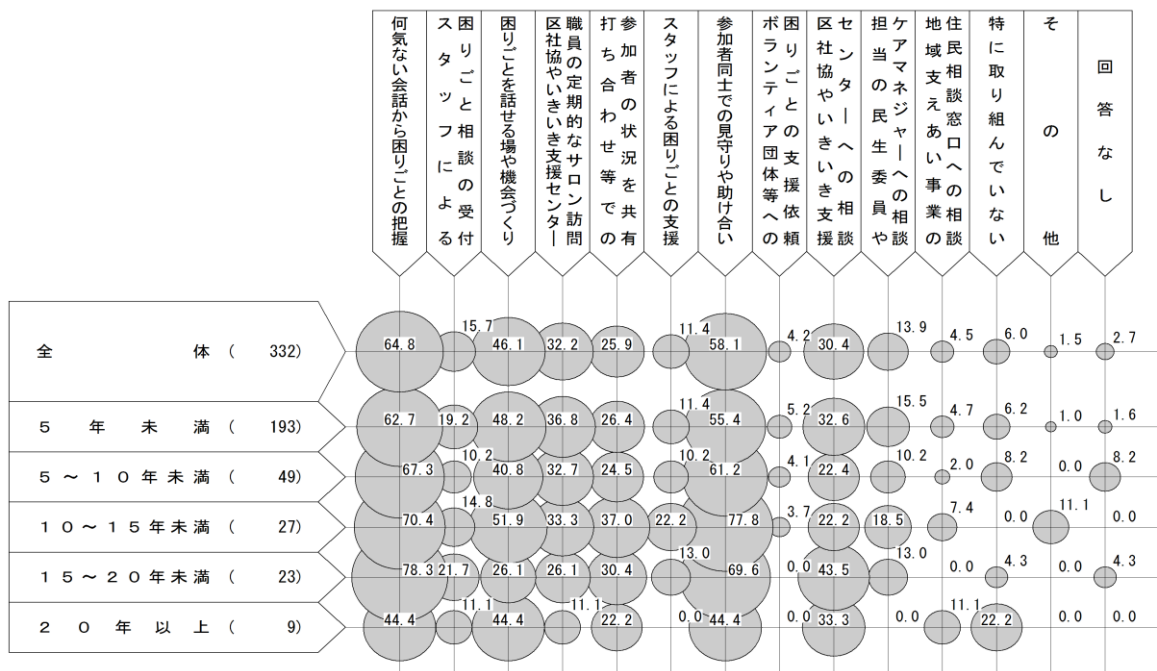


図 2-4-8 サロン参加者の増減別「困りごとの発見や解決に向けて」

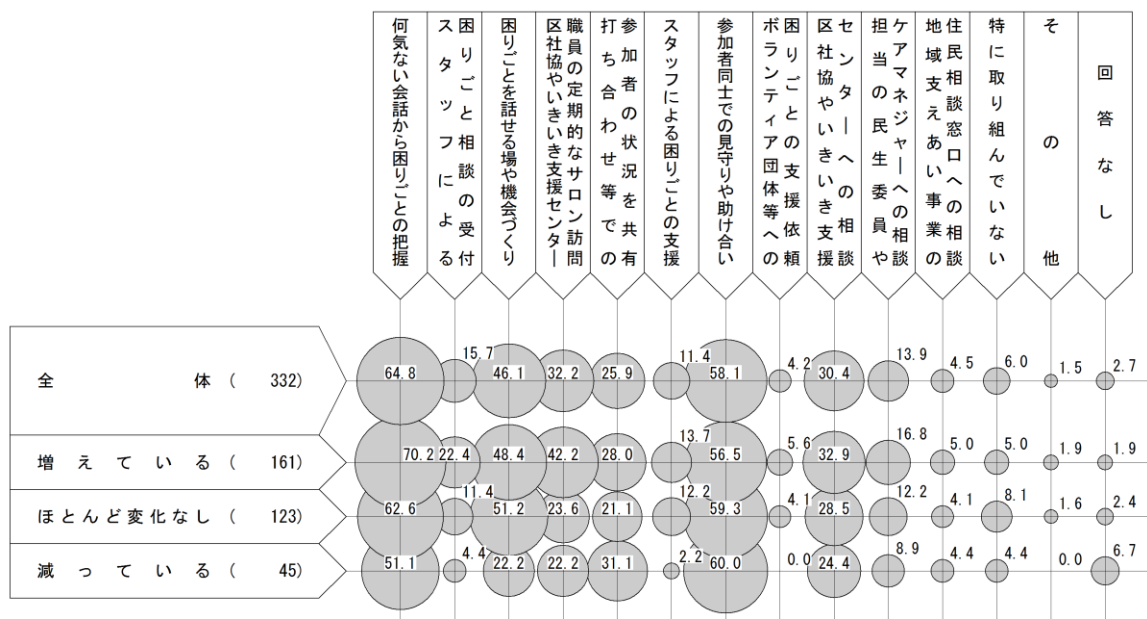


表 2-4-9 参加者の困りごとの発見や解決に向けて（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生協らの支援要請を中心に活動 ・ 先生のアドバイス ・ 保健センター ・ 医療生協に支援 ・ 公民館にて皆さん集まり毎回上が（2F）神社に参拝をして（代表のみ）皆さんを仲よく見守下さっております。

(4) 現在のサロンの運営状況

問 14 現在のサロンの運営状況について教えてください。

◆サロン全体の約半数が「特に悩みや困っていることもなく、順調に運営できている」と答え、4割弱が「悩みや困っていることはあるが、運営できている」と答えています。

【全体】 (図 2-4-10)

○現在の運営状況については、「特に悩みや困っていることもなく、順調に運営できている」が 55.8 と最も割合が高く、次いで「悩みや困っていることはあるが、運営できている」(37.0%)が続いています。

○一方で、「悩みや困っていることがあり、運営に不安を感じている・行き詰まっている」は 4.2% と最も低くなっています。

【サロンの開始年別】 (図 2-4-10)

○サロン開始年が 10 年～15 年未満のサロンは「特に悩みや困っていることもなく、順調に運営できている」が全体と比較して 7.2% 高くなっています。また、20 年以上のサロンは「悩みや困っていることはあるが、運営できている」が全体と比較して 7.4% 高くなっています。

【サロン参加者の増減別】 (図 2-4-11)

○参加者が減っているサロンでは、「悩みや困っていることがあり、運営に不安を感じている・行き詰まっている」が全体と比較して 13.3% と最も高くなっています。また、参加者が減っているサロンでは「特に悩みや困っていることもなく、順調に運営できている」が全体と比較して 21.4% 低くなっています。

図 2-4-10 サロンの開始年別「現在のサロンの運営状況」

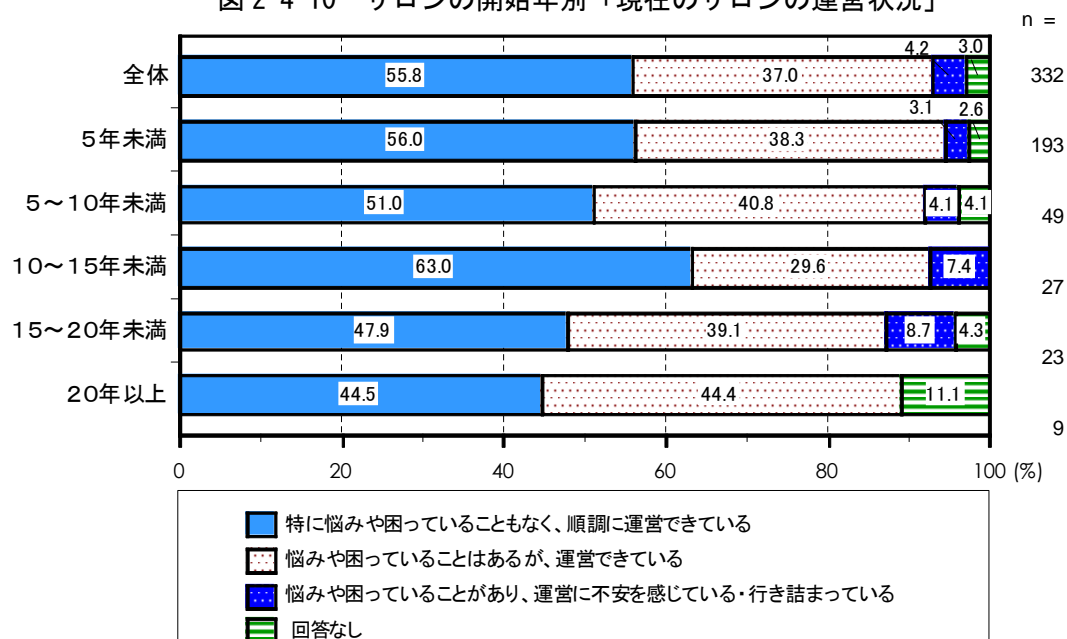
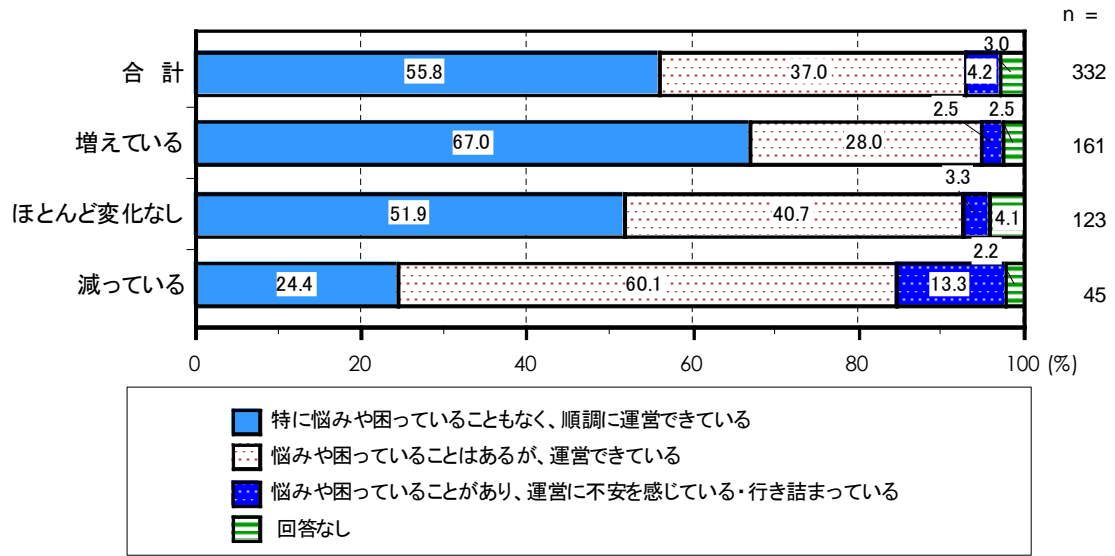


図 2-4-11 サロン参加者の増減別「現在のサロンの運営状況」



(5) 活動上の悩みや困っていること (n=137)

問 15 (問 14 で「2. 悩みや困っていることもあるが、運営できている」および「3. 悩みや困っていることがあり、運営に不安を感じている・行き詰っている」と回答した方(137名)に対し) サロンの活動上の悩みや困っていることについて教えてください。

◆「男性の参加が少ない」ことや「リーダーや後継者が育たない」、「スタッフの高齢化や世代の偏り」、「参加者が少ない」ことが悩みや困っていることとして挙がっています。

【全体】 (図 2-4-12)

○サロン活動上の悩みや困っていることについては、「男性の参加が少ない」が 43.8%と最も割合が高く、次いで「リーダーや後継者が育たない」(40.9%)、「スタッフの高齢化や世代の偏り」(37.2%)、「参加者が少ない」(34.3%)と続いています。

○一方で、「関係団体や機関の協力が得られない」が 0.7%と最も低く、「サロン活動に関する情報がない」、「サロン活動に関する相談先がない」がそれぞれ 1.5%と続いています。

【サロンの開始年別】 (図 2-4-12)

○サロン開始から新しいサロンほど「男性の参加が少ない」の割合が高く、長く運営しているサロンほど「リーダーや後継者が育たない」や「スタッフの高齢化や世代の偏り」が全体と比較して高くなっています。

【サロン参加者の増減別】 (図 2-4-13)

○参加者が減っているサロンでは、「参加者が少ない」が 57.6%と最も高く、「リーダーや後継者が育たない」や「スタッフの高齢化や世代の偏り」と「活動の中心となるリーダーや後継者が育たない」も、それぞれ 54.5%と全体と比較して高くなっています。

図 2-4-12 サロンの開始年別「活動上の悩み・困っていること」

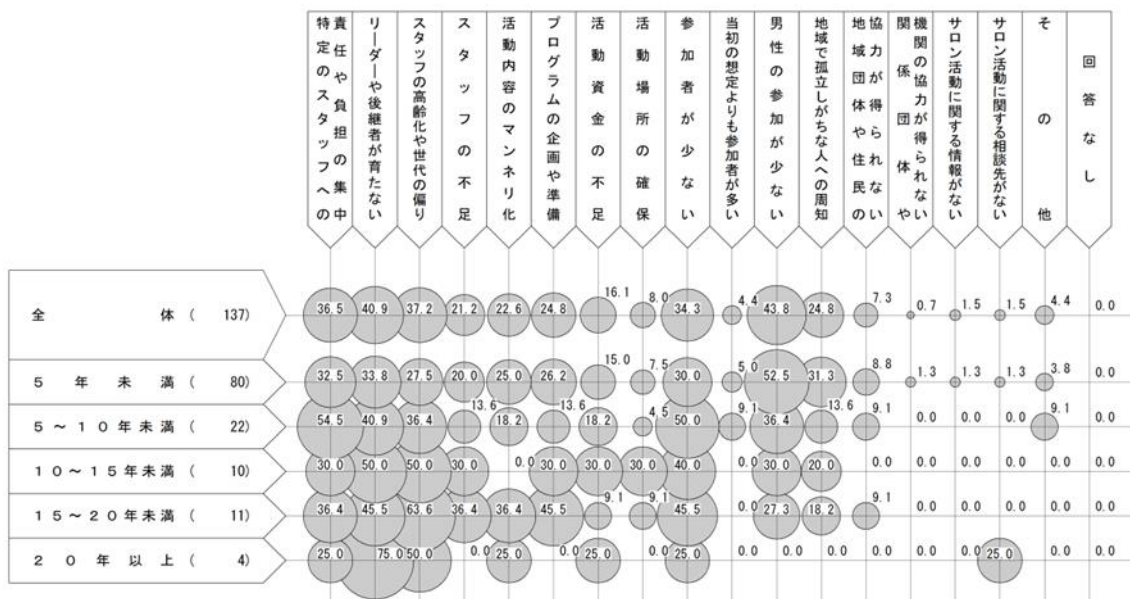
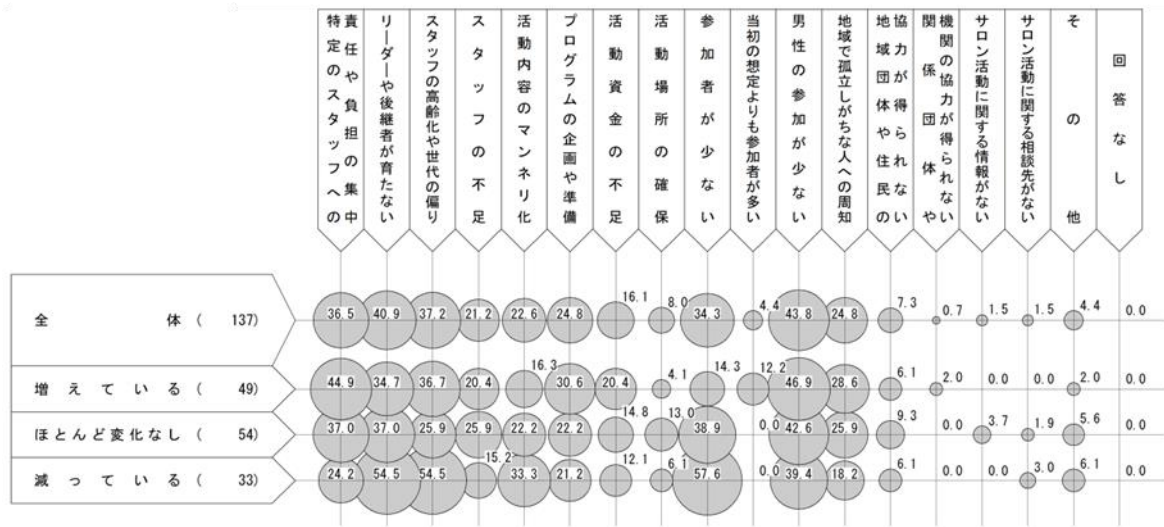


図 2-4-13 サロン参加者の増減別「活動上の悩み・困っていること」



第5章

サロン活動の効果及び今後の支援策

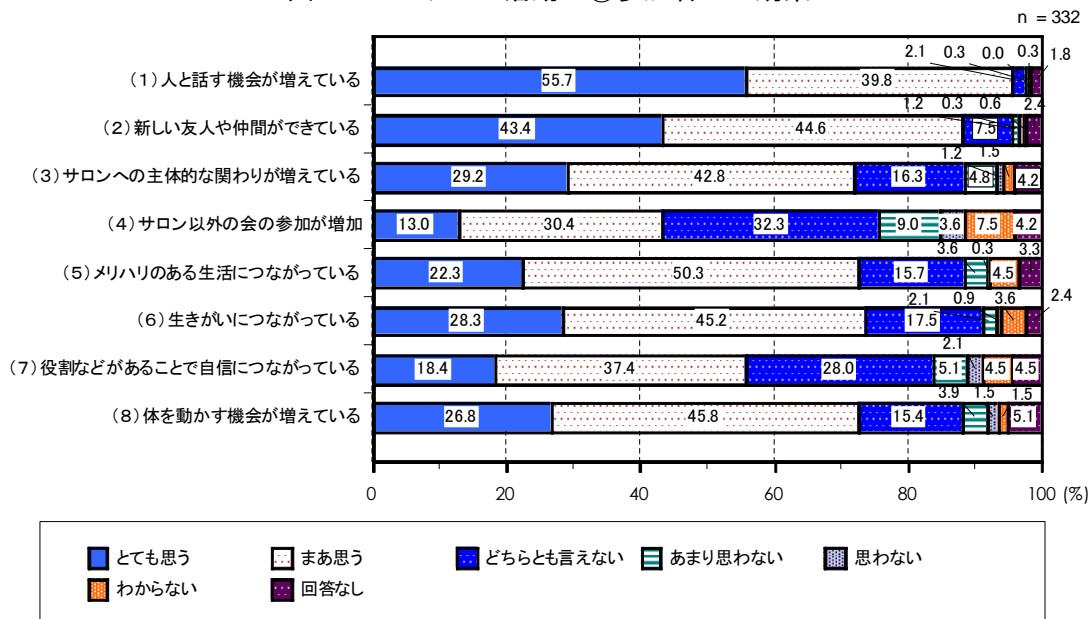
(1) サロン活動の参加者への効果

問 16① サロン活動を通じてあなたが感じている「①参加者への効果」について、各項目のそれぞれに、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

◆「人と話す機会が増えている」、「親しい友人や仲間が出来ている」といった効果が高く、全体的には効果が出ているとする項目が多くを占めています。

- サロン活動が参加者に与える効果として、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「人と話す機会が増えている」が 95.5%と最も割合が高く、次いで「親しい友人や仲間が出来ている」(88.0%)、「生きがいにつながっている」(73.5%)、「メリハリのある生活につながっている」(72.6%)、「体を動かす機会が増えている」(72.6%) となっています。
- 「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、「サロン以外の会(趣味やスポーツの会・老人クラブなど)の参加が増えている」が 12.6%と最も割合が高く、次いで「役割などがあることで自信につながっている」(7.2%)、「サロンへの主体的な関わりが増えている」(6.0%) となっています。
- 全ての項目で「とても思う」と「まあ思う」の合計値が「あまり思わない」と「思わない」の合計値を大きく上回っており、全体を通じて効果が出ていると思う人の方が効果を感じていない人よりも多くなっています。

図 2-5-1 サロン活動の①参加者への効果



(2) サロン活動のサロンへの効果

問 16② サロン活動を通じてあなたが感じている「②サロンへの効果」について、各項目のそれぞれに、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

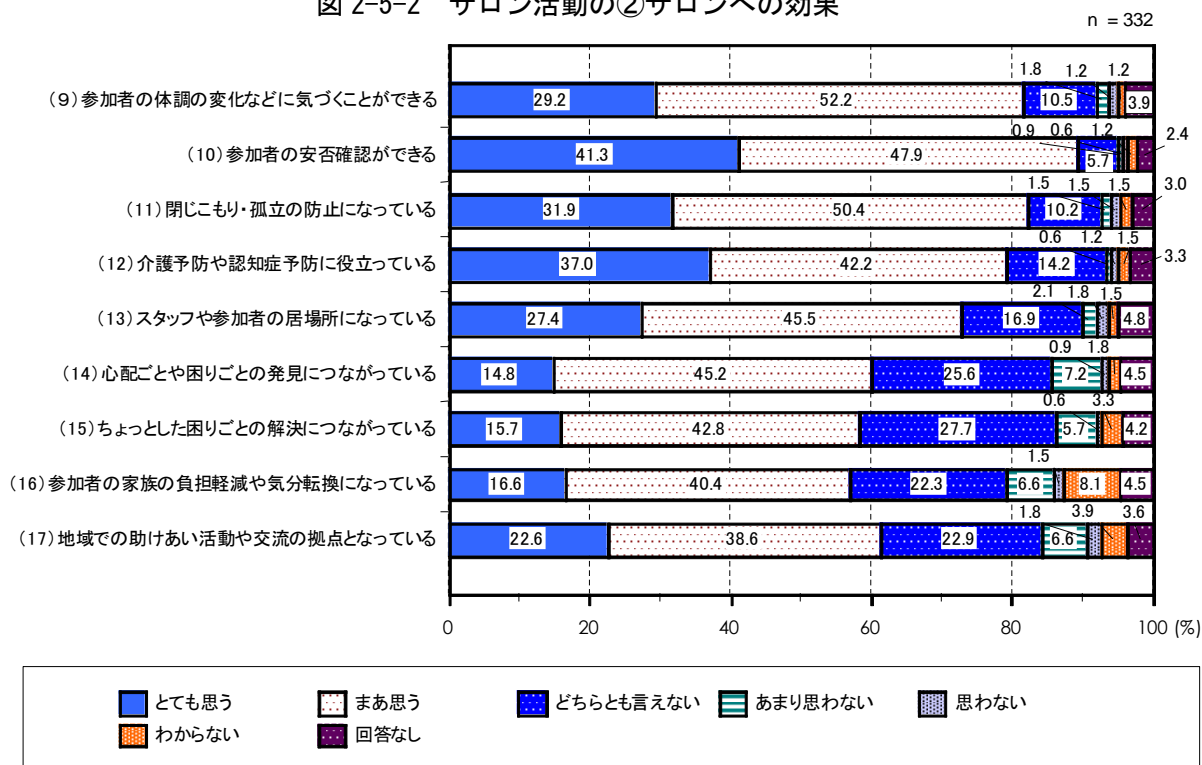
◆「参加者の安否確認ができる」、「閉じこもり・孤立の防止になっている」、「参加者の体調の変化などに気づくことができる」といった効果を8割以上の人を感じています。全体的には効果が出ている項目が多くを占めています。

○サロン活動によるサロンへの効果は、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「参加者の安否確認ができる」が89.2%と最も割合が高く、次いで「閉じこもり・孤立の防止になっている」(82.3%)、「参加者の体調の変化などに気づくことができる」(81.4%)、「介護予防や認知症予防になっている」(79.2%)となっています。

○「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、「地域での助けあい活動や交流の場になっている」が8.4%、「参加者の家族の負担軽減や気分転換になっている」と「心配ごとや困りごとの発見の場になっている」が共に8.1%と、いずれの項目も低くなっています。

○全ての項目で「とても思う」と「まあ思う」の合計値が「あまり思わない」と「思わない」の合計値を大きく上回っており、全体を通じて効果が出ていると思う人の方が効果を感じていない人よりも多くなっています。

図 2-5-2 サロン活動の②サロンへの効果



(3) サロン活動への代表者の思い

問 16③ サロン活動を通じてあなたが感じている「③代表者の思い」について、各項目のそれぞれに、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

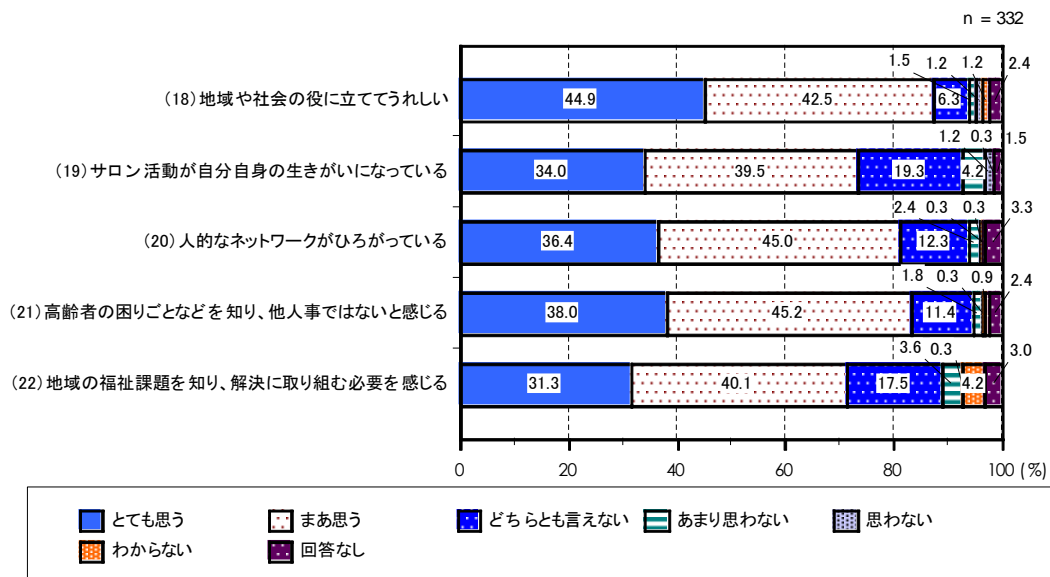
◆「地域や社会の役に立ててうれしい」、「高齢者の困りごとなどを知り、他人事ではないと感じる」と感じている代表者が8割を超えています。

○代表者自身の思いとして、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「地域や社会の役に立ててうれしい」が87.4%と最も割合が高く、次いで「高齢者の困りごとなどを知り、他人事ではないと感じる」(83.2%)、「人的なネットワークがひろがっている」(81.4%)、「サロン活動が自分自身の生きがいになっている」(73.5%)、「地域の福祉課題を知り、解決に取り組む必要を感じる」(71.4%)となっています。

○「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、いずれの項目も2～5%台と低くなっています。

○全ての項目で「とても思う」と「まあ思う」の合計値が「あまり思わない」と「思わない」の合計値を上回っており、全体を通じて効果が出ていると思う人の方が効果を感じていない人よりも多くなっています。

図 2-5-3 サロン活動の③代表者の思い



(4) 今後の発展のために必要だと思うこと

問 17 今後、サロン活動がより一層発展するために必要だと思うことを教えてください。

◆「地域住民へのサロン活動の周知」や、「新たな担い手の確保」、「継続的な運営助成や補助」が特に必要だと考えられています。

【全体】(図 2-5-4)

○今後のサロン活動の発展に向けて、「地域住民へのサロン活動の周知」が 71.7%と最も割合が高く、次いで「新たな担い手の確保」(65.7%)、「継続的な運営助成や補助」(60.8%)、「男性参加者の増加」(52.4%)と続いています。

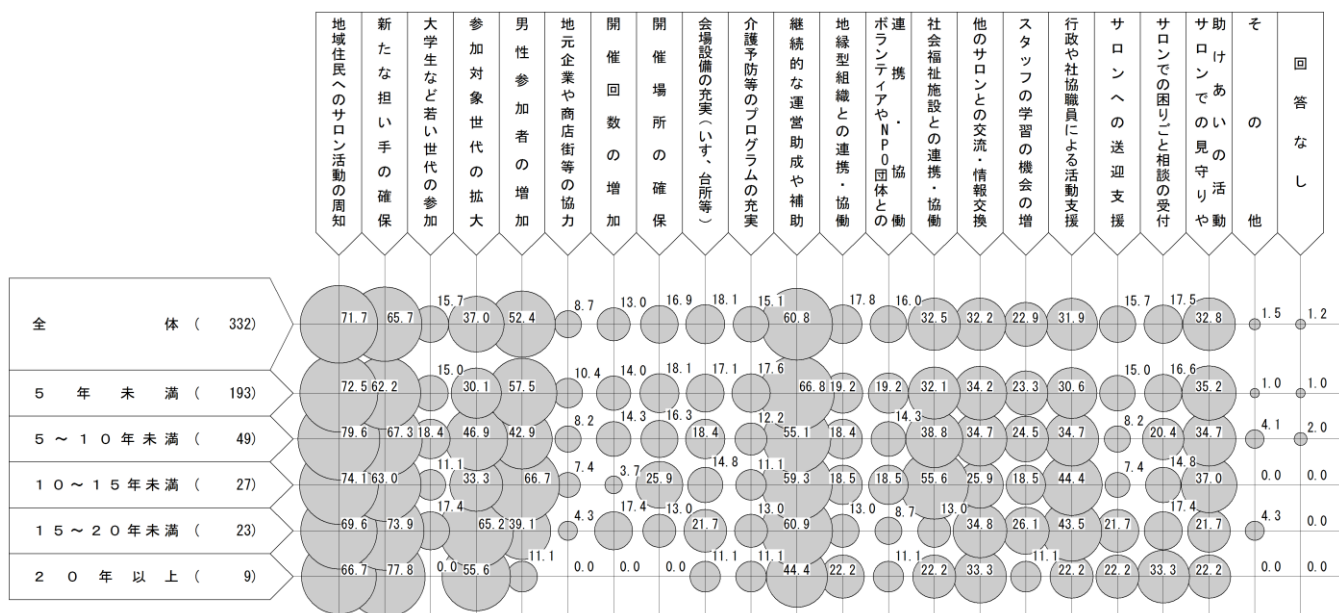
【サロンの開始年別】(図 2-5-4)

○サロン運営が長くなっていくにつれて「参加対象世代の拡大」、「新たな担い手の確保」が高くなっています。10～15年未満のサロンは「社会福祉施設との連携・協働」(65.6%)と「行政や社協職員による活動支援」(44.4%)が全体に比較して高くなっています。

【サロン参加者の増減別】(図 2-5-5)

○参加者が減っているサロンでは、「新たな担い手の確保」(75.6%)、「参加対象世代の拡大」(48.9%)が全体と比べて高くなっています。

図表 2-5-4 サロンの開始年別「サロンの一層の発展のために必要だと思うこと」



図表 2-5-5 サロン参加者の増減別「サロンの一層の発展のために必要だと思うこと」

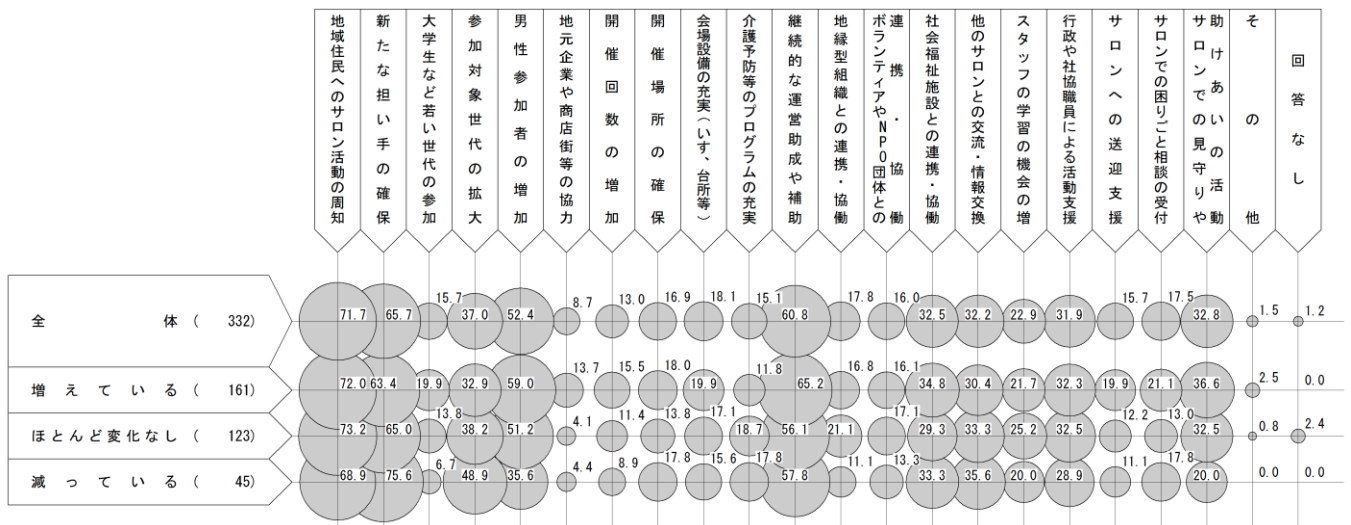


表 2-5-6 サロンの一層の発展のために必要だと思うこと (その他内訳)

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営に当たっての道具、備品の置き場の確保 ・ 現在売り物件のため、買い手があれば廃止に追いやられる ・ 現講師の後任さがし。 ・ 机が重くキャスターがなく、高齢なので設営に苦勞している。 ・ 土曜日開催の為、行政のサービスが受けにくい。(市政出前トーク) ・ 地域の特徴を生かしたサロン ・ 子どもたちとの交流

(5) サロン運営について日ごろ感じていることについて

問 18 サロンを運営する中で、日頃考えていたり、感じていたりすることがあればご自由にお書きください。

◆サロン運営への提案や感想を 213 名から 286 件いただいています。

○代表者として、サロン活動のこれまでの成果や今後の期待、運営における問題点、参加者、担い手の確保について、会場や連携する機関・団体、助成金について、そしてプログラム・内容の充実に向けてなど、多くの意見が寄せられました。

■分類別記入件数と、代表的な意見（抜粋）

サロンの運営について（92 件）

◇これまでの成果や、今後の期待（78 件）

- ・友達ができたり、笑顔が増えたり、参加者の変化がうれしい。
- ・参加者の生活の張りとなっている。見守りとしても役立っていると思う。
- ・ボランティアや参加者、みなさんの協力で成り立っている。
- ・一人暮らしの方は、会話できることがうれしいようです。
- ・運営にたくさんの苦労はあるけれど、楽しみにしていると言われると続けて良かったと思う。
- ・自由参加で、スタッフにも参加者にも負担がかからないよう運営していこうと思っています。

◇運営費用が不足している（7 件）

- ・運営費の大半を会場費に取られてしまう。
- ・今はなんとかなるが、今後新しいプログラム導入や、現在の会場が使えなくなった時に行き詰まる。

◇家庭環境の変化や、コミュニティの人口減少等で、継続が困難になっている（3 件）

◇参加者にも役割がある方が良い。（2 件）

◇その他、送迎をすべきか、防犯について取り上げたい等（2 件）

サロンの参加者について（60 件）

◇メンバーの固定化、未参加層への PR の難しさ（27 件）

- ・参加する人が固定化し、なかなか広がらない。
- ・サロンの目的や内容、そして価値が広く知られていない。知らせてぜひ参加してほしい。
- ・参加する人は社会的で、一人暮らしや家に引きこもりがちな男性など、サロンに参加することにより問題解決につながりそうな人こそ、なかなか参加しない。
- ・口コミがメインだと地域につながるのある人にしか広まらない。効果的な PR の方法を知りたい。

◇高齢化による、参加者の減少が進んでいる（11 件）

- ・亡くなったり、施設に転居したり、高齢化により参加できなくなる人がいる。
- ・継続運営はしているが、運営側もそろって年を取り、休みがちです。
- ・高齢化で足腰が弱ると参加をあきらめる人がいる。交通手段があれば継続参加できるか。

◇男性参加者や、若い世代、地域とのつながりのない方など参加者の多様化を図りたい（7 件）

- ・男性参加者が増えると良いとおもいます。継続して参加できるよう工夫が必要。
- ・若い世代の自主的な参加がされるような組織運営や内容が必要。

◇参加者を増やしたい（6 件）

◇「たくさんの参加者を集めているサロンだけが良いサロン」とは言えない。参加者が固定化することには運営の円滑化、人間関係の良好を保つなどメリットも多くある（6 件）

◇その他、運営の障害となる参加者の存在についてや、他サロンと参加者の取り合いがあるなど（3 件）

担い手の確保について（40件）

◇高齢化による担い手の減少、世代交代の難しさ（18件）

- ・自分自身が高齢化し、代表者を交代したいが、担い手が見つからない。
- ・新たな担い手として50代60代の若い世代に入ってもらいたいが、働いている人が多く難しい。
- ・ボランティアと参加者の年齢が逆転していることもある。

◇担い手、スタッフの不足（11件）

- ・参加者やサロン数は増加しても、新たなボランティアの人がなかなか見つからない。
- ・スタッフが足りず忙しくて参加者の話を聴くことができない
- ・参加者の見守りや補助などにまで手が回らない。

◇指導者や講師の不足（10件）

- ・参加者が増えたのはうれしいが、指導者が不足するようになった。
- ・催事内容がマンネリ化しているが、新たな講師が見つからない、講師料が払えない。

◇その他、運営を担う人が負担を抱え込まないよう、役割分担を上手にしたい。（1件）

会場について（29件）

◇会場として使用している施設への不満や要望（17件）

- ・コミュニティセンター：1階和室は脚の痛い人が使いにくく2階会議室は階段を上るのが大変。
- ・コミュニティセンター：教室が優先利用しており、なかなか空いている日がない。
- ・集会所：高齢者だけで運営していると、重量のある机や椅子は使いにくい。軽いものにしてほしい。
- ・ふれあいセンター：会場確保の抽選順番取りに並んで、抽選に再度並んで、大変。

◇会場確保の難しさ（9件）

- ・参加者の増加や、プログラムの多様化に合わせて会場を広くしたくても確保できない。
- ・空き家を活用しているが、所有者が売却することになるとサロン活動ができなくなる。
- ・スポーツセンター等、抽選制の会場は確保できないと開催できないリスクがある。

◇会場として使用している施設の良いところ（2件）

◇その他、無料で使用できるので、助かっている（1件）

連携する機関・団体について（23件）

◇社会福祉協議会への要望（10件）

- ・より充実したプログラムづくりや会場確保のため、助成を拡大してほしい。
- ・参加者に呼びかけるため、サロンの意義、目的などについて理解しやすいポスター、チラシが欲しい。また説明に来てほしい。
- ・講師、指導者候補の一覧表（指導できる内容やギャラの情報）があると助かる。
- ・福祉訪問の際にはプログラムについてのアイデアを教えてください。
- ・社会福祉協議会が音頭を取って、16区のサロンの代表者の意見交流の場を開催してほしい。
- ・保育園や他団体との連携をしたい。社協の力をかしてほしい。
- ・今後のサロン活動の発展）を真剣に考えてやってほしい。

◇これまでの連携の実績、連携組織への感謝の言葉（8件）

- ・一人暮らしの高齢のサロン活動で見守る中で、認知症の傾向に気づき、区社協の相談窓口へつなぎ、ご家族へ連絡をして施設入居することができた。
- ・社会福祉協議会といきいきのスタッフが毎回出席してくださり、協力体制ができている。
- ・区社協の担当者から熱心なアドバイスをもらっている。
- ・近くのデイケアセンターと連携し、プログラムを充実している。

◇学区・自治体との連携の必要性（3件）

- ・自治会のない所なので、学区の理解・援助が得られない。

◇民生委員等との連携の必要性（2件）

助成金について (20 件)
<p>◇助成金によるこれまでの成果 (7 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備助成金で創立し、学区助成金で備品を買う事ができ、活動を楽しんでいる。 ・平成 29 年の補助金増額により、内容の充実、マンネリ化の回避ができた。 <p>◇助成金制度の増額・継続を望む (7 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の運営助成金を増額してほしい。 ・高齢化に向けて送迎制度を検討するため助成制度が欲しい。 ・継続運営のために、助成金をずっと継続してほしい。 <p>◇助成金制度への不満・提案 (4 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月一回では補助金が出ないため、無理をして月二回開催している。これでは継続できない。 ・酷暑や大雨など気候により参加者数が減ることもあるが、参加人数の少ない回があると助成金が減額されてしまうのは困る。毎回ひやひやする。 <p>◇その他、今はもらっていないが今後検討したい。(1 件)</p>
サロンのプログラム・内容について (17 件)
<p>◇今後、やってみたいプログラム・内容 (8 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康講話を取り入れたい。 ・今はお茶だけが、参加費を徴収してランチ提供をしてみたい。 ・体調の変化、認知症予防につなげたい。 ・プログラムを魅力的にすることをいつも悩んでいる <p>◇プログラムの内容によって対象者が限られる (6 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動を主に行っているが参加者の体力や身体能力に差があり、どのレベルに合わせるか難しい。 ・囲碁・将棋のサロンにしているので誰でも気軽に参加できるわけではない。 ・未就園児とその保護者を対象にした共生サロンだが、働く女性が増え保育園利用者が増加して、ニーズが減っていると感じる。 <p>◇他のサロンと交流して情報収集・提供したい (2 件)</p> <p>◇その他、参加者からプログラムが単調であると言われ、講師に伝えたが、難しい問題。(1 件)</p>
その他 (4 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・今回のアンケートから、参加者の要望を知り、サロンの内容に活かしたい。 ・高齢者・共生サロンは、高齢者になったら突然対応できるものではない。行政も高齢者だけの問題としてではなく、日常の地域交流活動を促進して浸透させる必要がある。 ・核家族化が進んでいるからか、隣近所のつきあいが希薄化していると感じる。 ・アンケート設問に理解できないものあり。

第6章 参加者のプロフィール

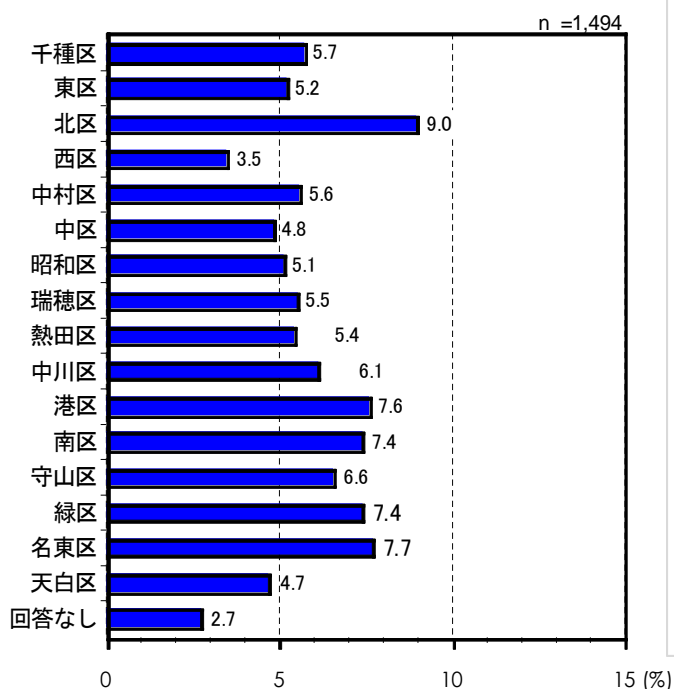
(1) サロンの開催地区

問1-1 サロンの開催地区を教えてください。

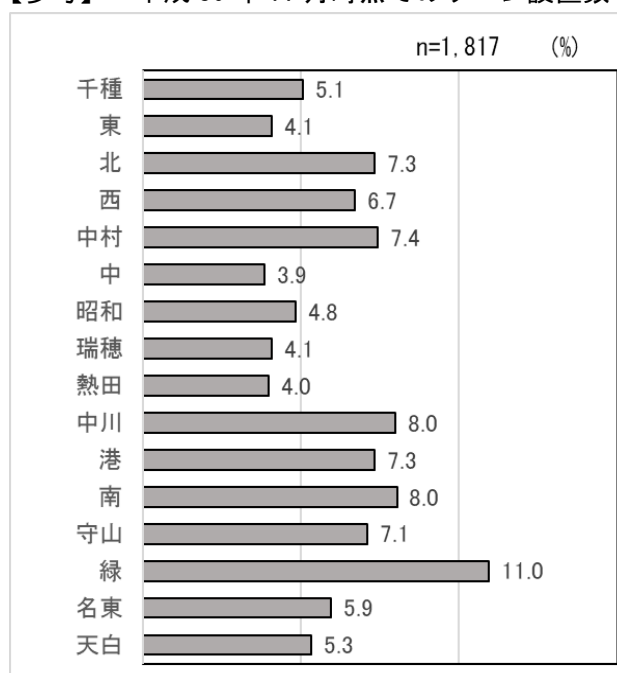
◆北区がもっとも多く、名東区、港区と続きます。平成30年11月現在のサロン設置数と比較して、概ね現在のサロン数と同程度の割合で回答していると言えます。

- 回答数(1,494)全体に占める各区の割合は、北区が最も多く9.0%、次いで名東区7.7%、港区7.6%、南区および緑区が7.4%と続き、一番少なかったのは西区の3.5%でした。
- これは、アンケートを各区のサロン設置数を基に、全体数を比例案分して調査依頼をしていることから生じたものと思われます。
- 参考までに平成30年11月時点でのサロン設置数と、今回のアンケート調査回答とを比較すると、西区と緑区の回答率が少ないものの概ね比率が一致していると言え、どの区のサロンも概ね同程度の割合で回答していると言えます。

図2-6-1 サロンの開催地区（アンケートより）



【参考】 平成30年11月時点でのサロン設置数



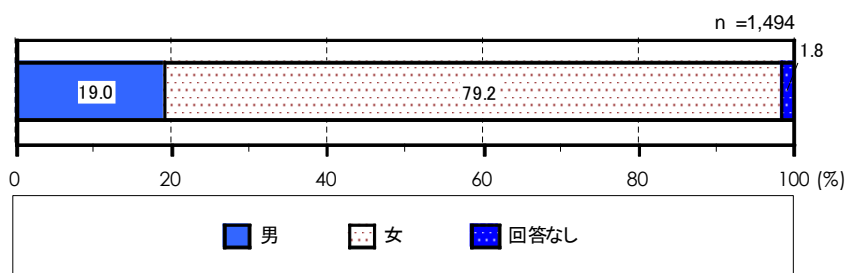
(2) 参加者の性別

問 1-2 サロン参加者の性別を教えてください。

◆「女性」が約8割と多くなっています。

○回答者の性別をみると、「女性」が79.2%、「男性」が19.0%と、女性が多くなっています。

図 2-6-2 サロン参加者の性別



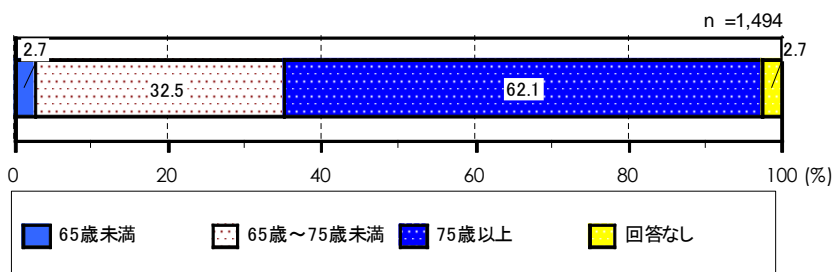
(3) 参加者の年齢

問 1-3 サロン参加者の年齢を教えてください。

◆高齢者が全体の9割を超えています。

○回答者の年齢をみると、「75歳以上」が62.1%、次いで「65歳～75歳未満」が32.5%、「65歳未満」が2.7%となっており、高齢者のサロン参加が全体の9割を超えています。これは今回アンケートが高齢者及び共生型サロンを対象としたためと思われます

図 2-6-3 サロン参加者の年齢



(4) 参加者の家族構成

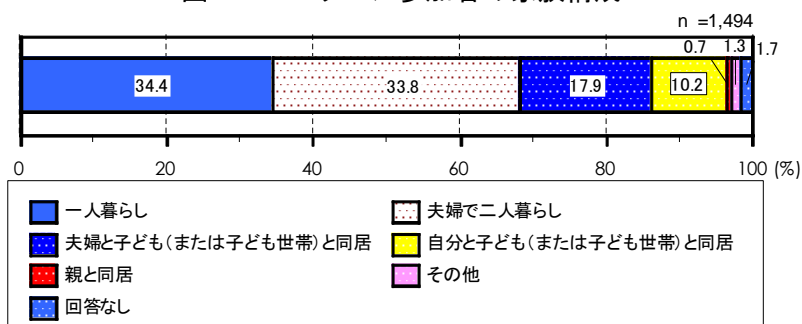
問 1-4 サロンの参加者の家族構成を教えてください。

◆「一人暮らし」が34.4%で最も割合が高く、次いで「夫婦で二人暮らし」が33.8%となっています。

○サロン参加者の家族構成をみると、「一人暮らし」が34.4%で最も割合が高く、次いで「夫婦で二人暮らし」が33.8%と続いており、約7割の方が高齢者のみの世帯で住んでいることがうかがえます。

○一方で、「夫婦と子ども（または子ども世帯）と同居」が17.9%、「自分と子ども（または子ども世帯）と同居」が10.2%あり、約3割の世帯が二世帯同居となっています。

図 2-6-4 サロン参加者の家族構成



(5) 参加者の介護認定の有無

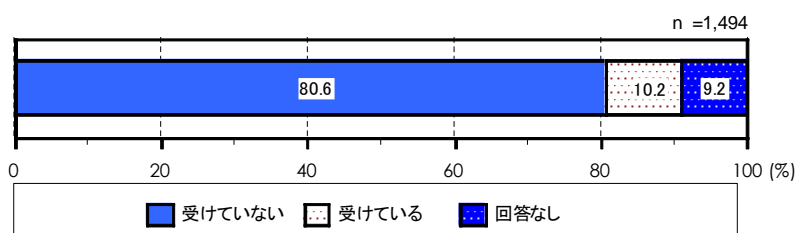
問 1-5 サロンの参加者の介護認定の有無を教えてください。

◆8割の人が介護認定を「受けていない」と答えています。

○サロン参加者の介護認定の有無をみると、「受けていない」が80.6%で最も割合が高くなっています。

○一方で、「受けている」が10.2%と介護認定を受けながらサロンに参加されている方が約1割となっています。

図 2-6-5 サロン参加者の介護認定の有無



(6) 収入を得る仕事

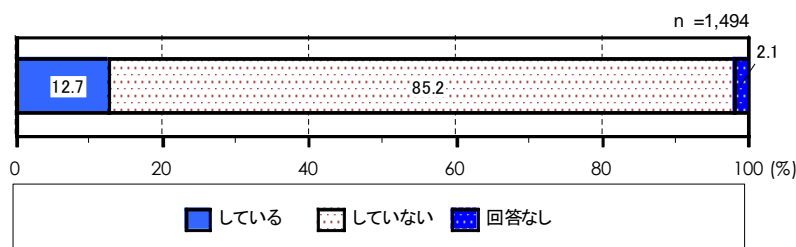
問 1-6 収入を得る仕事の有無を教えてください。

◆収入を得る仕事を「していない」の割合が高く、85.2%となっています。

○サロン参加者の収入を得る仕事の有無をみると、「していない」が85.2%で最も割合が高くなっています。

○一方で、収入を得る仕事を「している」が12.7%となっておりサロン参加者の約1割が収入を得る仕事をしながらサロンに参加しています。

図 2-6-6 収入を得る仕事の有無



(7) 現在の健康状態

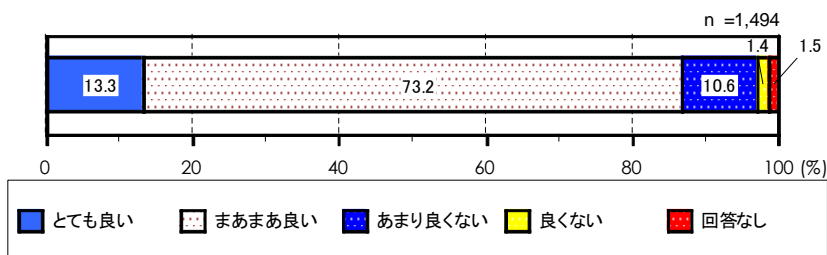
問 1-7 現在の健康状態を教えてください。

◆健康状態が良い方が約9割となっています。

○サロン参加者の現在の健康状態では、「まあまあ良い」が73.2%で最も割合が高くなっており、「とても良い」の13.3%と合わせると、健康状態の良い方が全体の約9割を占めています。

○一方で、現在の健康状態が「あまり良くない」が10.6%となっており、「良くない」は1.4%となっています。

図 2-6-7 現在の健康状態



(8) 地域内で参加している活動

問 1-8 地域内で参加している活動を教えてください。

◆趣味・娯楽のグループや、老人クラブへの参加が多く、4割以上の人々が、複数のサロンに参加しています。

○サロン参加者が地域内で参加している活動は、「趣味・娯楽のグループ」が48.5%、「老人クラブ」が29.9%「町内会・自治会活動」が27.8%となっています。

○「その他」では、地域外のサロンやボランティアが挙げられました。

○また、参加しているサロンの数は、「1つ」が52.7%と最も多く、次いで「2つ」26.7%、「3つ」11.6%と続き、「4つ以上」参加する人は4.4%となっています。

図 2-6-8 地域内で参加している活動

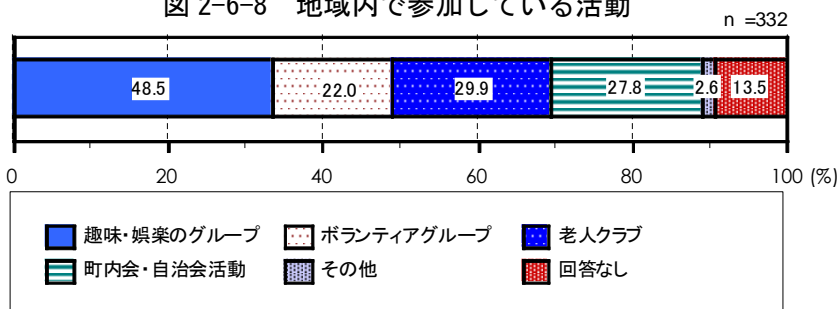


図 2-6-9 参加しているサロンの数

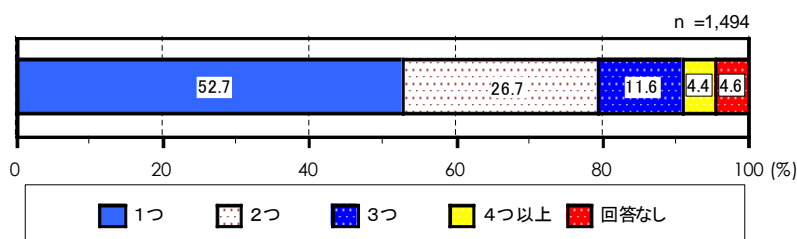


表 2-6-10 地域内で参加している活動（その他内訳）

内容
・ 地域外にて参加している（3件）
・ 地域外でのボランティア（2件）
・ 福祉会館の講座
・ 小学校のトワイライトスクール
・ 町内の掃除
・ 公民館の食事会
・ 神社の氏子活動
・ シルバー人材センター地域班
・ 小中学校の同期会

第7章 参加しているサロンについて

(1) サロン会場までの徒歩による片道移動時間

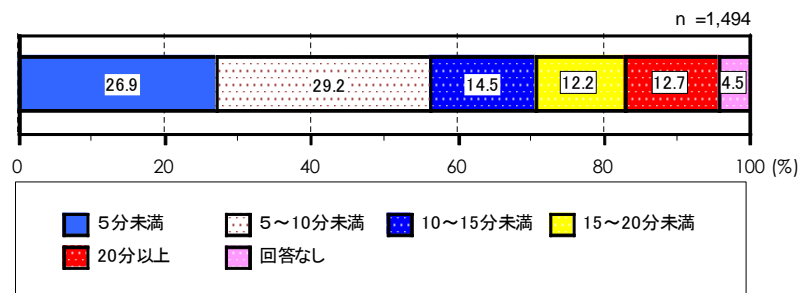
問2 自宅からサロン会場までの徒歩による片道移動時間を教えてください。

◆参加者の自宅から比較的近い場所が会場となっており、徒歩による片道移動時間は、「10分未満」が6割近くになっています。

○自宅からサロン会場までの徒歩による片道移動時間は、「5～10分未満」が29.2%、「5分未満」が26.9%となっており、次いで「10分～15分未満」が14.5%と続いています。

○サロン参加者の自宅から比較的近い場所がサロン会場となっていることがうかがえます。

図 2-7-1 サロン会場までの徒歩による片道移動時間



(2) サロン会場までの1番多い移動手段

問3 サロン会場までの1番多い移動手段を教えてください。

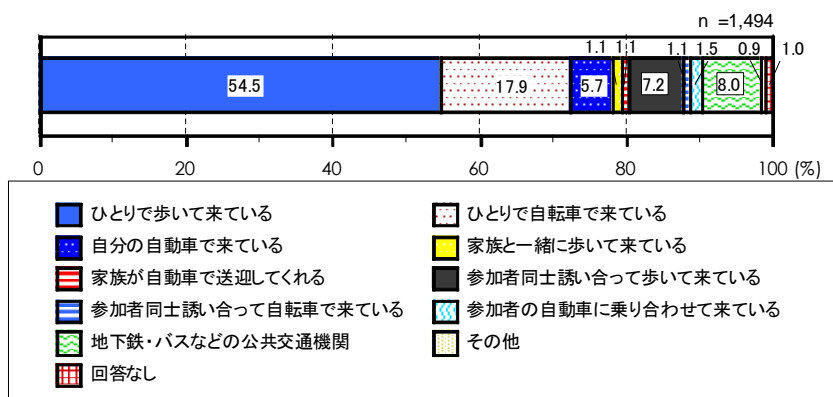
◆ひとり、または家族や参加者同士で歩いてサロン会場まで行く方が約6割となっています。

○サロン会場までの1番多い移動手段では、「ひとりで歩いて来ている」が54.5%、次いで「ひとりで自転車 coming 来ている」が17.9%となっています。

○歩いてサロン会場まで行く方に着目すると、「ひとりで歩いて来ている」(54.5%)と「家族と一緒に歩いて来ている」(1.1%)と「参加者同士誘い合って歩いて来ている」(7.2%)を合わせた62.8%が歩いてサロン会場に来ています。

○また、「地下鉄やバスなど公共交通機関」が6.0%ありました。

図 2-7-2 サロン会場までの1番多い移動手段



(3) サロンに参加する理由

問4 サロンに参加する理由を教えてください。

◆「友人や仲間との交流を深めるため」、「健康を維持するため」が、サロンに参加する主な理由となっています。

【全体】(図 2-7-3)

○サロンに参加する理由としては、「友人や仲間との交流を深めるため」が 65.7%、次いで「健康を維持するため」(59.6%)、「介護予防・認知症予防になるから」(40.7%)、「開催場所が近いから」(37.8%)、「新たに友人や仲間をつくるため」(36.3%) となっており、サロンは健康維持や身近な交流の場となっていることがうかがえます。

【性別】(図 2-7-3)

○女性は「健康を維持するため」(63.0%)、「自分の話を聞いてくれる人がいるから」(13.4%)が全体に比べて高くなっています。

【年齢別】(図 2-7-4)

○65 歳未満は「地域や社会の役に立ちたいため」が 31.7%と全体に比べ高く、年齢が上がるにつれて「健康を維持するため」と「介護予防・認知症予防になるから」が高くなっています。

【介護認定の有無別】(図 2-7-5)

○介護認定を受けている参加者は「介護予防・認知症予防になるから」が 46.8%と全体と比較して高くなっています。

図 2-7-3 性別「サロンに参加する理由」

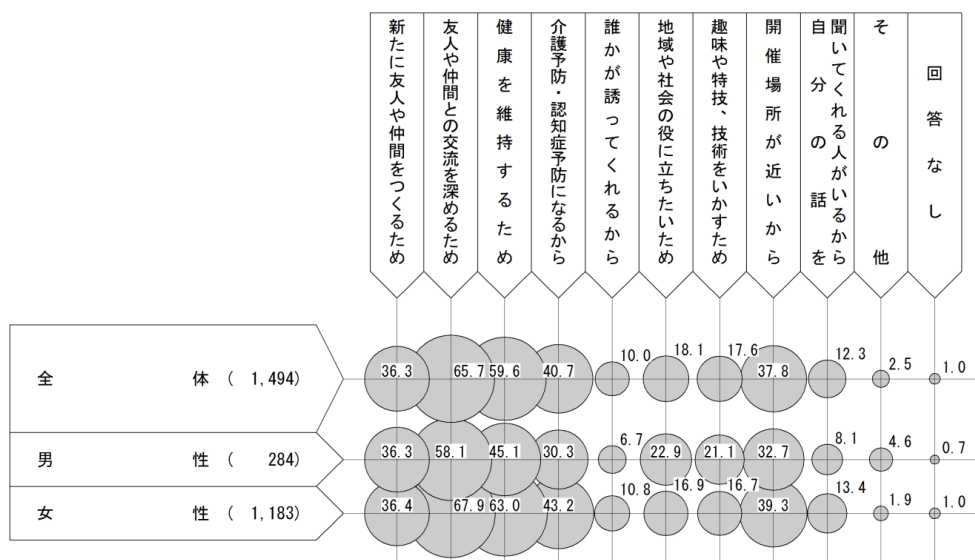


図 2-7-4 年齢別「サロンに参加する理由」

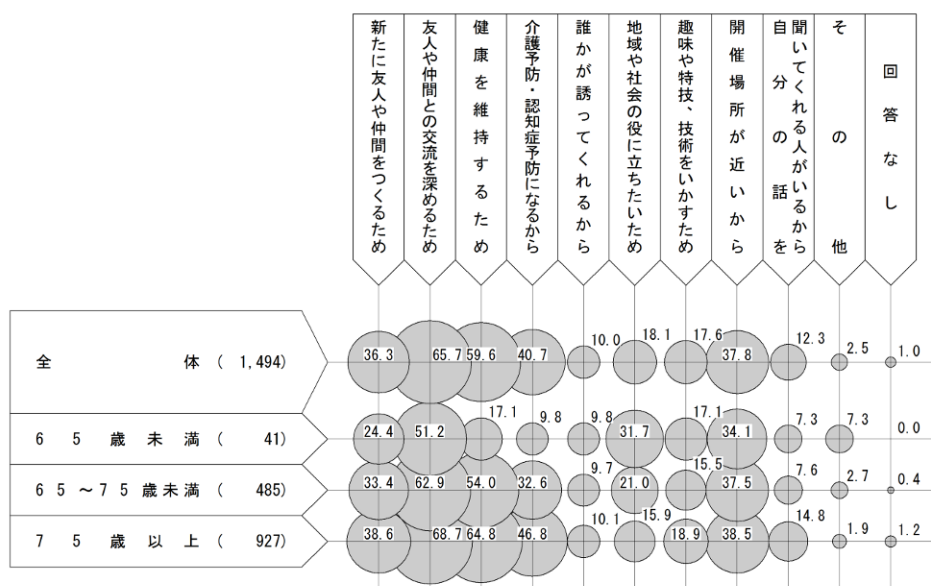


図 2-7-5 介護認定の有無別「サロンに参加する理由」

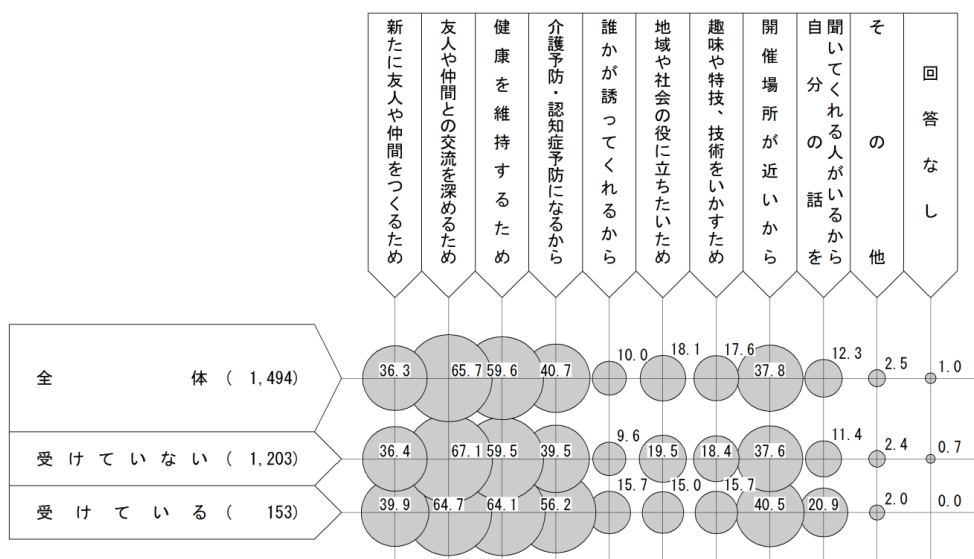


表 2-7-6 サロンに参加する理由（その他内訳）

内容
・ 楽しいから、好きだから (11件)
・ 地域の情報やその他情報収集のため (7件)
・ 習字、お絵書き、脳トレ等、色々なことができるから (3件)
・ お茶・コーヒーが美味しいから (4件)
・ 会場の雰囲気が良いから (2件)
・ 学区理事だから、民生委員だから (2件)
・ 住職の法話が良いから (2件)
・ パソコンの勉強
・ 人数が適当だから
・ ひまつぶし
・ 気分転換のため
・ スタッフが良いから
・ 社会福祉協議会より依頼を受けて

(4) サロン参加年数

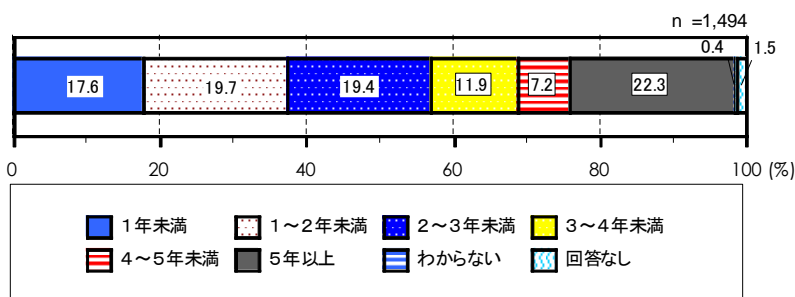
問5 サロンに参加し始めてから何年経過したか教えてください。

◆「5年以上」が22.3%、「1～2年未満」が19.7%、「2～3年未満」が19.4%となっています。

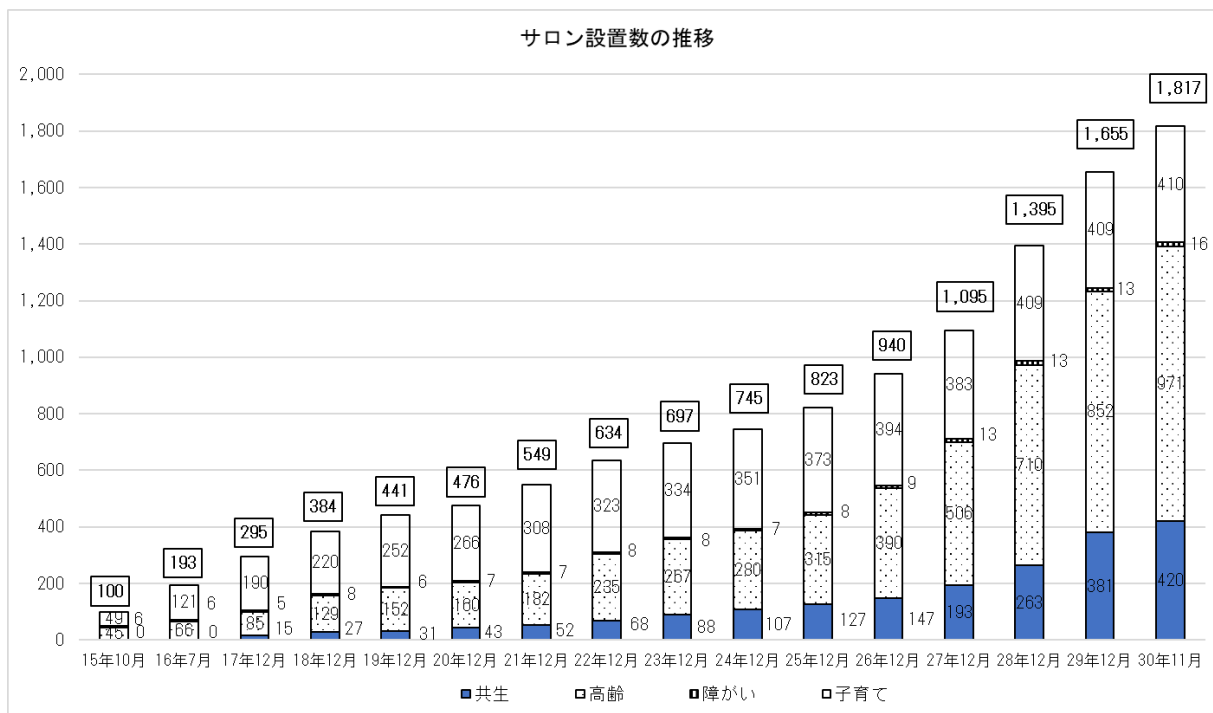
○サロンに参加している年数としては、「5年以上」が最も多く22.3%、次いで「1～2年未満」(19.7%)、「2～3年未満」(19.4%)、「1年未満」(17.6%)となっています。

○サロン参加年数が1年未満から5年までの人が全体で75.8%となっており、比較的最近参加した方が多いことが分かりますが、これは過去5年以内でサロン設置数が急増していることに伴って、参加者数も増えていることが一因と思われます。

図 2-7-7 サロン参加年数



【再掲】図 1-2-2 サロン設置数



(5) サロン参加費

問6 サロン参加費(会費)について、あなたのお考えに一番近いものを教えてください。

◆約6割の人が「運営に必要な参加費は負担しても構わない」と考えています。

【全体】(図 2-7-8)

○サロン参加費としては、「運営に必要な参加費は負担しても構わない」が最も多く61.0%、次いで「低額なら負担しても構わない」(29.7%)となっています。

○サロン参加費については、運営に必要な経費として理由があれば参加費を負担しても構わないとの意向を持っている人が多いと思われます。

【性別】(図 2-7-8)

○性別で大きな差はみられません。

【年齢別】(図 2-7-9)

○65歳未満で「定額なら負担しても構わない」が全体と比較して9.3%高くなっています。

【介護認定の有無別】(図 2-7-10)

○介護認定の有無別で大きな差はみられません。

図 2-7-8 性別「サロン参加費」

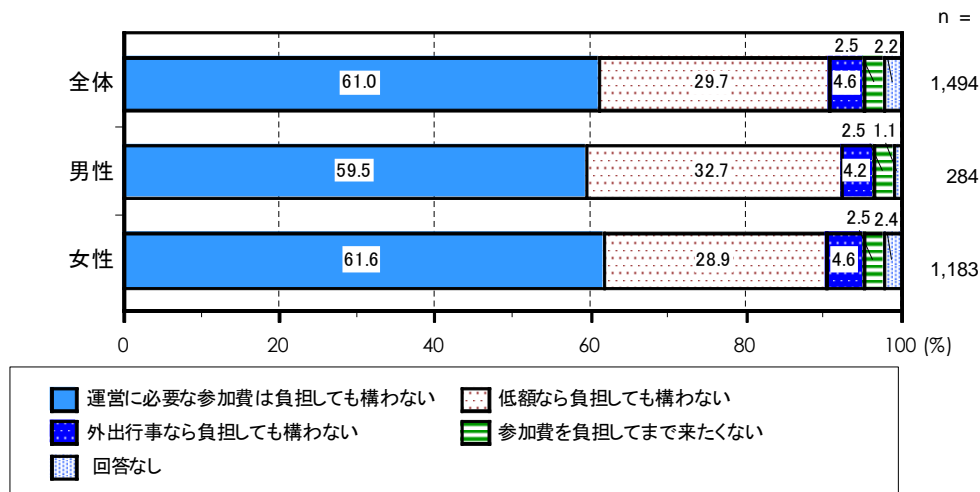


図 2-7-9 年齢別「サロン参加費」

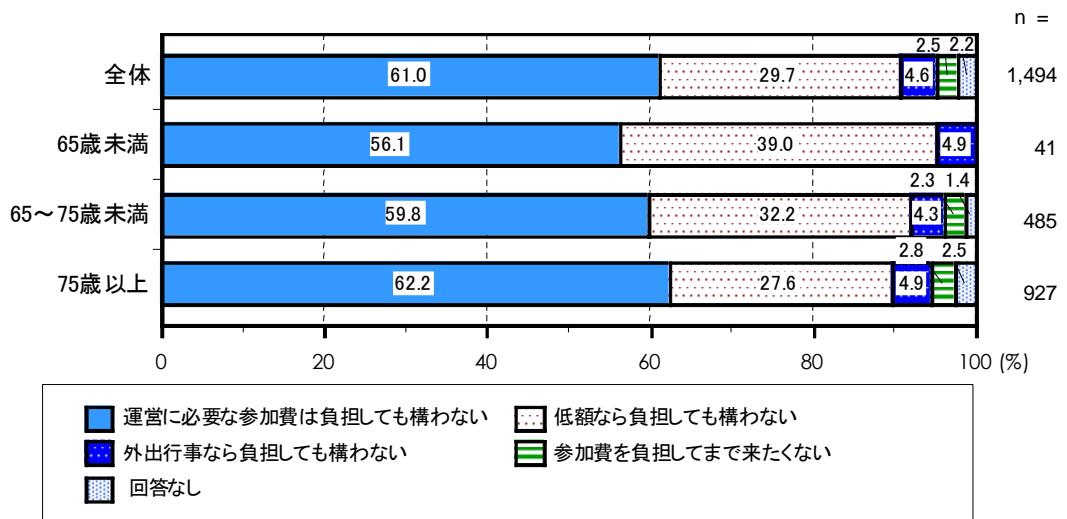
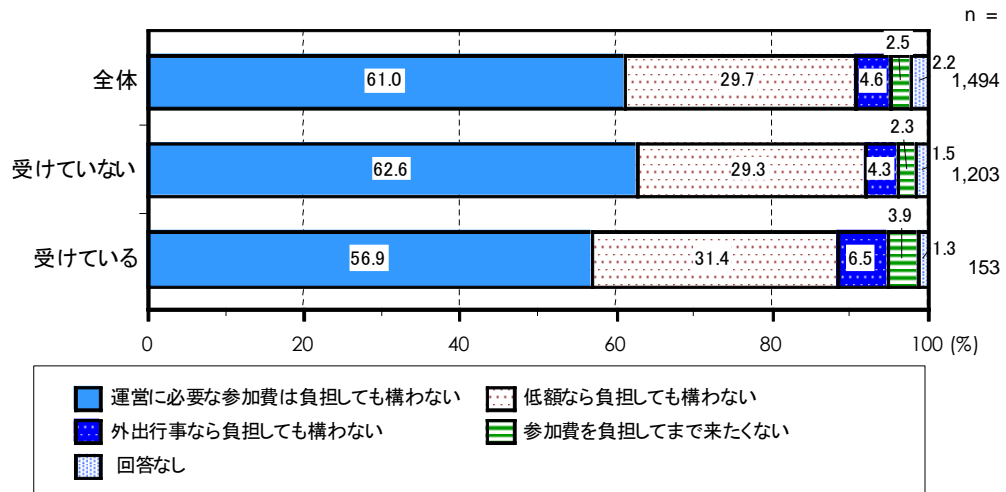


図 2-7-10 介護認定の有無別「サロン参加費」



(6) サロンに対する満足度

問7 サロンに対する満足度について、あなたのお考えに一番近いものを教えてください。

◆9割以上の方がサロンについて満足していると回答しています。

【全体】(図2-7-11)

○サロンに対する満足度としては、「とても満足している」が43.2%、「まあ満足している」が50.8%となっており、合わせて94.0%の方がサロンについて満足していると回答しています。

【性別】(図2-7-11)

○男性は「とても満足している」が全体と比較して5.5%低くなっています。

【年齢別】(図2-7-12)

○65～75歳未満で「とても満足している」が全体と比較して5.5%低くなっています。

【介護認定の有無別】(図2-7-13)

○介護認定を受けている参加者は「とても満足している」が全体と比較して9.7%高くなっています。

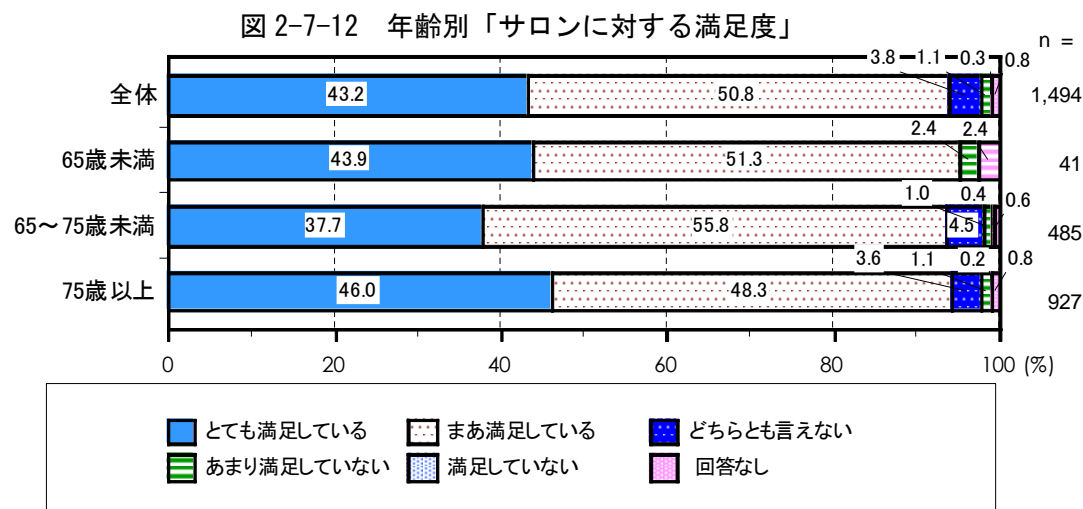
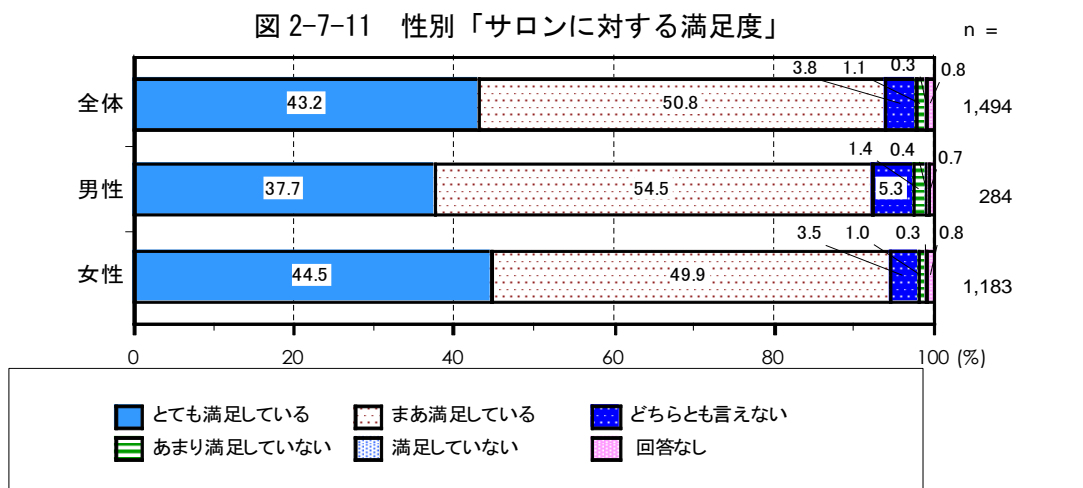
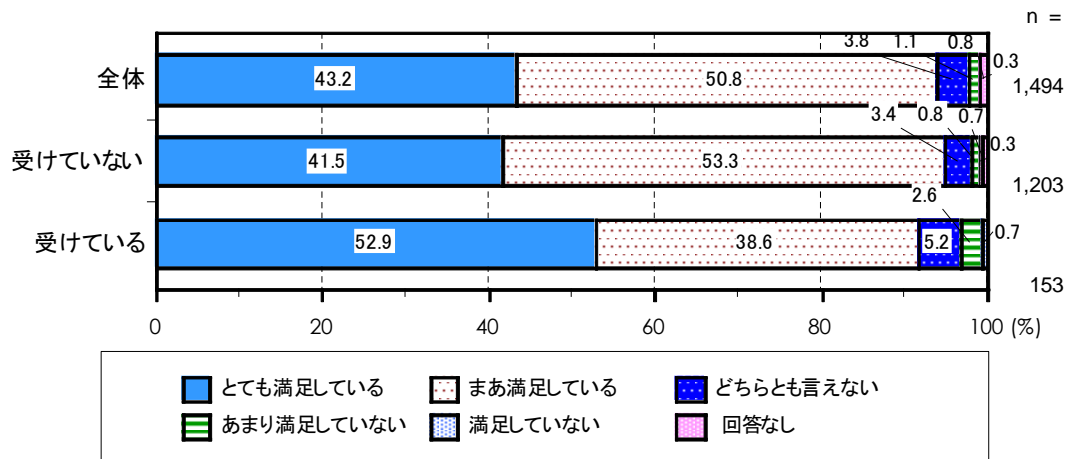


図 2-7-12 介護認定の有無別「サロンに対する満足度」



(7) サロンに関する情報の入手先

問8 サロンに関する情報をどのように入手しているか教えてください。

◆サロン主催者側や友人及び地域の掲示版から情報を入手しています。

【全体】(図2-7-13)

○サロンに関する情報の入手先では「サロン主催者側から教えてもらう」が47.3%、次いで「友人から教えてもらう」が39.8%、「地域の掲示版、回覧板」が34.4%となっています。

○一方で「いきいき支援センター」(12.7%)、「社会福祉協議会」(10.3%)も1割程度挙げられています。

○なお、「情報の入手先を知らない」は0.2%でした。

【性別】(図2-7-13)

○男性は「地域の掲示版・回覧板」が全体と比較して11.4%高くなっており、「友人から教えてもらっている」が11.3%低くなっています。

【年齢別】(図2-7-14)

○65歳未満は「地域の掲示版・回覧板」が全体と比較して14.4%高くなっており、「社会福祉協議会」が全体と比較して7.9%、「いきいき支援センター」が7.8%低くなっています。

【介護認定の有無別】(図2-7-15)

○介護認定を受けている参加者は「友人から教えてもらっている」が全体と比較して5.3%、「いきいき支援センター」が7.1%高くなっています。

図2-7-13 性別「サロンに関する情報の入手先」

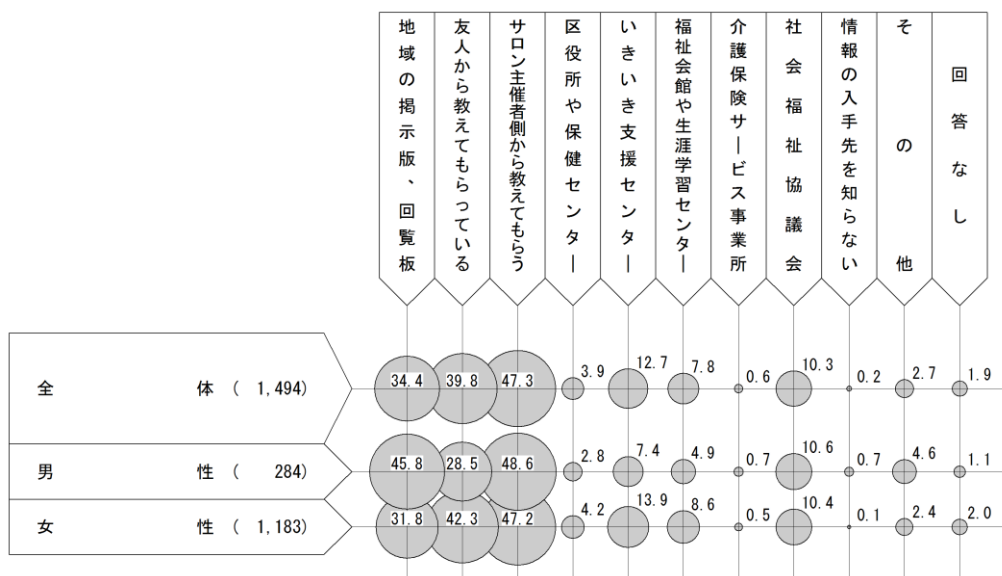


図 2-7-14 年齢別「サロンに関する情報の入手先」

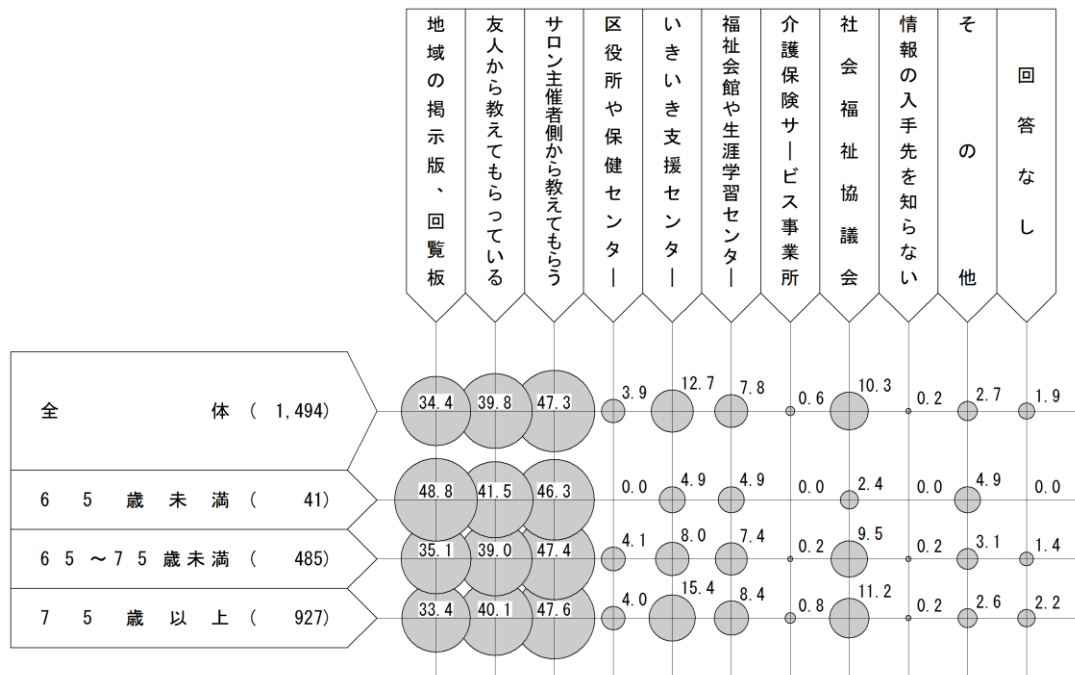
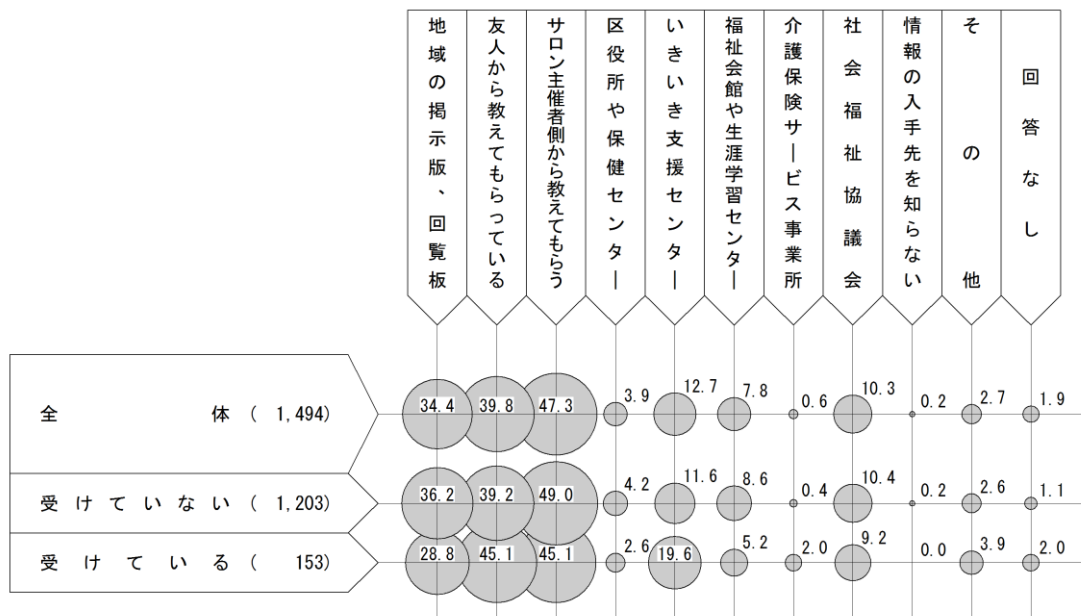


図 2-7-15 介護認定の有無別「サロンに関する情報の入手先」



第8章 サロン参加以前と比較した効果

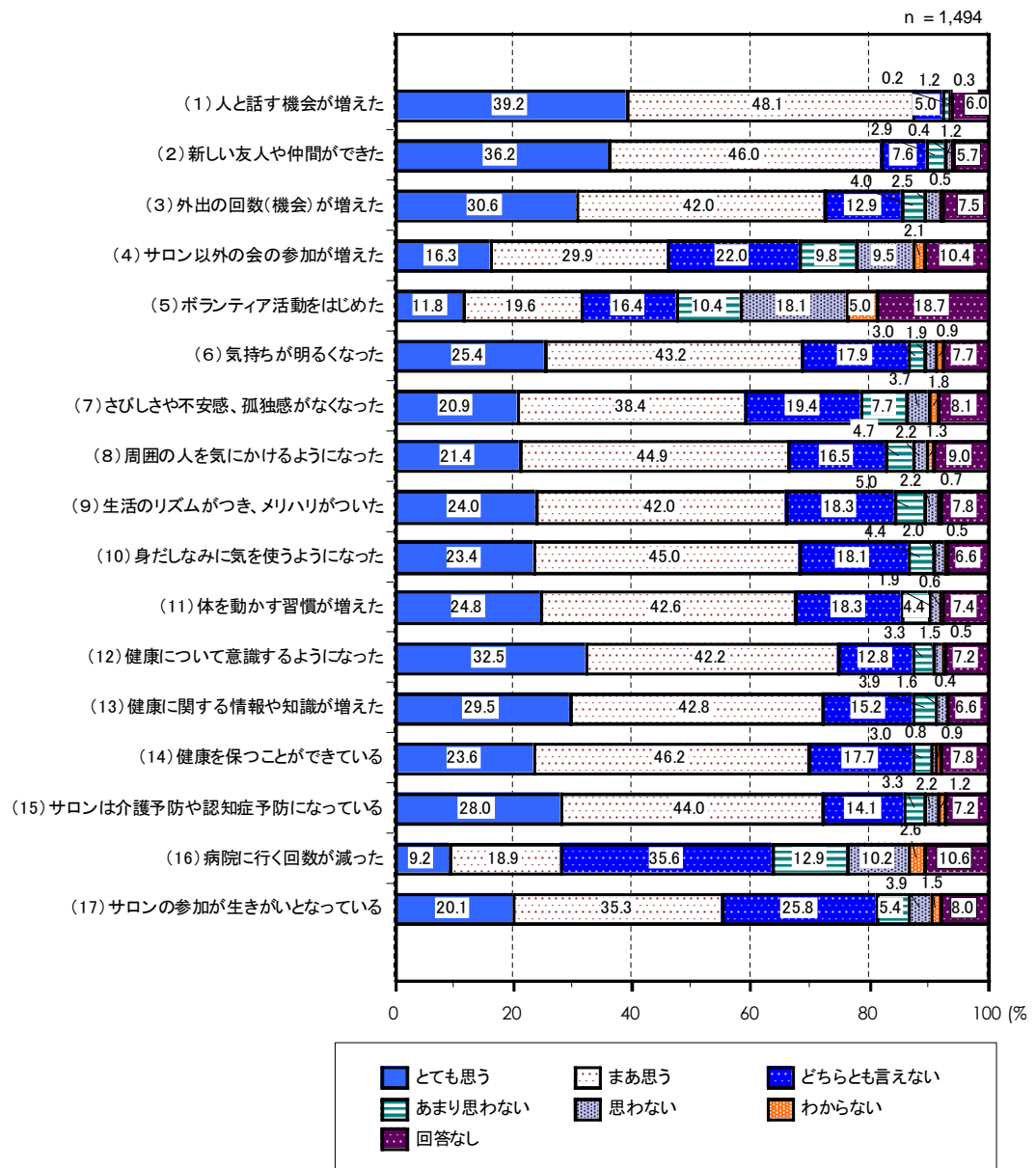
(1) サロンへの参加を通じて感じている①自分自身の変化

問 9① サロン参加以前と比較して、サロンへの参加を通じて感じている「①自分自身の変化」について各項目のそれぞれの欄に、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

◆「人と話す機会が増えた」や「新しい友人や仲間ができた」といった効果が8割以上と高く、「ボランティア活動をはじめた」の効果が低くなっていますが、全体的には効果が出ている項目が多くを占めています。

- サロン参加以前と比較した効果では、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「人と話す機会が増えた」が87.3%と最も割合が高く、次いで「新しい友人や仲間ができた」(82.2%)、「健康について意識するようになった」(74.7%)、「外出の回数(機会)が増えた」(72.6%)、「サロンは介護予防や認知症予防になっている」(72.0%)となっています。
- 「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、「ボランティア活動をはじめた」が28.5%と最も割合が高く、次いで「サロン以外の会の参加が増えた」(15.0%)、「さびしさや不安感がなくなった」(12.1%)、「将来の楽しみが増えた」(8.1%)、となっています。
- すべての項目で「とても思う」と「まあ思う」の合計値が「あまり思わない」と「思わない」の合計値を上回っており、全体を通じて効果が出ていると思う人の方が効果を感じていない人よりも多くなっています。

図 2-8-1 ①自分自身の変化



(2) サロンへの参加を通じて感じている②地域とのつながり

問 9② サロン参加以前と比較して、サロンへの参加を通じて感じている「②地域とのつながり」について、各項目のそれぞれの欄に、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

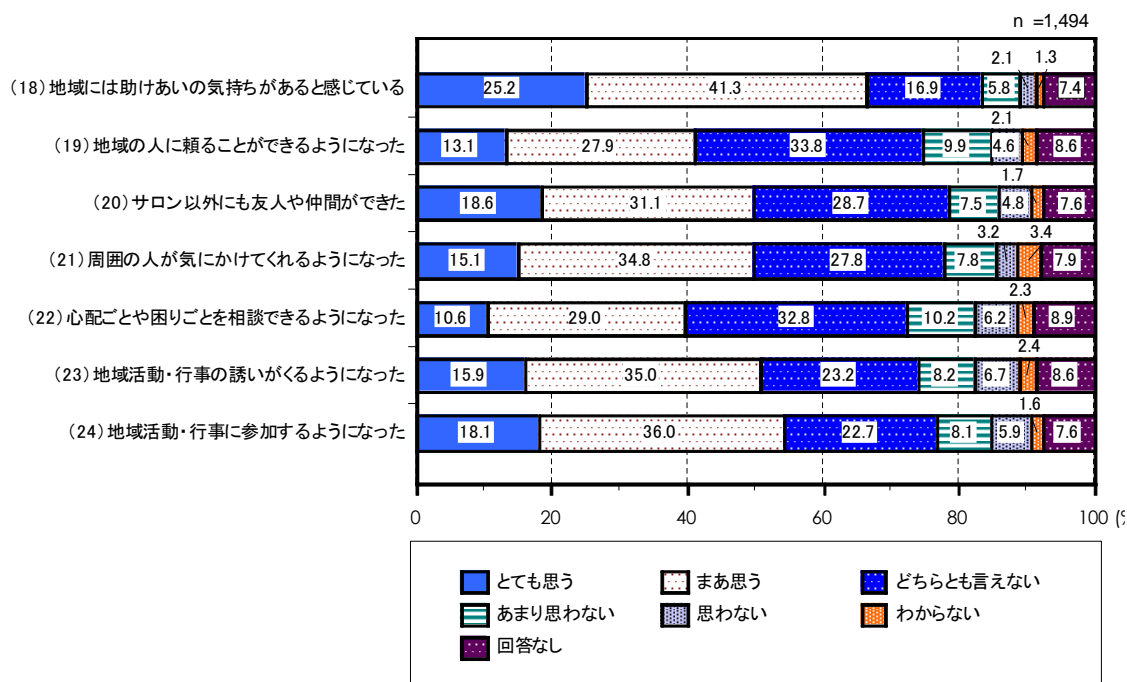
◆「地域には助け合いの気持ちがあると感じている」、「地域活動・行事に参加するようになった」の効果が高く、「心配事や困りごとを相談できるようになった」の効果が低くなっていますが、全体的には効果が出ている項目が多くを占めています。

○サロン参加以前と比較した効果では、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「地域には助け合いの気持ちがあると感じている」が 66.5%と最も割合が高く、次いで「地域活動・行事に参加するようになった」(54.1%)、「地域活動・行事の誘いが来るようになった」(50.9%)、「周囲の人が気にかけてくれるようになった」(49.9%)、「サロン以外にも友人や仲間ができた」(49.7%)と続いています。

○「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、「心配事や困りごとを相談できるようになった」が 16.4%と最も割合が高く、次いで「地域活動・行事の誘いが来るようになった」(14.9%)、「地域の人に頼ることができるようになった」(14.5%)、「地域活動・行事に参加するようになった」(14.0%)と続いています。

○すべての項目で「とても思う」と「まあ思う」の合計値が「あまり思わない」と「思わない」の合計値を大きく上回っており、全体を通じて効果が出ていると思う人の方が効果を感じていない人よりも多くなっています。

図 2-8-2 ②地域とのつながり



第9章 日常の行動や感じていること

(1) 今後のサロン活動に必要なこと

問 10 今後、サロン活動をより一層よくするために必要だと思うことを教えてください。

◆「プログラムや内容の充実」が必要だと6割以上の人が考えています。

【全体】(図 2-9-1)

○今後、サロン活動をより一層よくするために必要なこととしては、「プログラムや内容の充実」が62.0%と最も高く、次いで「参加対象世代の拡大」が25.3%、「より身近な場所でのサロンの実施」が23.6%となっています。

○一方で「サロンへの送迎支援」(5.4%)や「サロンでの困りごと相談の受付」(7.8%)は低い状況です。

【性別】(図 2-9-1)

○男性は「男性参加者の増加」が全体と比較して13.6%、「参加対象世代の拡大」が9.9%高くなっています。

【年齢別】(図 2-9-2)

○65歳未満は「参加対象世代の拡大」が16.2%、「サロンでの困りごと相談の受付」が11.7%、全体と比較して高くなっています。

【介護認定の有無別】(図 2-9-3)

○介護認定を受けている参加者は「サロンへの送迎支援」が6.6%、「開催回数の増加」が5.7%、全体と比較して高くなっています。

図 2-9-1 性別「今後のサロン活動に必要なこと」

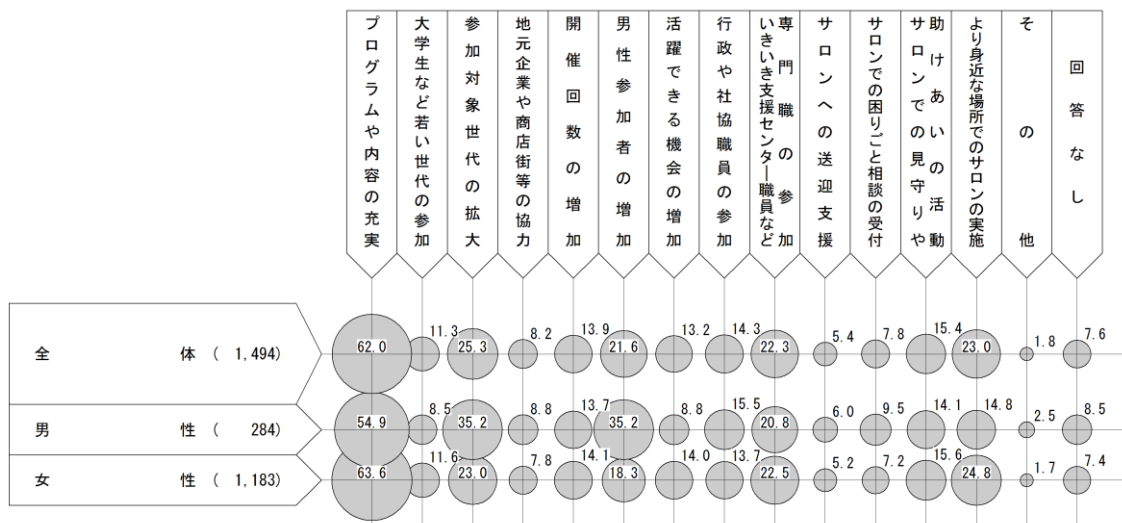


図 2-9-2 年齢別「今後のサロン活動に必要なこと」

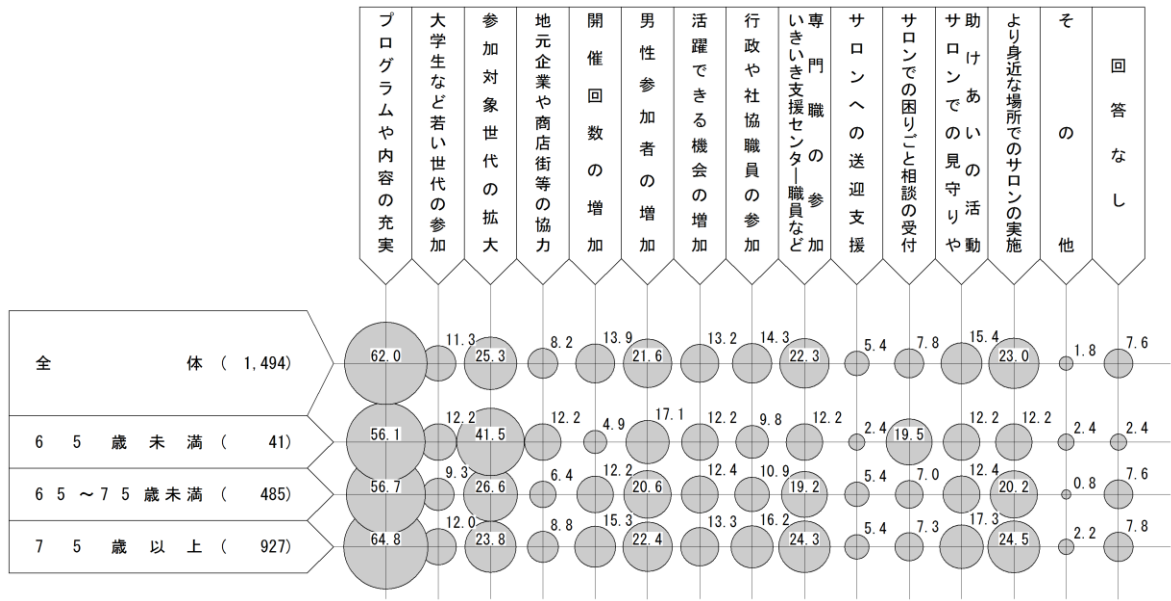
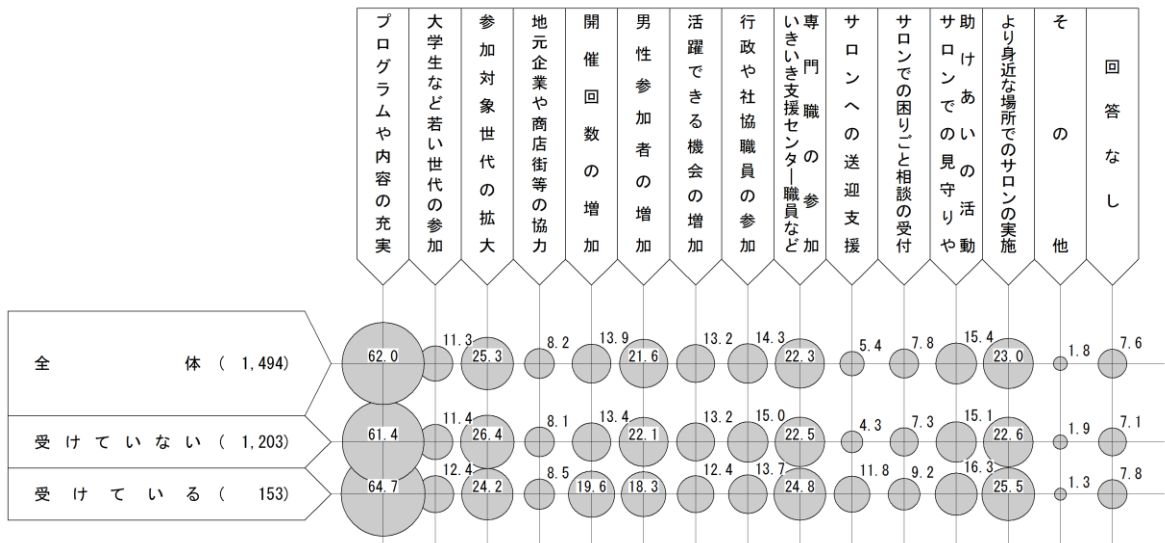


図 2-9-3 介護認定の有無別「今後のサロン活動に必要なこと」



(2) 充実すべきプログラム・内容 (n=927)

問11 問10の「1.プログラム内容の充実」として、どのようなプログラム・内容が良いと思われませんか。

◆「お茶とおしゃべり」の他、「健康体操」、「脳トレーニング」、「健康講話」、「健康チェック」など健康増進のためのプログラムが求められています。

【全体】 (図 2-9-4)

○「健康体操」が 64.0%と最も高く、次いで「お茶とおしゃべり」(49.1%)、「脳トレーニング」(41.0%)「健康講話」(37.4%)、「健康チェック」(35.5%)と続いています。

○15 項目全てが 1 割以上の票を獲得しており、参加者は多様なプログラムに興味があることがうかがえます。

【性別】 (図 2-9-4)

○女性は男性よりも、より多くの項目を選択する傾向にあり、男性は「囲碁・将棋・麻雀等」が全体と比較して 23.4%と、とても高くなっています。

【年齢別】 (図 2-9-5)

○65 歳未満は「創作活動 (手芸など)」(39.1%)、「食事会 (料理、お菓子作り)」(39.1%)、「音楽鑑賞」(34.8%)、「文化活動 (習字・俳句・川柳)」(30.4%)、「演劇・映画鑑賞」(26.1%)、「囲碁・将棋・麻雀等」(26.1%)等が全体と比較して 10%前後高くなっており、より多くの文化活動プログラムを求めているようです。

【介護認定の有無別】 (図 2-9-6)

○介護認定を受けている参加者は「お茶とおしゃべり」が全体と比較して 12.5%高くなっています。

図 2-9-4 性別「充実すべきプログラム・内容」

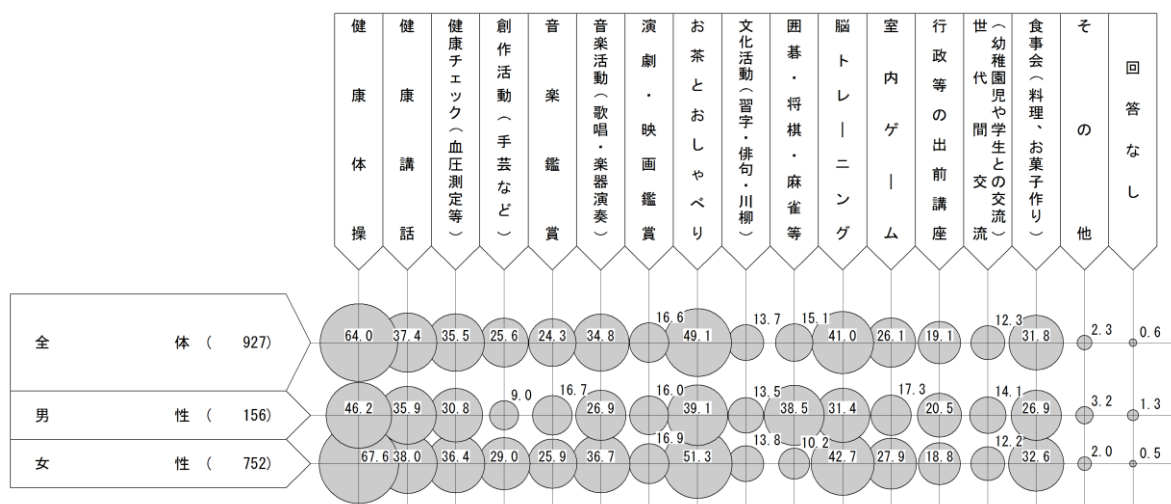


図 2-9-5 年齢別「充実すべきプログラム・内容」

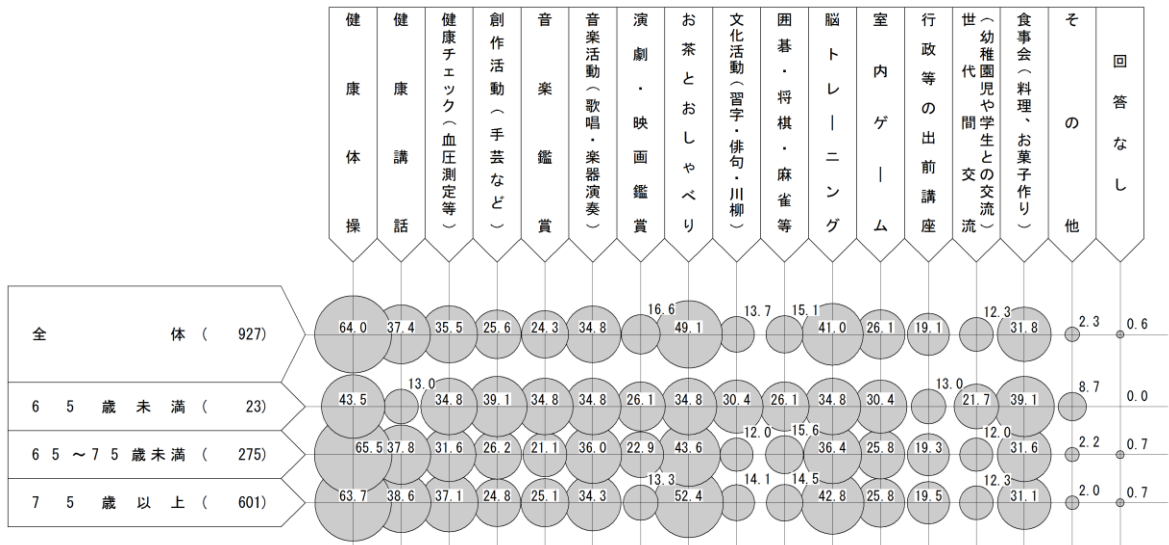
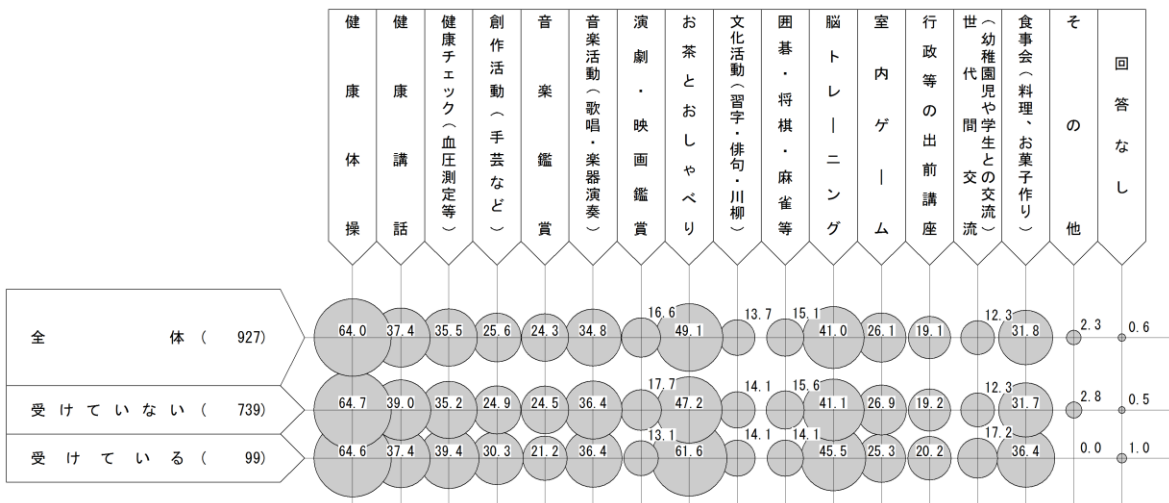


図 2-9-6 介護認定の有無別「充実すべきプログラム・内容」



(3) 困りごとの相談相手

問 12 困りごとがあった時に、どなたに相談するか教えてください。

◆困りごとの相談相手は「家族（親族）」や「友人」が多く挙げられています。

【全体】(図 2-9-7)

○困りごとについての相談相手は「家族（親族）」が 79.5%と最も高く、次いで「友人」(48.5%)、「サロンの仲間」(18.2%)、「近所の人」(13.9%)、「民生委員・児童委員」(13.5%)と続いています。

【性別】(図 2-9-7)

○男性は「自治会・町内会」が全体と比較して 6.7%高くなっており、「家族（親族）」が 9.1%、「友人」が 9.8%低くなっています。

【年齢別】(図 2-9-8)

○65 歳未満は「友人」が 22.2%、「サロンのスタッフ」が 6.3%、「家族（親族）」が 5.9%全体と比較して高くなっています。

【介護認定の有無別】(図 2-9-9)

○介護認定を受けている参加者は「担当のケアマネジャー」が 32.7%と全体と比較して高くなっており、「民生委員・児童委員」もが全体と比較して 5.5%高くなっています。

図 2-9-7 性別「困りごとの相談相手」

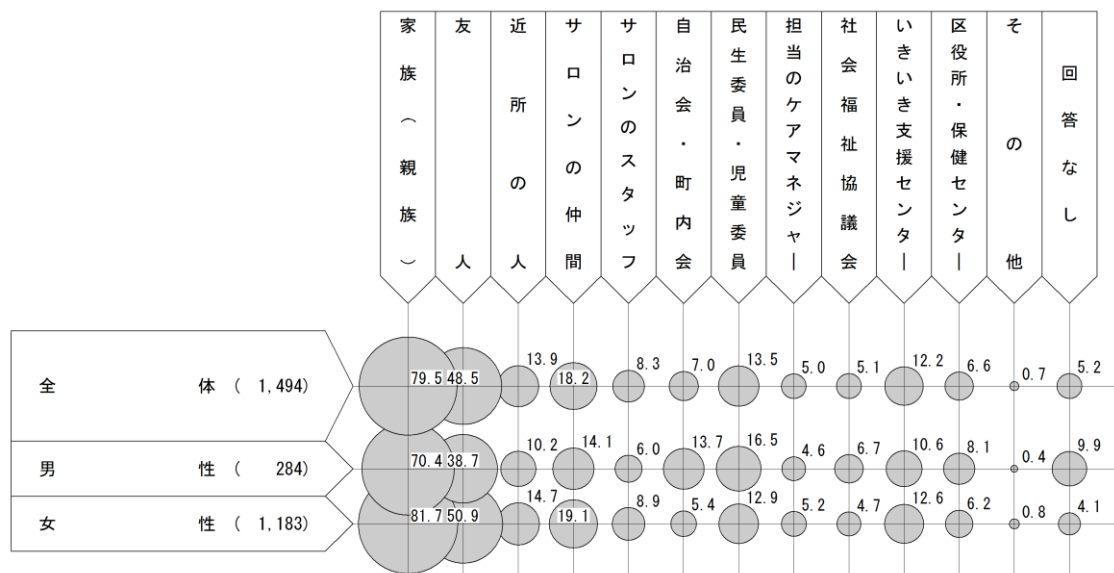


図 2-9-8 年齢別「困りごとの相談相手」

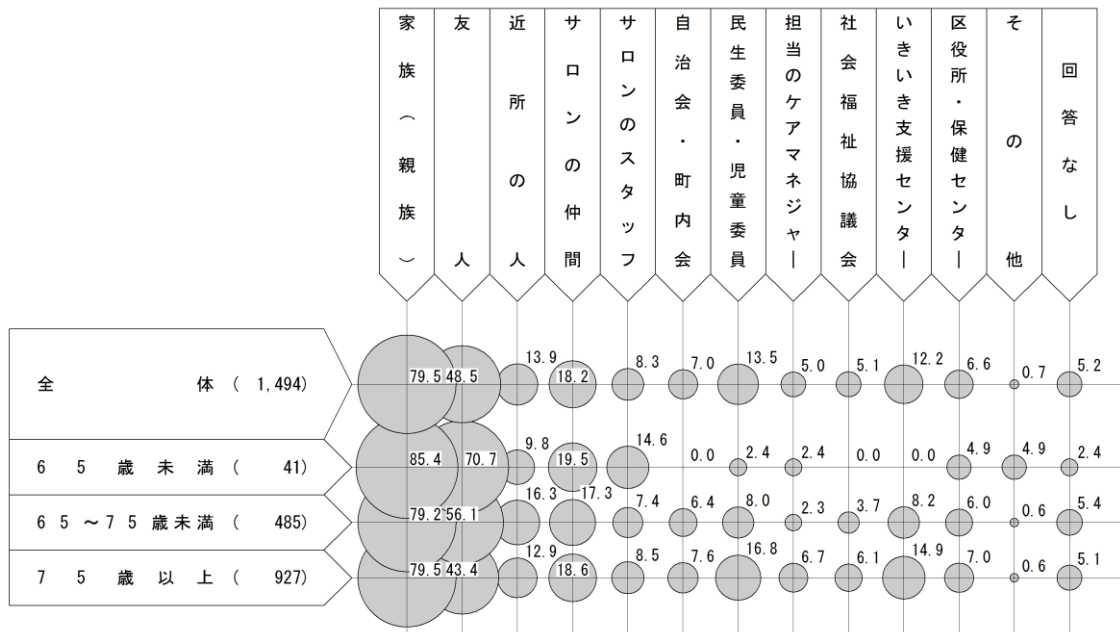
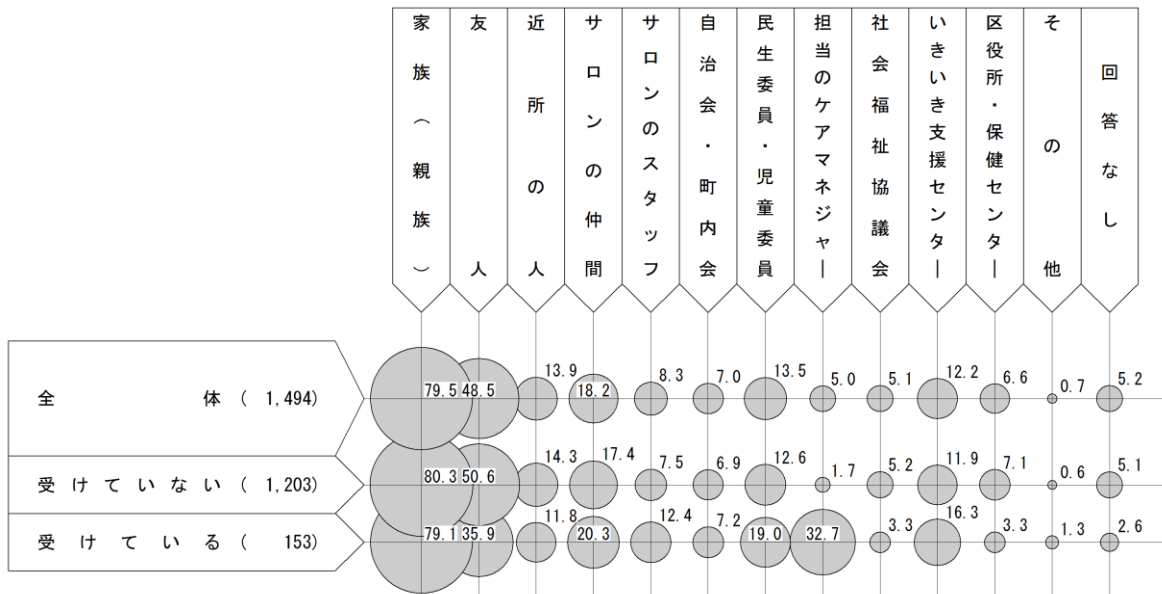


図 2-9-9 介護認定の有無別「困りごとの相談相手」



(4) 日ごろ感じていること

問 18 サロンに参加する中で、日頃感じていることがあればご自由にお書きください。

◆サロンに参加する中で、日頃感じていることについて、580 名から 615 件いただいています。

- サロンに対する要望や提案としては、参加者の増加希望、開催回数の増加、プログラム内容の充実、身近な場所での開催などの意見が寄せられました。
- サロンに関する感想や主催者へのメッセージでは、サロンに参加することで仲間や居場所を得て、生活にメリハリが生まれた、楽しみが増えた、健康維持に役立っているなど、大きな効果があったことが挙げられました。また、代表者や運営ボランティアへの感謝のメッセージもたくさん記入されています。感謝するとともに、運営側の負担の重さを心配し、何よりも今後継続して参加したい、長くサロンを続けてほしいとの思いが多く寄せられました。

◆分類別記入件数と、代表的な意見（抜粋）

①サロンに対する要望や提案（215 件）

参加者について（92 件）

- ・参加者を増やしたい。
- ・参加者を増やすことがサロンの充実につながると思う。
- ・高齢化で参加者が減少している。新規入会を増やしたい。
- ・参加者が少ないことがあり、もったいない、さびしいと思う。
- ・男性の参加者が少ない、男性を増やしたい。
- ・若い世代の参加を呼び掛けたい。
- ・家にひきこもりがちの人を誘っているがなかなか参加してくれない。誘い方を知りたい。
- ・サロン＝老人会のイメージがある。枠を外して多世代交流したい。
- ・グループで固まる人がいて、参加しにくい。
- ・主催者がアナウンスしているのに雑談する、非協力的などがいる。連帯感を高めたい。

開催の仕方やプログラムについて（58 件）

- ・月 2 回を毎週開催へ、月 1 回を 2 回へなど、開催回数を増加してほしい。
- ・みなが気軽に参加できるようにしてほしい。
- ・開催時間を延長してほしい。
- ・講座の定員数を増やしてほしい。
- ・健康講話や脳トレをもっと開催してほしい。
- ・毎回でなくとも、プログラムの内容の指導をしてくれる人がほしい。
- ・長く参加していると内容が繰り返しでマンネリ化する。新しいことがしたい。

会場について（18 件）

- ・抽選で会場を確保するのではなく、確実に確保して固定化してくれると安心。
- ・個人の自宅を開放していただいているが、いつ使えなくなるか分からないので公共の場で確保したい。
- ・徒歩圏内に会場があってほしい。
- ・高齢化に対応した会場が良い（洋室、軽い机と椅子、洋式トイレ、一階あるいはエレベーター）

サロンの継続開催、交流活性化を望む (16件)
<ul style="list-style-type: none"> ・無理のないように長く継続して開催してほしい。 ・少しでも長く、活動が広がって行きますように。 ・他のサロンとの交流をして、活動の参考にしたい。 ・町内に限らず、広く参加できることを広告して多くの人が交流するサロンであってほしい。
サロン運営者への要望 (12件)
<ul style="list-style-type: none"> ・常設で自由参加、いつでも立ち寄れるサロンがほしい。 ・各町内に一か所サロンがあるというのが理想だが代表者にはみな、なかなかたがらない。 ・スタッフだけでおしゃべりに夢中になるのはやめてほしい。参加者と会話してほしい。 ・ボランティアの方には感謝していますが、高齢者に対して幼児に話しかけるような言葉づかいをしてほしくない。 ・もう少し予算があればよいと思う。
サロンに関する情報について (12件)
<ul style="list-style-type: none"> ・地域にこだわらず気楽に広く活動したいので、広域のサロン情報がほしい。 ・開催曜日が固定化されており、参加できないことがある。他地域のサロン内容が分かればもっと参加できる。 ・サロンの内容や良さが知られていない。PRをもっとすべきだと思う。 ・サロンの開催日を忘れてしまうことがある。情報伝達方法を充実してほしい。
自治会・民生委員との連携について (3件)
<ul style="list-style-type: none"> ・行事に各種団体役員の参加を望みます。 ・自治会の積極的な協力体制が必要。
その他 (4件)
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者ですが、何か一つでも協力したいと思う。 ・同じ趣味を持つ仲間とサロンを立ち上げたい。

②サロンへの感想やメッセージ (381件)

サロンに参加した効果・成果 (195件)
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみに参加している ・サロンに通うことが生きがいとなっている。 ・外出の機会が増え、生活にメリハリが生まれた。 ・友人知人が増えた。 ・サロンで知り合えた人と、スーパーなど地域で出会ったときに笑いあうことがうれしい。 ・通常の生活では出会えない人と、知り合い交流することが楽しい。 ・一人暮らしの孤独感や不安感が和らぐ。 ・サロンで会う人との会話を楽しんでいる。 ・心を許せる仲間との交流の場となっている。 ・安心感を得ている。息抜き場となっている。 ・新しい知識を得たり、生活全般に関する情報を得ることができる。 ・参加前よりも明るくなった。前向きになった。 ・健康について意識するようになった。体調が良くなった。 ・健康維持に役立っていると思う。 ・今のままで大変満足している。
代表者、運営スタッフへのメッセージ、謝辞 (80件)
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも親切にしてもらっている。感謝している。 ・大変お世話になっています。おかげで楽しい時間を過ごせています。 ・いろいろな行事を考え工夫していただいてありがたい。 ・場所を提供してくださった方、お手伝いで支えてくださる方皆さんに感謝している。 ・感謝するとともに、代表者の負担が大きすぎるのではないかと心配。 ・ボランティアの皆さんの負担がかかっているのが心配。長続きしないのではないかと。

好きな、気に入っているプログラムの内容 (41 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・お茶とおしゃべり：コーヒーが美味しい、活動後のお茶が楽しみ。 ・健康体操・健康講話：健康を意識する、知識を得られる。 ・脳トレーニング：元気をもらっている。刺激になる。ボケ防止になる。 ・さまざまな内容で変化がある。麻雀、カラオケ、落語、料理講座、手芸など
現在の参加状況・今後の継続希望 (29 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・複数のサロンに参加している。 ・曜日の違うサロンを組み合わせ生活のリズムを作っている。 ・今後も、なるべく長く参加したい。 ・仲間と仲良く参加し続けたい。
不満に思うこと、困っていること (15 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・仲良し同志、グループで固まってしまうことが残念。 ・やかましい人がいて、参加するのが嫌になる。 ・サロン参加者に寄付を募ること ・ちょっとした言葉で悩んだこともあり、人間関係に気がつかう。 ・足腰が弱り、参加するのが難しくなっている。 ・スタッフが多すぎて私語が多くなる
良いと思うシステム・ルールについて (13 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・おしつけがましくなく、集まるのが自由だから気楽です。 ・社協やいきいきセンター職員が参加してくれていて、相談しやすくなっている。 ・徒歩圏で開催されていること ・保健所との連携、認知サポーターの出席
会場について (6 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・場所の確保が大変であると思う。 ・活動する場所がない、偏っている。 ・便所がない、老化している。(神社内)
その他 (2 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・これからもよろしくお願いします。 ・サロンのスタッフですが毎回内容を決めるのに困っている

③その他 (19 件)

日常、自身がこころがけていること (8 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・健康第一 ・健康に気をつけている
その他 (11 件)
<ul style="list-style-type: none"> ・参加して、まだ日が浅く、よくわからない ・公民館やコミュニティセンターなど、何をやっているのかよくわからない。

第 10 章 アンケート調査票

(1) サロン代表者向けアンケート

名古屋市社会福祉協議会 高齢者・共生型サロン実態把握調査 ふれあい・いきいきサロン 運営ボランティア代表者向けアンケート

アンケート調査へのご協力をお願い

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

皆さまには日頃から、「ふれあい・いきいきサロン（以下サロン）」をはじめとする地域福祉活動にご理解・ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

このたび、本会では、名古屋市内における各種サロンの現状について、サロン主催者及び参加者の双方を対象としたアンケートを実施することとしました。

今回の調査を通じて、運営ボランティア代表者・参加者の方々の現状やサロン参加後の変化、サロン活動上での課題、支援要望などを把握し、今後安心してサロン活動ができる地域社会づくりに役立てたいと考えております。

つきましては、お忙しいところ大変申し訳ありませんが、以下のアンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成 30 年 11 月 名古屋市社会福祉協議会

ご回答にあたってのお願い

- 本アンケート調査は、社会福祉協議会（以下「社協」という）が把握する高齢者・共生型サロンについて、各区から無作為抽出し、サロンの代表者に送付しています。
- 代表者または団体としての方針や考え方をお答えいただける方のご記入をお願いいたします。（代表者の代理の方がお答えいただいても構いません。）
- 回答にあたっては、特に記載のない場合は、該当する項目を1つ選んで、番号に○印をつけてください。ただし、「その他」を選択された場合は、（ ）内に具体的にその内容をご記入ください。
- 調査結果はすべて統計処理し、個人の名前や回答が特定されることはありません。普段思っておられることをありのままにお答えください。
- 回答された調査票は 12月28日(金) までに同封しました返信用封筒（切手不要）に入れて、お近くのポストに投函してください。
- このアンケートについてのご質問などがありましたら下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

〒462-8558名古屋市北区清水4-17-1 名古屋市総合社会福祉会館5階
名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進部 担当：染野・市川
TEL 052-911-3193 / FAX 052-917-0702 / mail m.ichikawa@nagoya-shakyo.or.jp

問2 サロン参加者の男女比を教えてください。

- | | | |
|---------------|----------------|---------|
| 1. 女性のみ | 4. 男性・女性ともほぼ同数 | 7. 男性のみ |
| 2. ほとんどが女性参加者 | 5. やや男性が多い | |
| 3. やや女性が多い | 6. ほとんどが男性参加者 | |

問3 サロン参加者の平均年齢を教えてください。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 50歳未満 | 4. 60～65歳未満 | 7. 75～80歳未満 |
| 2. 50～55歳未満 | 5. 65～70歳未満 | 8. 80歳以上 |
| 3. 55～60歳未満 | 6. 70～75歳未満 | |

問4 サロン開設時と比較した参加者数の変化を教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 増えている | 2. ほとんど変化なし | 3. 減っている |
| ----- | | |
| (上記の理由:) | | |

問5 サロンをはじめたきっかけを教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. ふれあい・交流の場が必要と思った | 6. 市・区社協の講座等を受講して |
| 2. 高齢者を地域で見守るため | 7. 人に勧められて |
| 3. 運動する場がほしかった | 8. 他のサロン活動に参加して |
| 4. 趣味、レクリエーションの場がほしかった | 9. その他 |
| 5. 介護予防や認知症予防のため | () |

問6 サロンのプログラムについて、頻度の高い内容を教えてください。

(あてはまるもの5つ以内に○印)

- | | | |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 健康体操 | 7. 演劇・映画鑑賞 | 13. 行政等の出前講座 |
| 2. 健康講話 | 8. お茶とおしゃべり | 14. 世代間交流 |
| 3. 健康チェック(血圧測定等) | 9. 文化活動(習字・俳句・川柳) | (幼稚園児や学生との交流) |
| 4. 創作活動(手芸など) | 10. 囲碁・将棋・麻雀等 | 15. 食事会(料理、お菓子作り) |
| 5. 音楽鑑賞 | 11. 脳トレーニング | 16. その他 |
| 6. 音楽活動(歌唱・楽器演奏) | 12. 室内ゲーム | () |

上記1～16の中から、とくに参加者に喜ばれているものを3つ選び、その番号を右欄に記入して下さい。…→

--	--	--

サロンの経費や助成制度の利用についておたずねします。

問7 1回開催あたりの必要な経費について教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 費用はかからない(⇒問9に進む) | 4. 3,000円から5,000円未満 |
| 2. 1,000円未満 | 5. 5,000円から10,000円未満 |
| 3. 1,000円から3,000円未満 | 6. 10,000円以上 |

問8 問7で「2」～「6」と回答された方にお聞きします。

費用の内容を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|------------|---------------|
| 1. お茶菓子代 | 7. 備品・事務用品購入費 |
| 2. 食材費 | 8. 担い手の実費交通費 |
| 3. 手芸等の材料費 | 9. 講師謝金 |
| 4. 会場使用料 | 10. その他 |
| 5. 保険料 | () |
| 6. 資料印刷代 | |

問9 サロンの運営費(収入)の状況について教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 運営費に余裕がある | 3. なんとかやりくりできている |
| 2. ちょうどよい | 4. 運営費が足りていない |

問10 サロンを継続的に運営していくために利用している助成金や補助金について教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 市社協の運営助成 | 5. 財団法人など他団体からの助成 |
| 2. 区社協からの事業助成 | 6. 助成金や補助金は利用していない |
| 3. 学区地域福祉推進協議会からの補助 | 7. その他 |
| 4. 町内会・自治会からの補助 | () |

サロンの運営状況についておたずねします。

問11 日ごろから連絡や連携している団体や機関について教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 区社協 | 12. 社会福祉施設 |
| 2. 学区地域福祉推進協議会 | 13. 診療所・病院 |
| 3. 民生委員・児童委員 | 14. ボランティアグループ・NPO 団体 |
| 4. 自治会・町内会 | 15. 小・中学校 |
| 5. 老人クラブ | 16. 大学 |
| 6. 女性会・子ども会等の地域団体 | 17. 保育園・幼稚園 |
| 7. 区役所・保健センター | 18. 警察署・消防署 |
| 8. いきいき支援センター | 19. 地元企業・商店街 |
| 9. 福祉会館 | 20. 生協・農協 |
| 10. ケアマネジャーのいる事業所 | 21. その他 |
| 11. 介護サービスを提供する事業所 | () |

問 12 サロン活動を継続するために、心がけていることや取り組んでいることを教えてください。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 参加者の声を尊重している | 7. 誰でも気軽に参加できる雰囲気づくりをしている |
| 2. スタッフと参加者の垣根をつくらない | 8. 適正な参加費を設定している |
| 3. 参加者が役割をもっている | 9. 食品の取り扱いや衛生面に注意している |
| 4. サロンの目標や理念を共有している | 10. 特に取り組んでいない |
| 5. 打ち合わせを行い、役割分担している | 11. その他 |
| 6. スタッフ自身も楽しんでいる | () |

問 13 参加者のちょっとした困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいることについて教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 何気ない会話から困りごとの把握 | 8. ボランティア団体等への困りごとの支援依頼 |
| 2. スタッフによる困りごと相談の受付 | 9. 区社協やいきいき支援センターへの相談 |
| 3. 困りごとを話せる場や機会づくり | 10. 担当の民生委員やケアマネジャーへの相談 |
| 4. 区社協やいきいき支援センター職員の定期的なサロン訪問 | 11. 地域支えあい事業の住民相談窓口への相談 |
| 5. 打ち合わせ等での参加者の状況を共有 | 12. 特に取り組んでいない |
| 6. スタッフによる困りごとの支援 | 13. その他 |
| 7. 参加者同士での見守りや助け合い | () |

問 14 現在のサロンの運営状況について教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | |
|---|
| 1. 特に悩みや困っていることもなく、順調に運営できている ⇒ 問 16 へお進みください |
| 2. 悩みや困っていることはあるが、運営できている |
| 3. 悩みや困っていることがあり、運営に不安を感じている・行き詰まっている |

問 15 問 14 で「2」、「3」と回答された方にお聞きします。サロンの活動上の悩みや困っていることについて教えてください(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 特定のスタッフへの責任や負担の集中 | 11. 当初の想定よりも参加者が多い |
| 2. リーダーや後継者が育たない | 12. 男性の参加が少ない |
| 3. スタッフの高齢化や世代の偏り | 13. 地域で孤立しがちな人への周知 |
| 4. スタッフの不足 | 14. 地域団体や住民の協力が得られない |
| 6. 活動内容のマンネリ化 | 15. 関係団体や機関の協力が得られない |
| 7. プログラムの企画や準備 | 16. サロン活動に関する情報がない |
| 8. 活動資金の不足 | 17. サロン活動に関する相談先がない |
| 9. 活動場所の確保 | 18. その他 |
| 10. 参加者が少ない | () |

サロン活動の効果についておたずねします。

問 16 サロン活動を通じてあなたが感じている ①参加者への効果、②サロンの効果、
③あなた自身の思いについて、各項目のそれぞれの欄で、あなたのお考えに
最も近いものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

	とても思う	まあ思う	言えない	思わない	あまり思わない	わからない
記入例) ○○○○○○について ⇒	1	②	3	4	5	6
<① 参加者への効果>						
(1) 人と話す機会が増えている ⇒	1	2	3	4	5	6
(2) 新しい友人や仲間ができています ⇒	1	2	3	4	5	6
(3) サロンへの主体的な関わりが増えている ⇒	1	2	3	4	5	6
(4) サロン以外の会（趣味やスポーツの会・老人クラブなど）の参加が増えている ⇒	1	2	3	4	5	6
(5) メリハリのある生活につながっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(6) 生きがいにつながっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(7) 役割などがあることで自信につながっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(8) 体を動かす機会が増えている ⇒	1	2	3	4	5	6
<② 貴サロンの効果>						
(9) 参加者の体調の変化などに気づくことができる ⇒	1	2	3	4	5	6
(10) 参加者の安否確認ができる ⇒	1	2	3	4	5	6
(11) 閉じこもり・孤立の防止になっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(12) 介護予防や認知症予防に役立っている ⇒	1	2	3	4	5	6
(13) スタッフや参加者の居場所になっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(14) 心配ごとや困りごとの発見につながっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(15) ちょっとした困りごとの解決につながっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(16) 参加者の家族の負担軽減や気分転換になっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(17) 地域での助けあい活動や交流の拠点となっている ⇒	1	2	3	4	5	6
<③ あなた自身の思い>						
(18) 地域や社会の役に立ててうれしい ⇒	1	2	3	4	5	6
(19) サロン活動が自分自身の生きがいになっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(20) 人的なネットワークがひろがっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(21) 高齢者の困りごとなどを知り、他人事ではないと感じている ⇒	1	2	3	4	5	6
(22) 地域の福祉課題を知り、解決に取り組む必要があると感じている ⇒	1	2	3	4	5	6

今後、求められるサロン活動の支援策についておたずねします。

問 17 今後、サロン活動がより一層発展するために必要だと思うことを教えてください。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 地域住民へのサロン活動の周知 | 12. 地縁型組織との連携・協働 |
| 2. 新たな担い手の確保 | 13. ボランティアやNPO 団体との連携・協働 |
| 3. 大学生など若い世代の参加 | 14. 社会福祉施設との連携・協働 |
| 4. 参加対象世代の拡大 | 15. 他のサロンとの交流・情報交換 |
| 5. 男性参加者の増加 | 16. スタッフの学習の機会の増 |
| 6. 地元企業や商店街等の協力 | 17. 行政や社協職員による活動支援 |
| 7. 開催回数の増加 | 18. サロンへの送迎支援 |
| 8. 開催場所の確保 | 19. サロンでの困りごと相談の受付 |
| 9. 会場設備の充実 (いす、台所等) | 20. サロンでの見守りや助けあいの活動 |
| 10. 介護予防等のプログラムの充実 | 21. その他 |
| 11. 継続的な運営助成や補助 | () |

サロンの運営について日ごろ感じていることについておたずねします。

問 18 サロンを運営する中で、日ごろ感じていることがあればご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。
調査票は、12月28日(金)までに同封の封筒にてご返送ください。

(2) サロン参加者向けアンケート

名古屋市社会福祉協議会 高齢者・共生型サロン実態把握調査 ふれあい・いきいきサロン 参加者向けアンケート

アンケート調査へのご協力をお願い

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

皆さまには日頃から、「ふれあい・いきいきサロン（以下サロン）」をはじめとする地域福祉活動にご理解・ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

このたび、本会では、名古屋市内における各種サロンの現状について、サロン主催者及び参加者の双方を対象としたアンケートを実施することとしました。

今回の調査を通じて、運営ボランティア代表者・参加者の方々の現状やサロン参加後の変化、サロン活動上での課題、支援要望などを把握し、今後安心してサロン活動ができる地域社会づくりに役立てたいと考えております。

つきましては、お忙しいところ大変申し訳ありませんが、以下のアンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成 30 年 11 月 名古屋市社会福祉協議会

ご回答にあたってのお願い

- 本アンケート調査は、社会福祉協議会（以下「社協」という）が把握する高齢者・共生型サロンについて、各区から無作為抽出し、サロンの参加者に送付しています。
- サロンに対して日ごろお考えになっていることについて、お答えいただける方のご記入をお願いいたします。
- 回答にあたっては、**特に記載のない場合は、該当する項目を1つ選んで、番号に○印をつけてください。**ただし、「その他」を選択された場合は、() 内に具体的にその内容をご記入ください。
- 調査結果はすべて統計処理し、個人の名前や回答が特定されることはありません。普段思っておられることをありのままにお答えください。
- 回答された調査票は **12月28日(金)** までに同封しました返信用封筒（切手不要）に入れて、お近くのポストに投函してください。
- このアンケートについてのご質問などがありましたら下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

〒462-8558名古屋市北区清水4-17-1 名古屋市総合社会福祉会館5階
名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進部 担当：染野・市川
TEL 052-911-3193 / FAX 052-917-0702 / mail m.ichikawa@nagoya-shakyo.or.jp

<参加者向けアンケート>

あなたのことについておたずねします。

問1：あなたのことについてお答えください。(選択肢の設定は、あてはまるものに○印)

調査依頼された サロン名称			
サロンの 開催地区	区	学区	
あなたの性別	男 ・ 女	あなたの年齢	満 歳
家族構成	1. 一人暮らし 2. 夫婦で二人暮らし 3. 夫婦と子ども（または子ども世帯）と同居	4. 自分と子ども（または子ども世帯）と同居 5. 親と同居 6. その他 （具体的に)	
介護保険の 認定区分	1. 受けていない(非該当・申請中を含む) 2. 基本チェックリストによる事業対象者 3. 要支援1 4. 要支援2 5. 要介護1	6. 要介護2 7. 要介護3 8. 要介護4 9. 要介護5 10. わからない	
収入を得る仕事	1. している	・	2. していない
現在の健康状態	1. とても良い 2. まあまあ良い	3. あまり良くない 4. 良くない	
地域内で参加 している活動	1. 趣味・娯楽のグループ 2. ボランティアグループ 3. 老人クラブ	4. 町内会・自治会活動 5. その他 ()	
参加している サロン数	1. 1つ 2. 2つ	3. 3つ 4. 4つ以上	

あなたが参加しているサロンについておたずねします。

問2 自宅からサロン会場まで、徒歩による片道の移動時間を教えてください。
(あてはまるもの1つに○印)

1. 5分未満	4. 15分～20分未満
2. 5～10分未満	5. 20分以上
3. 10～15分未満	

問3 サロン会場までの1番多い移動手段を教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. ひとりで歩いて来ている | 7. 参加者同士誘い合って自転車で来ている |
| 2. ひとりで自転車で来ている | 8. 参加者の自動車に乗り合わせて来ている |
| 3. 自分の自動車で来ている | 9. 地下鉄・バスなどの公共交通機関 |
| 4. 家族と一緒に歩いて来ている | 10. その他 |
| 5. 家族が自動車で送迎してくれる | () |
| 6. 参加者同士誘い合って歩いて来ている | |

問4 あなたがサロンに参加する理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 新たに友人や仲間をつくるため | 7. 趣味や特技、技術をいかすため |
| 2. 友人や仲間との交流を深めるため | 8. 開催場所が近いから |
| 3. 健康を維持するため | 9. 自分の話を聞いてくれる人がいるから |
| 4. 介護予防・認知症予防になるから | 10. その他 |
| 5. 誰かが誘ってくれるから | () |
| 6. 地域や社会の役に立ちたいため | |

問5 サロンに参加し始めてから何年経過したか教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 1年未満 | 5. 4～5年未満 |
| 2. 1～2年未満 | 6. 5年以上 |
| 3. 2～3年未満 | 7. わからない |
| 4. 3～4年未満 | |

問6 サロン参加費(会費)について、あなたの考えに1番近いものを教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 運営に必要な参加費は負担しても構わない | 3. 外出行事なら負担しても構わない |
| 2. 低額なら負担しても構わない | 4. 参加費を負担してまで来たくない |

問7 サロンに対する満足度について、あなたの考えに1番近いものを教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. とても満足している | 4. あまり満足していない |
| 2. まあ満足している | 5. 満足していない |
| 3. どちらとも言えない | |

問8 サロンの情報をどのように入手しているか教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 地域の掲示版、回覧板 | 7. 介護保険サービス事業所 |
| 2. 友人から教えてもらっている | 8. 社会福祉協議会 |
| 3. サロン主催者側から教えてもらう | 9. 情報の入手先を知らない |
| 4. 区役所や保健センター | 10. その他 |
| 5. いきいき支援センター | () |
| 6. 福祉会館や生涯学習センター | |

サロンに参加する以前と比較した効果についておたずねします。

問 9 サロンへの参加を通じて感じている①自分自身の変化と②地域とのつながりについて、各項目のそれぞれの欄で、あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

	とても思う	まあ思う	言えない	思わない	あまり思わない	わからない
記入例) ○○○○○○について ⇒	1	②	3	4	5	6
<①自分自身の変化>						
(1) 人と話す機会が増えた ⇒	1	2	3	4	5	6
(2) 新しい友人や仲間ができた ⇒	1	2	3	4	5	6
(3) 外出の回数(機会)が増えた ⇒	1	2	3	4	5	6
(4) サロン以外の会(趣味やスポーツなど)の参加が増えた ⇒	1	2	3	4	5	6
(5) ボランティア活動をはじめた ⇒	1	2	3	4	5	6
(6) 気持ちが明るくなった ⇒	1	2	3	4	5	6
(7) さびしさや不安感、孤独感がなくなった ⇒	1	2	3	4	5	6
(8) 周囲の人を気にかけるようになった ⇒	1	2	3	4	5	6
(9) 生活のリズムがつき、メリハリがついた ⇒	1	2	3	4	5	6
(10) 身だしなみに気を使うようになった ⇒	1	2	3	4	5	6
(11) 体を動かす習慣が増えた ⇒	1	2	3	4	5	6
(12) 健康について意識するようになった ⇒	1	2	3	4	5	6
(13) 健康に関する情報や知識が増えた ⇒	1	2	3	4	5	6
(14) 健康を保つことができている ⇒	1	2	3	4	5	6
(15) サロンは介護予防や認知症予防になっている ⇒	1	2	3	4	5	6
(16) 病院に行く回数が減った ⇒	1	2	3	4	5	6
(17) サロンの参加が生きがいとなっている ⇒	1	2	3	4	5	6
<②地域とのつながり>						
(18) 地域には助けあいの気持ちがあると感じている ⇒	1	2	3	4	5	6
(19) 地域の人に頼ることができるようになった ⇒	1	2	3	4	5	6
(20) サロン以外にも友人や仲間ができた ⇒	1	2	3	4	5	6
(21) 周囲の人が自分のことを気にかけてくれるようになった ⇒	1	2	3	4	5	6
(22) 心配ごとや困りごとを相談できるようになった ⇒	1	2	3	4	5	6
(23) 地域活動・行事の誘いがくるようになった ⇒	1	2	3	4	5	6
(24) 地域活動・行事に参加するようになった ⇒	1	2	3	4	5	6

日常の行動や感じていることについておたずねします。

問 10 今後、サロン活動をより一層充実するために 必要だと思うことを教えてください。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. プログラムや内容の充実 (⇒問 11 に進む) | 8. 行政や社協職員の参加 |
| 2. 大学生など若い世代の参加 | 9. いきいき支援センター職員など専門職の参加 |
| 3. 参加対象世代の拡大 | 10. サロンへの送迎支援 |
| 4. 地元企業や商店街等の協力 | 11. サロンでの困りごと相談の受付 |
| 5. 開催回数の増加 | 12. サロンでの見守りや助けあいの活動 |
| 6. 男性参加者の増加 | 13. より身近な場所でのサロンの実施 |
| 7. 活躍できる機会の増加 | 14. その他 |
| | () |

問 11 問 10 で「1」と回答された方についてお聞きします。
どのようなプログラムや内容が良いと思われるか教えてください。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 健康体操 | 9. 文化活動 (習字・俳句・川柳) |
| 2. 健康講話 | 10. 囲碁・将棋・麻雀等 |
| 3. 健康チェック (血圧測定等) | 11. 脳トレーニング |
| 4. 創作活動 (手芸など) | 12. 室内ゲーム |
| 5. 音楽鑑賞 | 13. 行政等の出前講座 |
| 6. 音楽活動 (歌唱・楽器演奏) | 14. 世代間交流 (幼稚園児や学生との交流) |
| 7. 演劇・映画鑑賞 | 15. 食事会 (料理、お菓子作り) |
| 8. お茶とおしゃべり | 16. その他 |
| | () |

問 12 日頃、困りごとがあった時に誰に相談するか教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 家族 (親族) | 7. 民生委員・児童委員 |
| 2. 友人 | 8. 担当のケアマネジャー |
| 3. 近所の人 | 9. 社会福祉協議会 |
| 4. サロンの仲間 | 10. いきいき支援センター |
| 5. サロンのスタッフ | 11. 区役所・保健センター |
| 6. 自治会・町内会 | 12. その他 |
| | () |

問 13 サロンに参加する中で、日ごろ感じていることがあればご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。
調査票は、12月28日(金)までに同封の封筒にてご返送ください。

(1) サロンに参加することによる効果

サロン代表者及びサロン参加者はサロンに参加することでどのような効果が生じたのか、アンケート結果を基に検証します。

◆サロンに参加することにより、人との交流や健康維持、外出機会の増大といった効果が評価され、サロン自体への満足度も高くなっています。

- サロンに対する満足度を見ると、参加者の9割以上は満足しています。
- サロン運営以前と比較した効果を代表者、参加者ともに検証すると、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「人と話す機会が増えた」（代表者：95.5%、参加者：87.3%）、「新しい友人や仲間が増えている」（代表者：88.0%、参加者：82.2%）と地域におけるコミュニケーションの場としての効果が大変高く評価されています。
- 選択肢が代表者と参加者で異なりますが、代表者は「生きがいにつながっている」や「メリハリのある生活につながっている」、参加者は「健康について意識するようになった」や「外出の機会（回数）が増えた」との効果を高く上げていて、サロンへの参加が健康維持や生活に張りを生んでいることがうかがえます。

効果	代表者 順位	参加者 順位
人と話す機会が増えた	1位	1位
新しい友人や仲間が増えている	2位	2位
生きがいにつながっている	3位	
健康について意識するようになった		3位

図 3-1-1 参加者のサロンに対する満足度

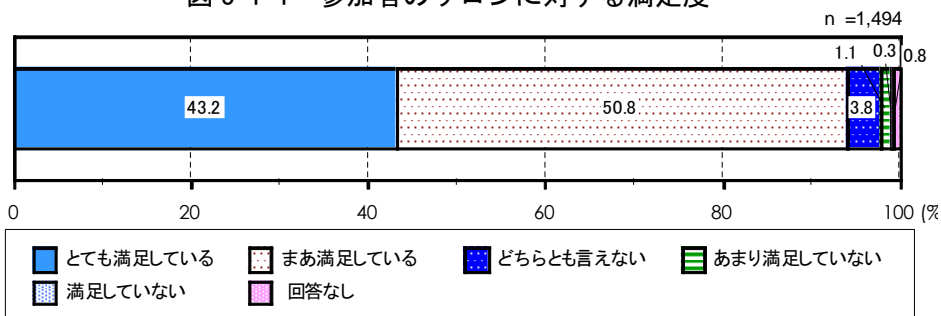


図 3-1-2 サロン代表者が感じている【参加者への効果】

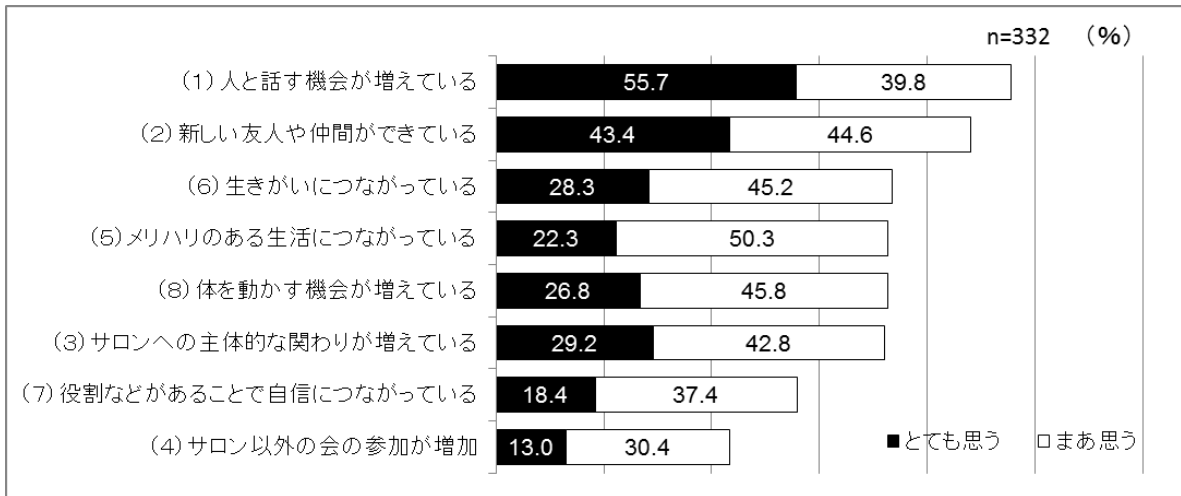
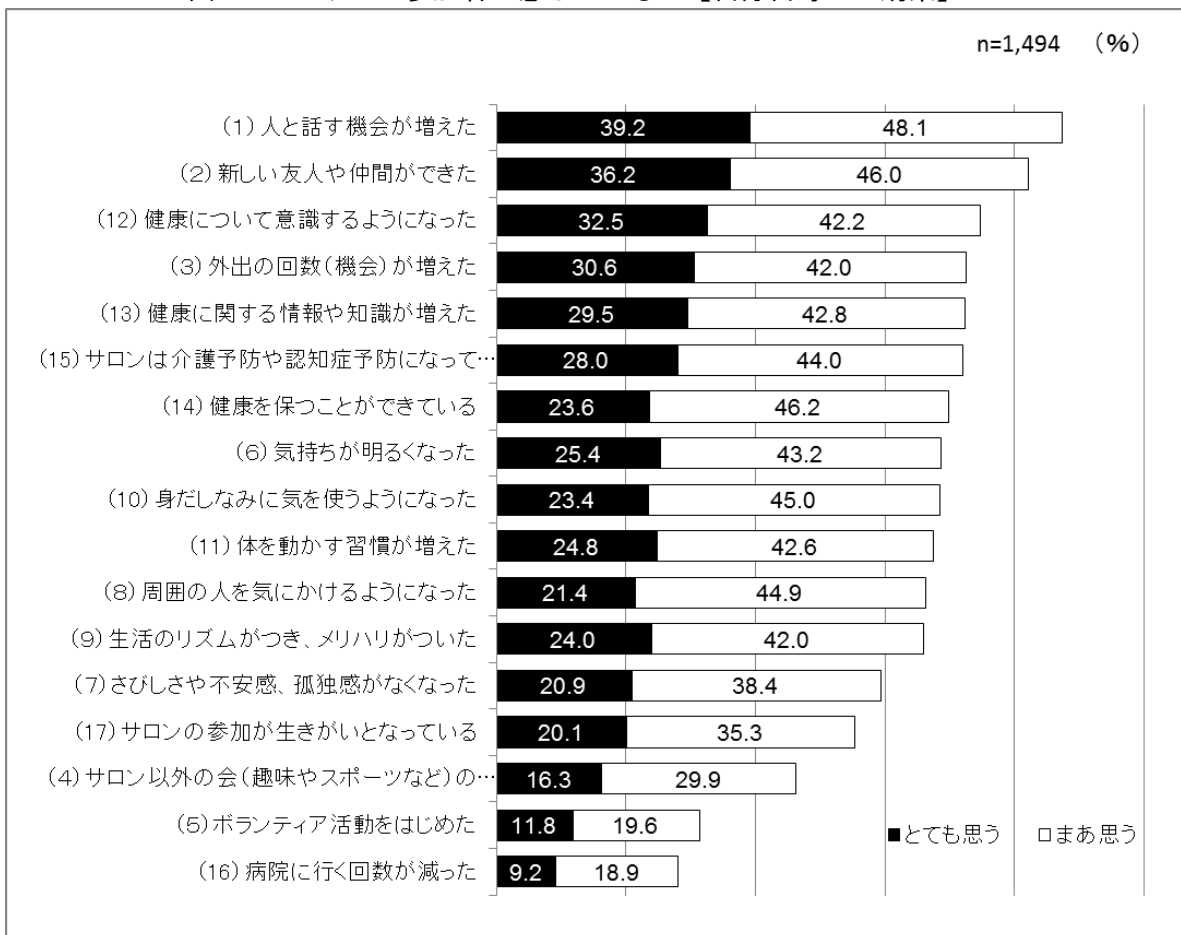


図 3-1-3 サロン参加者が感じている【自分自身への効果】



(2) 参加者がサロンに参加する理由

満足度が高く、人との交流や健康維持効果もあるサロンについて、参加者はどのような理由で参加しているのか、アンケート結果を基に検証します。

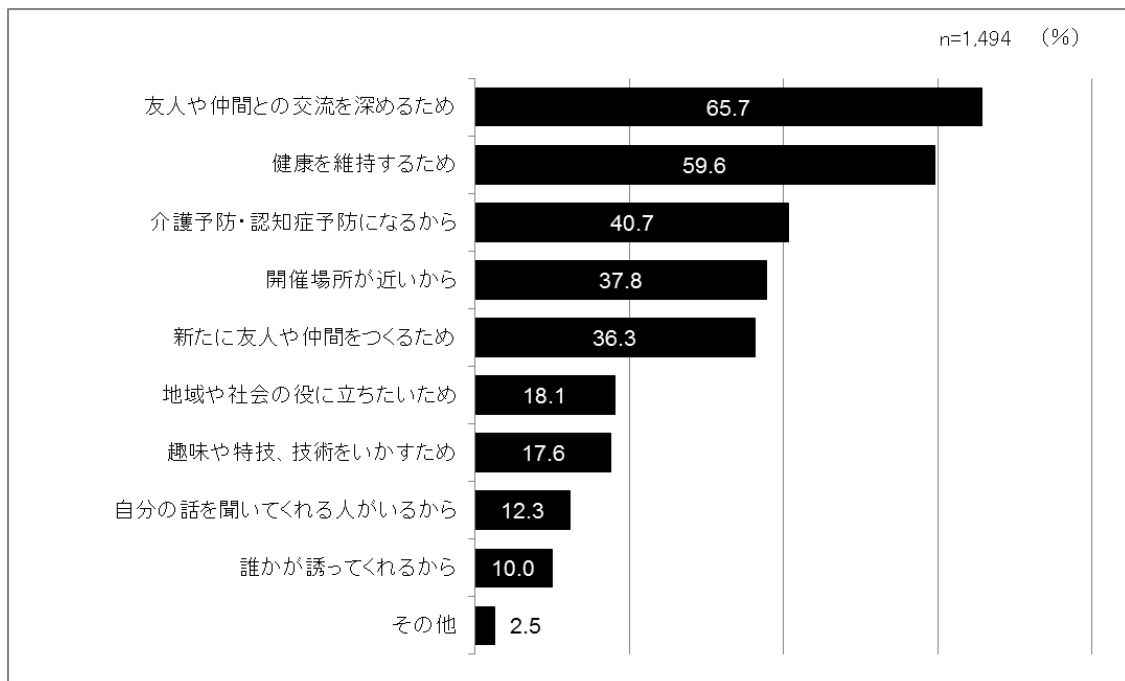
◆「友人や仲間との交流を深めるため」、「健康を維持するため」、「介護予防・認知症予防になるから」などの理由で参加者はサロンに参加しており、結果的に健康に対する意識が高まり、認知症予防や、人との交流が増えることに繋がっています。

- サロンに参加する理由については「友人や仲間との交流を深めるため」(65.7%)が最も多く、次いで「健康を維持するため」(59.6%)、「介護予防・認知症予防になるから」(40.7%)となっており、参加者は、やはり人との交流や健康維持を期待していることがわかります。
- また、「開催場所が近いから」も37.8%と多く、気楽な気持ちでサロンに参加することが結果的に健康に対する意識を高め、介護予防や認知症予防、人との交流が増えることに繋がっています。

サロンに参加する理由（サロン参加者）

サロンに参加する理由	順位
友人や仲間との交流を深めるため	1位
健康を維持するため	2位
介護予防・認知症予防になるから	3位
開催場所が近いから	4位

図 3-1-4 参加者がサロンに参加する理由



(3) 代表者がサロンをはじめたきっかけ

代表者はどのような目的でサロンを立ち上げたのか、アンケート結果を基に検証します。

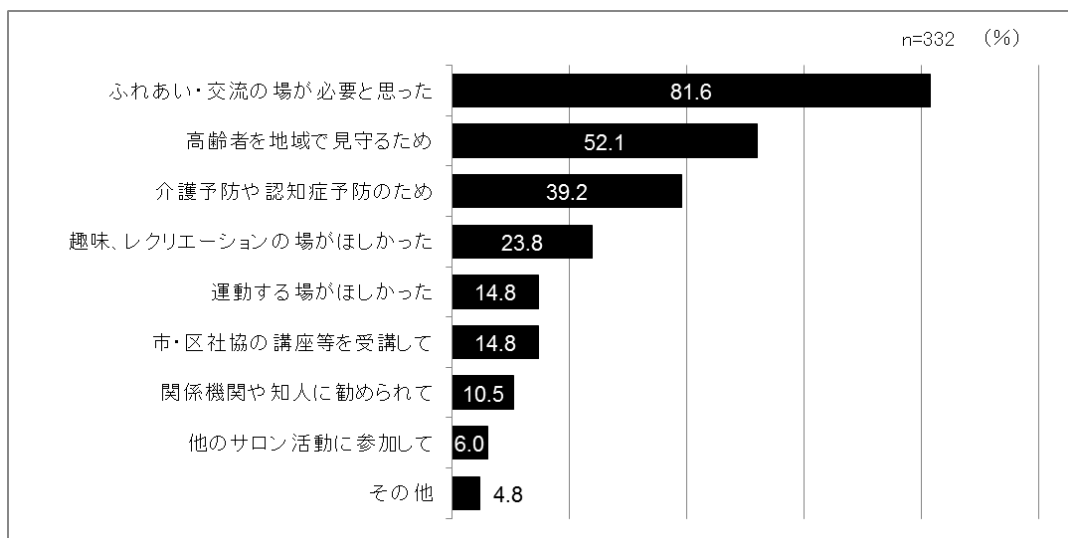
- ◆「ふれあい・交流の場が必要と思った」、「高齢者を地域で見守るため」、「介護や認知症予防のため」などの目的によりサロンを立ち上げており、それが結果的に健康に対する意識が高まり、認知症予防や、人との交流が増えることに繋がっていることから、設立当初の目的はサロン活動を通じて高い効果を上げています。

- サロンを設立した目的については「ふれあい・交流の場が必要と思った」(81.6%)が最も多く、次いで「高齢者を地域で見守るため」(52.1%)、「介護や認知症予防のため」(39.2%)、「趣味、レクリエーションの場がほしかった」(23.8%)となっており、人との交流や地域での見守りを目的としてサロンを立ち上げています。
- 人との交流や地域の見守りを目的に立ち上げたサロンは、サロン活動を通じて健康に対する意識を高め、認知症予防や、人との交流が増えることに繋がっていることや、参加者の高い満足度にも寄与していることから、高い効果を上げています。

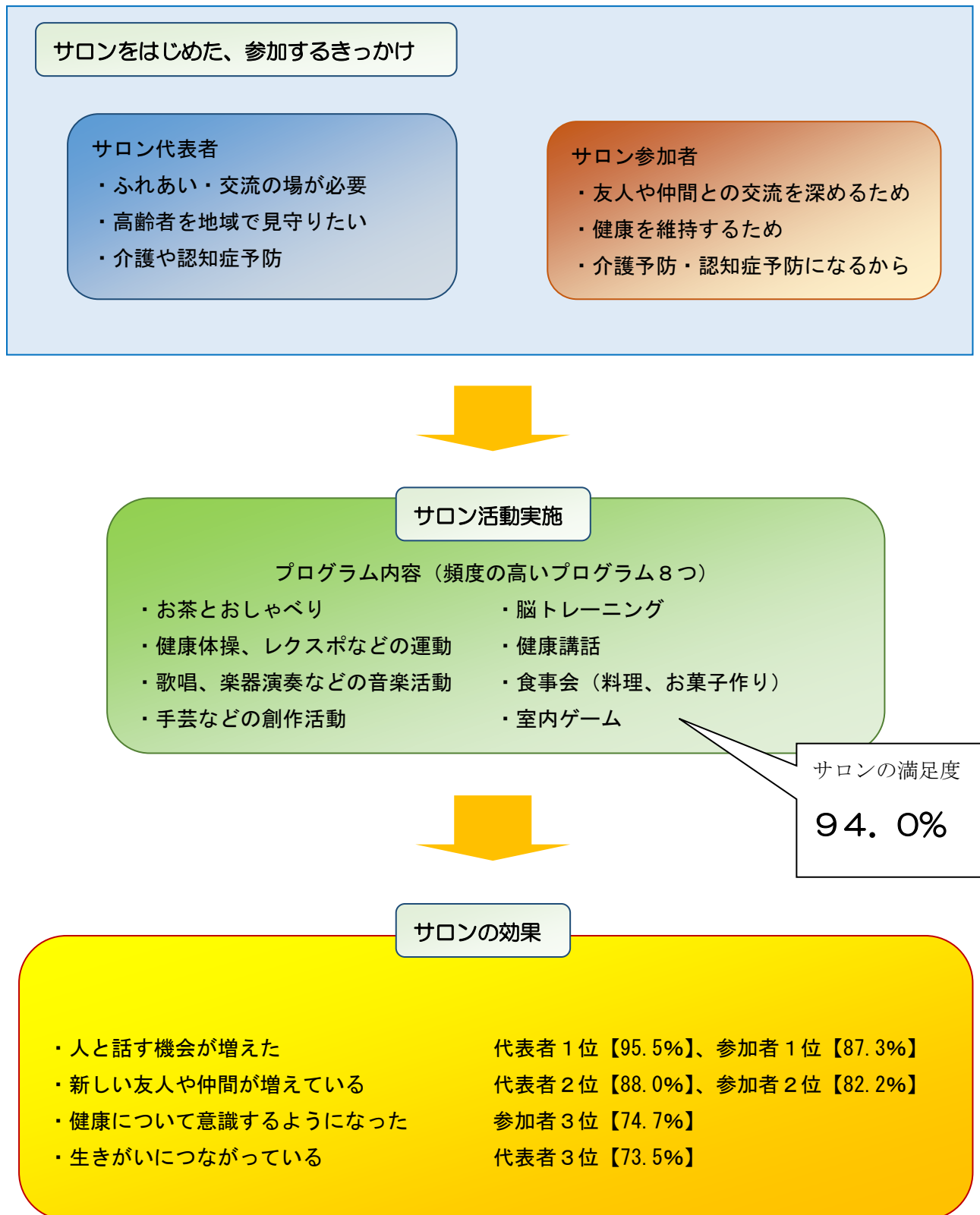
サロンをはじめたきっかけ (サロン代表者)

サロンをはじめたきっかけ	順位
ふれあい・交流の場が必要と思った	1位
高齢者を地域で見守るため	2位
介護や認知症予防のため	3位
趣味、レクリエーションの場がほしかった	4位

図 3-1-5 サロンをはじめたきっかけ



(4) サロンを始めた・参加したことによる状況変化概念図



第2章 高齢者の健康維持効果

(1) 検証結果

地域活動・ボランティア活動に参加するための、
徒歩による平均移動時間は
約 21.0 分(往復)、外出1回で約 1,800 歩の歩数増加

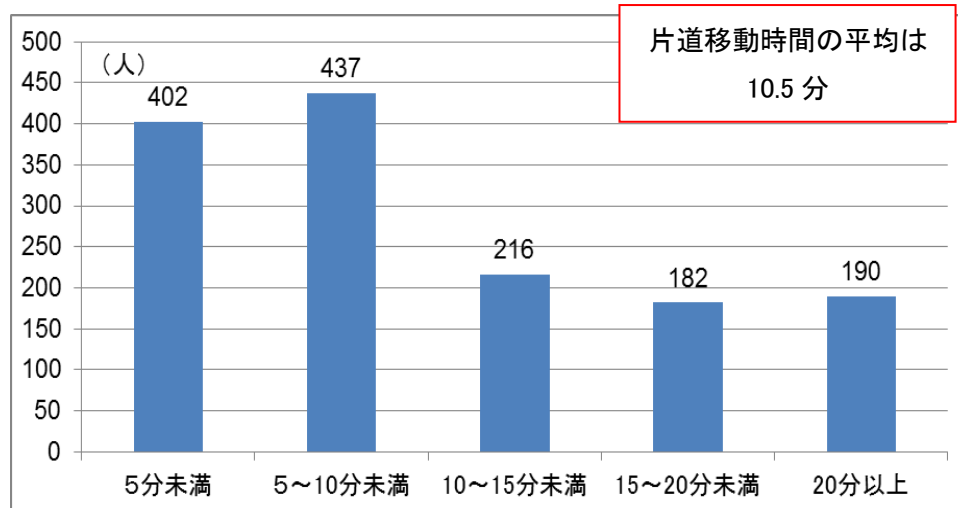
(2) 検証詳細

①自宅からサロン会場までの徒歩による平均移動時間

- ・実施したアンケート調査の結果から把握。

設問 自宅からサロン会場までの、徒歩による片道移動時間を教えてください。
(参加者アンケート：問2)

移動時間の分布



- ・往復で、平均 21.0 分となる。

②サロン1回あたりの移動による歩数

- ・①の1回あたりの平均移動時間と、「健康日本21（第二次）（厚生労働省）」に基づく高齢者の1分あたりの歩数の値を用いて、算出しました。

活動1回あたりの移動による歩数の計算

活動1回あたりの移動による歩数=21.0分（往復）×87歩/分=1,827歩

※平均歩数は「健康日本21（厚生労働省）」に基づく。

（高齢者の場合で15分を1,300歩、87歩/分）

1,400歩を上回る

- ・サロン活動に参加することで、
「健康日本21（第二次）（厚生労働省）」における
65歳以上の1日あたり歩数の増量目標である +1,400歩を達成することができる。

参考 「健康日本21（第二次）」身体活動・運動の健康に関する

生活習慣及び社会環境の改善に関する「日常生活における一日あたり歩数の増加」目標

年齢	現状（H22）	目標（H34）	目標増加歩数
20歳～64歳	男性 7,841歩	男性 9,000歩	男性 約1,200歩
	女性 6,883歩	女性 8,500歩	女性 約1,600歩
65歳以上	男性 5,628歩	男性 7,000歩	男性 約1,400歩
	女性 4,584歩	女性 6,000歩	女性 約1,400歩

出典：「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次）」

第3章 サロン活動の拡大及びサロンの機能強化

名古屋市社会福祉協議会「第2次経営戦略計画（平成27～31年度）」における、ふれあい・いきいきサロンの目標設置数は下表のとおり、平成30年度で1,622か所（うち、高齢者・共生サロン1,103か所）とされていましたが、平成30年11月現在の実績は1,817か所（うち、高齢者・共生サロン1,391か所）と平成31年度の目標数を上回っています。

設置数においては、目標を達成していますが、今後は、「はつらつ長寿プラン2018」の計画目標である「小学校区内で身近に通えるよう整備」を踏まえ、引き続き地域の実情に応じた目標数を設定し、未設置学区への設置を進めていきます。

また、既存のサロンについては、現在のサロンの継続運営と、若い世代や男性、家にひきこもりがちな人など、これまでに参加していない人への参加呼びかけの必要性があります。サロンの内容やプログラムを一層、充実させ、参加者にとっては、より参加しやすく有意義な内容に、そして運営側にも、やりがいや楽しみを感じながら、無理なく運営継続できるようにすることが求められます。

今回のアンケート結果から、今後のサロン活動の拡大、機能強化に向けての課題は、参加者の多様化、プログラムの充実、参加者との交流方法の多様化であると考えられます。

表 3-3-1 「目標設置数と実績」

		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
ふれあい・いきいきサロン 実施個所	目標値	1,279	1,489	1,622	1,770
	実績値	1,395	1,655	1,817	—
高齢者・共生サロン数	目標値	818	1,000	1,103	1,216
	実績値	973	1,233	1,391	—

（目標値：「第2次経営戦略計画」より 実績値：社会福祉協議会調べ）

(1) サロン活動の拡大、機能強化に向けての課題①「参加者の多様化」

◆男性の参加者が少ないことや、リーダーや後継者が育たないこと、メンバーや役員の高齢化や世代の偏りがあること等が課題として挙がっており、サロンの継続活動と拡大のためには、参加者の多様化と、主体となって担う人材の確保、そして担い手自身が楽しんで運営できる無理のない体制づくりが課題として挙げられます。

○サロン代表者への調査で、サロンを運営するにあたり、悩みや困っていることがあると答えた回答者に、その内容をたずねたところ、「男性の参加者が少ない」が43.8%と最も割合が高く、次いで「リーダーや後継者が育たない」(40.9%)、「スタッフの高齢化や世代の偏り」(37.2%)、「特定のスタッフへの責任や負担の集中」(36.5%)と続いています。(図3-3-2)

○サロン活動が、今後より一層発展するために必要なこととしては、「地域住民へのサロン活動の周知」が71.7%と最も割合が高くなっています。健康で外出が可能でも、家に閉じこもりがちな高齢者はまだまだ多く、サロン活動の内容を知ってもらい、参加してもらうことが、まずは必要であると認識されています。次いで「新たな担い手の確保」(65.7%)、「継続的な運営助成や補助」(60.8%)、「男性参加者の増加」(52.4%)と続いています。(図3-3-3)

○また、サロン参加者の増減別に、「サロン活動継続のため、心がけていることや取り組んでいること」を見ると、サロン参加者が増えているサロンは、減っているサロンよりも「スタッフ自身も楽しんでいる」が21.9ポイント、「参加者の声を尊重している」が9.7ポイント、「参加者が役割を持っている」が9.1ポイントと、いずれも高くなっています。(図2-4-5)

○以上のことから、参加者の多様化、特に男性参加者の増加と、主体となって担う人材の確保、そして担い手自身が楽しんで運営できる無理のない体制づくりが課題として挙げられます。

図3-3-2 活動上の悩みや困っていること

(代表者「悩みや困っていることがある」と回答した137名対象)

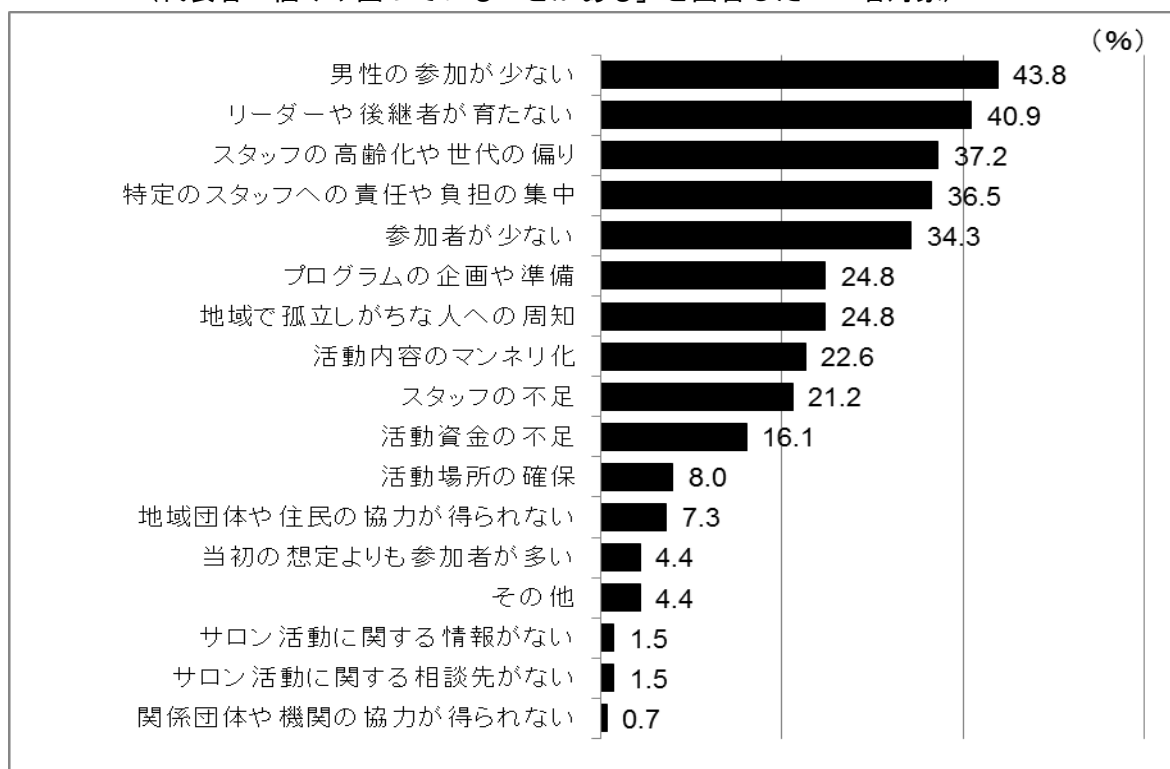
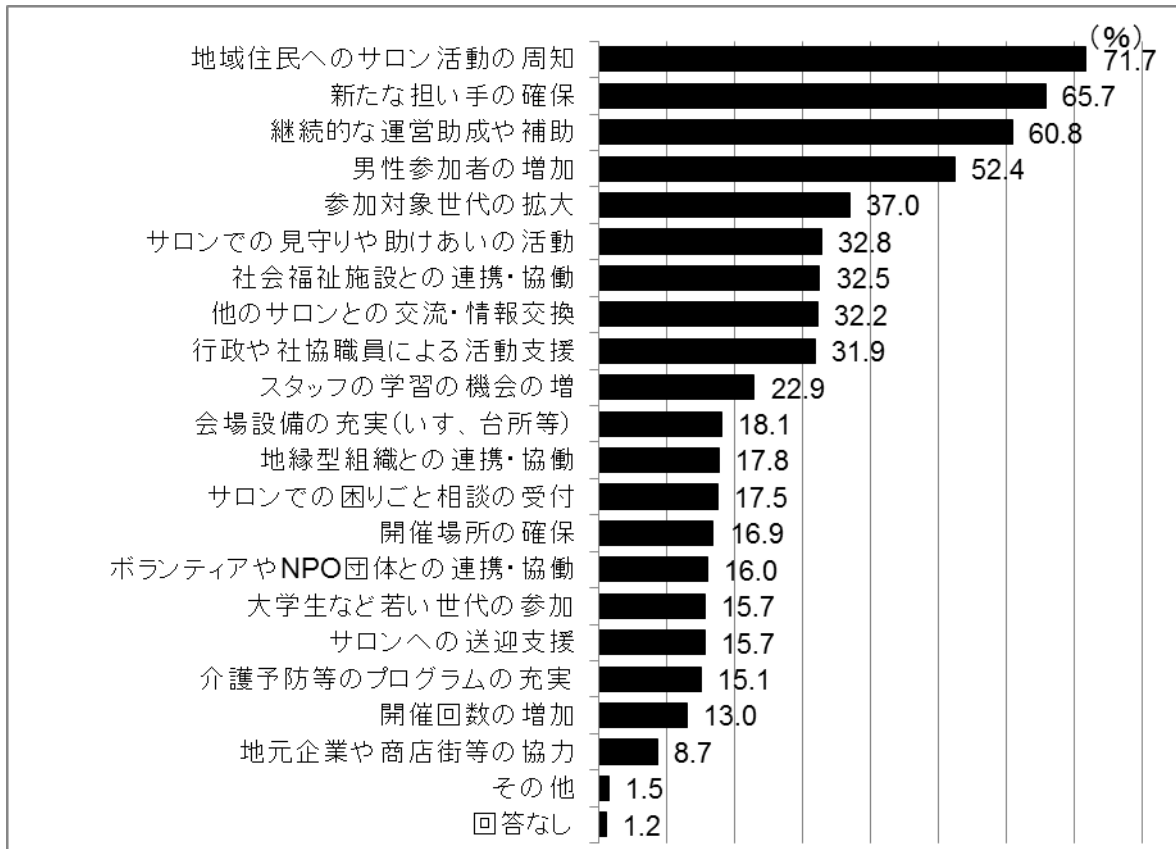
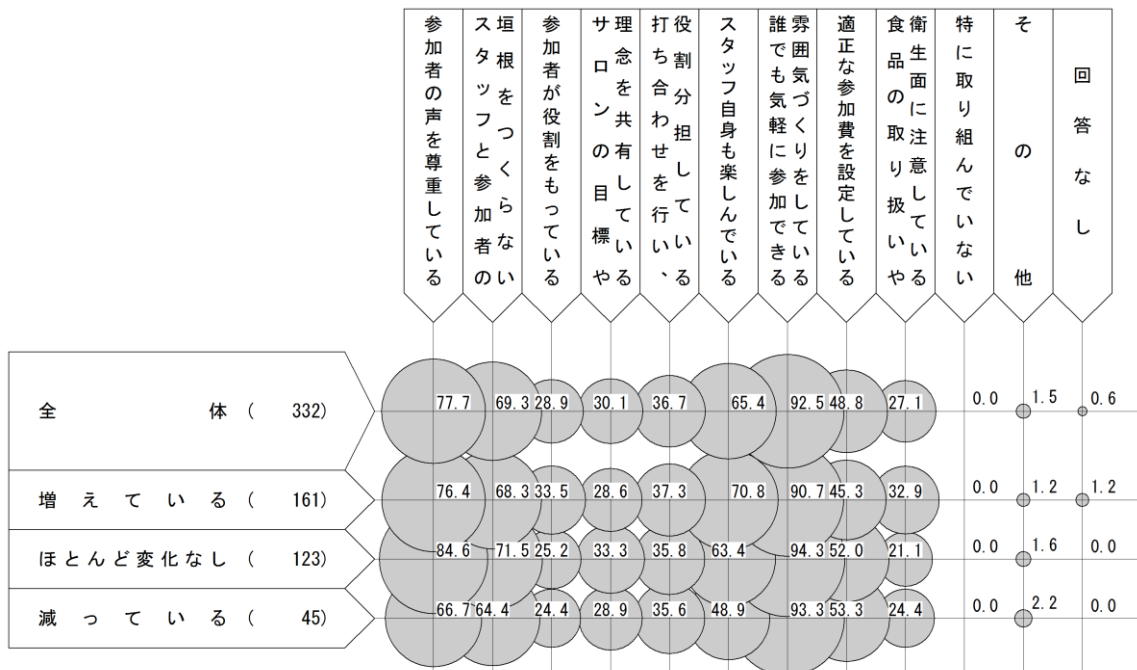


図 3-3-3 サロン活動がより一層発展するために必要だと思うこと(代表者 n=332)



【再掲】図 2-4-5 サロン参加者の増減別「サロン活動継続のため、心がけていることや取り組んでいること」



(2) サロン活動の拡大、機能強化に向けての課題②「プログラムの充実」

◆サロン活動の継続、拡大のために、プログラム・内容の充実は運営側にも参加者にも、強く求められています。また、「お茶とおしゃべり」や「健康体操」等の現在、喜ばれているプログラムについては、継続や内容の充実を図り、参加者の多様化に向けては、性別、世代別等、対象者別のニーズ把握が課題であると考えられます。

○参加者に今後のサロン活動に必要なことを聞くと、「プログラムや内容の充実」が62.0%と最も多く選ばれています。(図3-3-4)

○現在提供しているプログラムの中で代表者が特に喜ばれていると感じているのは「お茶とおしゃべり」が62.3%と最も多く、「健康体操、レクスポなどの運動」(41.3%)、「音楽活動(歌唱・楽器演奏)」(30.1%)と続きます。(図3-3-5)

○また、参加者に今後、充実すべきプログラム・内容を聞くと、「健康体操」が64.0%と最も多く、「お茶とおしゃべり」(49.1%)、「脳トレーニング」(41.0%)と続きます。(図3-3-6)

○男女別で今後、充実すべきプログラム・内容の上位5つを見ると、「健康体操」が第1位、「お茶とおしゃべり」が第2位であることは同じですが、女性では最下位であった「囲碁・将棋・麻雀等」が男性は第3位にあげています。(表3-3-7)

○今後のサロン活動の拡大にプログラム・内容の充実は強く求められており、「お茶とおしゃべり」や「健康体操」といった、現在喜ばれているプログラムは継続や内容の充実を図り、参加者の多様化に向けては、性別、世代別等、対象者別のニーズ把握が課題と考えられます。

図3-3-4 参加者：今後のサロン活動に必要なこと

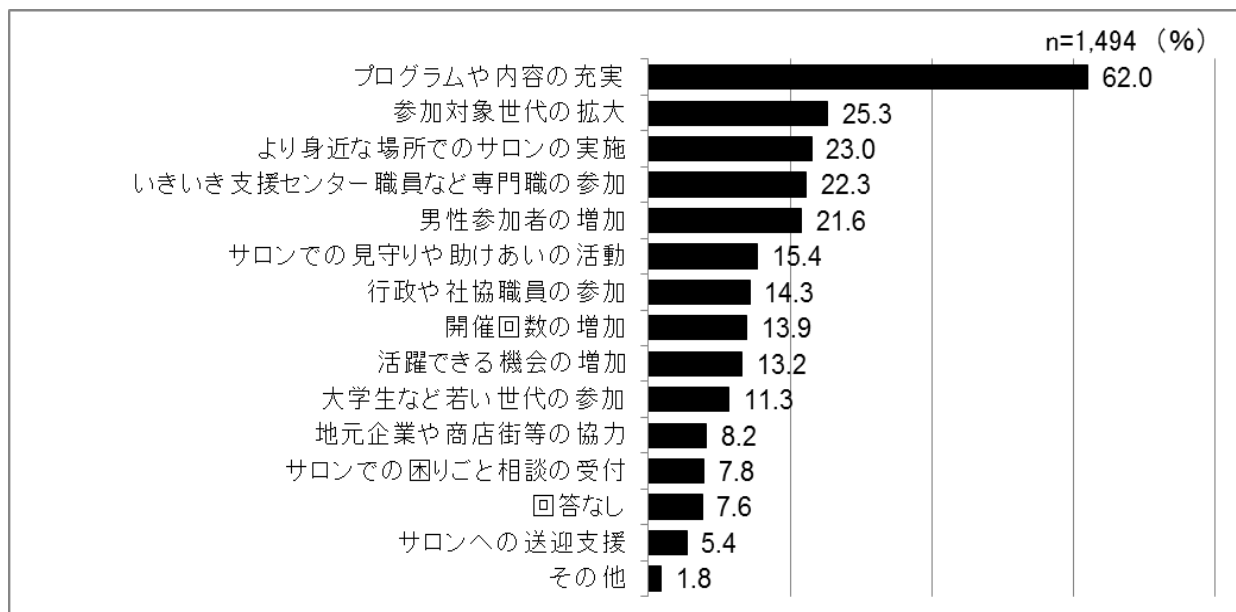


図 3-3-5 代表者：喜ばれているプログラム

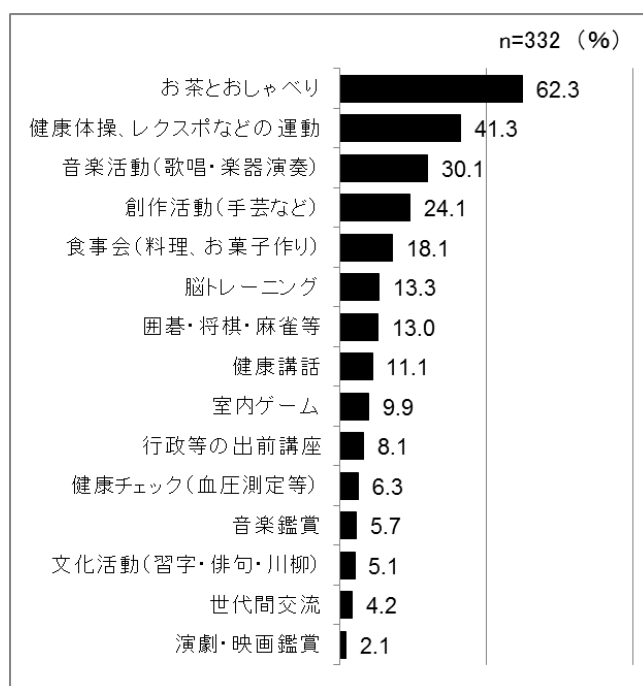


図 3-3-6 参加者：充実すべきプログラム・内容



表 3-3-7 男女別 充実すべきプログラム・内容 ベスト5

順位	女性 (n=752)	(%)	男性 (n=156)	(%)
1位	健康体操	67.6	健康体操	46.2
2位	お茶とおしゃべり	51.3	お茶とおしゃべり	39.1
3位	脳トレーニング	42.7	囲碁・将棋・麻雀等	38.5
4位	健康講話	38.0	健康講話	35.9
5位	音楽活動 (歌唱・楽器演奏)	36.7	脳トレーニング	31.4

(3) サロン活動の拡大、機能強化に向けての課題③「参加者との交流方法の多様化」

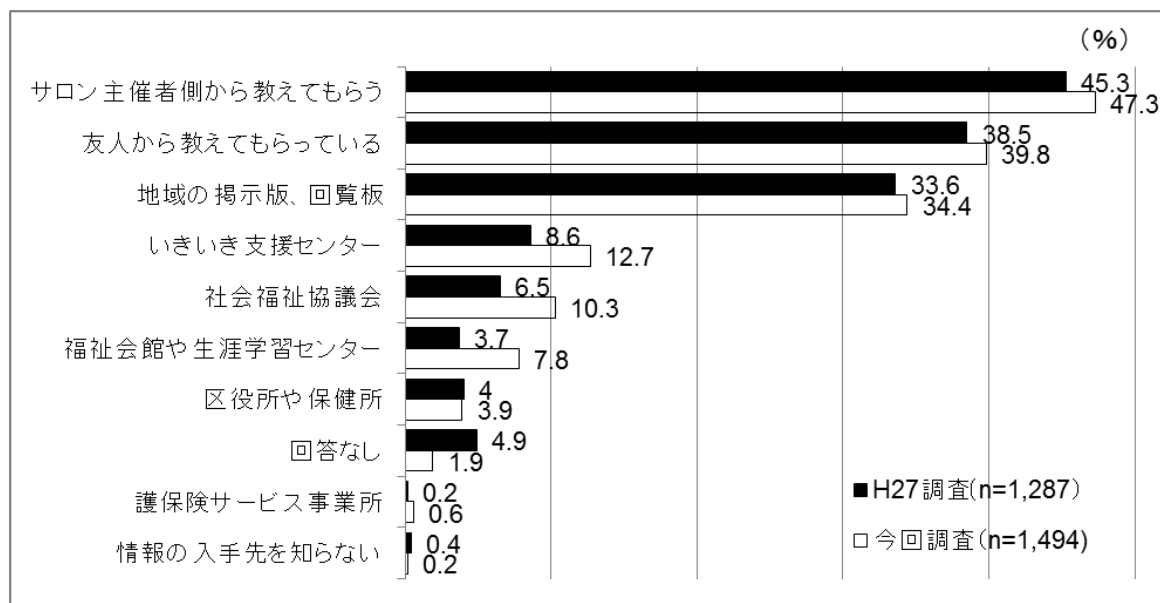
① サロン情報の提供方法の多様化

◆ サロン開催にあたり、主催者側からや参加者同士の口コミが主な伝達手段ではありませんが、サロン活動の継続や、これまでに地域コミュニティに参加したことのない、若い世代や男性の参加を促進するためには、公的機関からの情報提供促進が求められます。

○ サロンに関する情報の入手先を、前回調査(H27年度)の結果と比較すると、「サロン主催者側から教えてもらう」、「友人から教えてもらっている」、「地域の掲示板、回覧板」が主な入手先であることに変わりはありませんが、「いきいき支援センター」が3.9%増加、「社会福祉協議会」が3.8ポイント増加、「福祉会館や生涯学習センター」が4.1ポイント増加と、各機関における広報活動の成果が表れています。

○ サロン開催にあたり、主催者側からや参加者同士の口コミが主な伝達手段ではありますが、今後、サロン活動の継続や、これまでに地域コミュニティに参加したことのない、若い世代や男性の参加を促進するためには、公的機関からの情報提供の一層の工夫が課題と言えます。

図 3-3-6 参加者：サロンに関する情報の入手先



②サロンの相談機能の強化

◆サロンでは、参加者の「サロンの何気ない会話から困りごとの把握」をすることや、「参加者同士での見守りや助け合い」をすること、「困りごとを話せる場や機会づくり」などサロンの訪問を通じて、困りごとの発見や支え合いによる解決、見守りといった相談機能を発揮できるよう、取り組みが進んでいます。今後はさらにいきいき支援センターや保健センターなどの関係機関とサロンをつなぐよう、サロンと関係機関とのネットワークづくりが求められます。

- サロン代表者に参加者の困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいることを聞いたところ、「何気ない会話から困りごとの把握」が64.8%と最も高く、「参加者同士での見守りや助け合い」(58.1%)、「困りごとを話せる場や機会づくり」(46.1%)と続きます。(図3-3-7)
- また、参加者に困りごとの相談相手を聞くと、「家族(親族)」(79.5%)、「友人」(48.5%)に次いで、「サロンの仲間」(18.2%)と第三位にあげられています。「サロンのスタッフ」は8.3%と現段階では少数ですが、高齢者の一人暮らしはますます増加する傾向にあり、今後は家族や親族に代わる相談相手として、期待されると考えられます。(図3-3-8)
- 数値としては大きくはありませんが、いきいき支援センターや区役所・保健センター、社会福祉協議会といった関係機関よりも「サロンの仲間」が相談相手として多く選ばれており、サロンの訪問等を通じて、困りごとの発見、支えあいによる解決、見守りといった機能をサロンが担い、また地域住民では解決が難しい課題については、いきいき支援センターや保健センターなどの関係機関に橋渡しするよう、ネットワークづくりを進めることが求められます。

図3-3-7 代表者：参加者の困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいること (n=332)

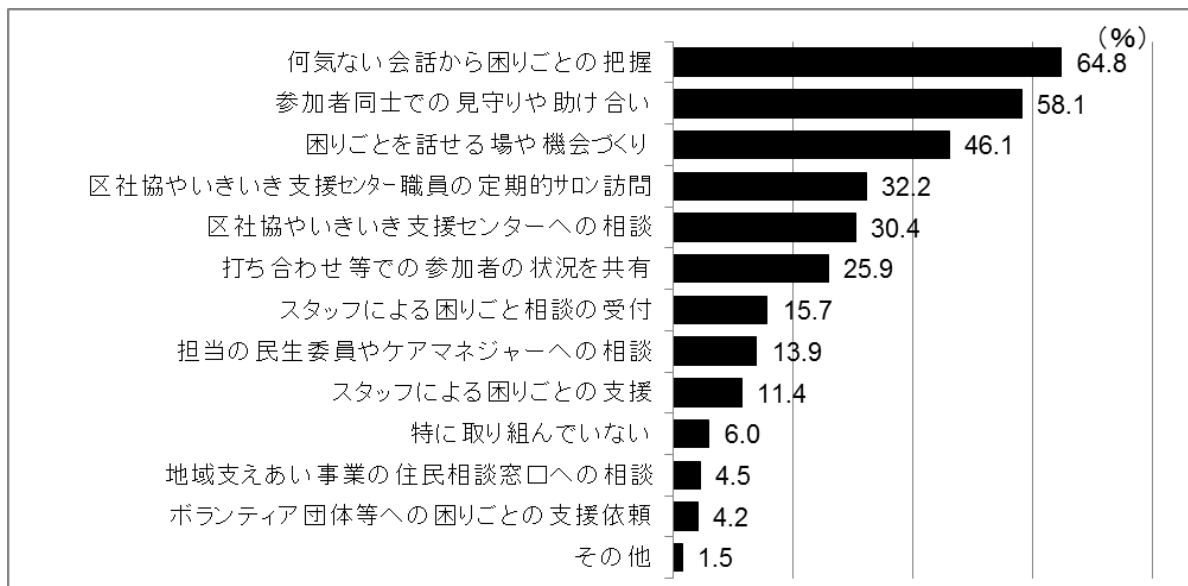
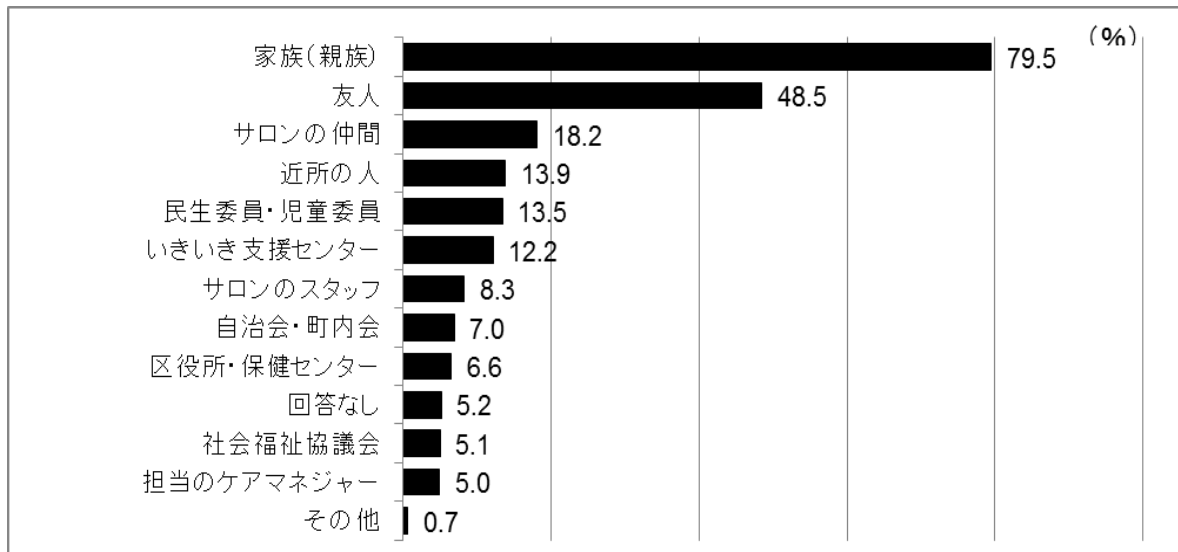


図 3-3-8 参加者：困りごとの相談相手 (n=1,494)



(4) 社会福祉協議会に期待する支援策

アンケートの最後に、回答者 332 名のうち、218 名がサロン活動に対する思いを自由記入してくれました。その中から、社会福祉協議会に期待する支援策についてのコメントを抜粋します。

代表者アンケート 自由記入欄より抜粋

- ・より充実したプログラムづくりや会場確保のため、助成を拡大してほしい。
- ・参加者に呼びかけるため、サロンの意義、目的などについて理解しやすいポスター、チラシが欲しい。また説明に来てほしい。
- ・講師、指導者候補の一覧表（指導できる内容やギャラの情報）があると良い。
- ・福祉訪問の際にはプログラムについてのアイデアを教えてほしい。
- ・社会福祉協議会が音頭を取って、16 区のサロンの代表者の意見交流の場を開催してほしい。
- ・保育園や他団体と連携をしたい。社協の力を貸してほしい。
- ・今後のサロン活動の発展を真剣に考えてやってほしい。 等

サロンの現状

●サロン設置目標数は達成

高齢者・共生サロンに関しては、目標設置数を達成。未設置学区は3学区あり。

●代表者・参加者ともに

満足度が高い。

サロンの代表者および、現在すでに参加している人の満足度は高く、継続参加を望んでいる。

●口コミによるPRが中心

サロンの紹介は、依然として口コミが主流で効果的ではあるが、今後は、新たな参加者を発掘するための工夫が必要。

サロンの課題

①参加者・担い手の多様化

- ・これまでに地域との交流の希薄な人（特に男性）への参加の働きかけ
- ・担い手に負担が少なく、楽しく安定的・継続的に運営できる体制の確立
- ・主体となって担う人材の確保、スムーズな世代交代

②プログラムの充実

- ・現在の人気のあるプログラムの継続
- ・未参加層のニーズ把握
- ・講師・指導者の確保
- ・会場の確保

③参加者との

交流方法の多様化

- ・サロン情報の提供方法の多様化
- ・サロンの相談機能の強化

社協に求められる支援

●サロン活動の

継続的な把握

- ・運営側・参加側双方のニーズ把握
- ・各サロンの取組の情報共有
- ・サロンに対する助成制度の継続と見直し

●担い手の確保の支援

- ・サロンを支えるボランティアの育成及び確保の支援
- ・講師情報や会場情報の整理・提供
- ・PRツールの紹介、作成

●相談機能強化支援

- ・サロン訪問の継続
- ・いきいき支援センターや保健センターなど関係機関や社会福祉施設等とのネットワークづくり

発行日：平成31年3月

発行：社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会
名古屋市北区清水四丁目17番1号
名古屋市総合社会福祉会館5階